
第 26 回
市政に関する世論調査

調査報告書

平成 29 年度

鹿 沼 市

目 次

第1章 調査の概要・調査票

1	調査目的.....	1
2	調査の設計.....	1
3	調査部署.....	1
4	回収結果.....	1
5	報告書の表記について.....	1
6	調査票.....	3

第2章 回答者の属性

1	性別.....	15
2	年代別.....	15
3	職業別.....	16
4	居住地区別（15地区）.....	17
5	居住地区別（2地区）.....	18
6	居住年数別.....	18

第3章 調査結果の分析

1	暮らしの変化.....	19
2	市政に対する現状評価等.....	31
3	市の魅力の発信.....	36
4	市制70周年記念事業.....	42
5	公共施設の適正配置.....	45
6	人権行政.....	48
7	市民のスポーツ・レクリエーション活動.....	55
8	観光・地域活性化.....	63
9	図書館の利用.....	72
10	救急・救命活動.....	78
11	広報活動.....	90

第 1 章

調査の概要・調査票

1 調査目的

市民の生活や市政に関するご意見やご要望を把握し、今後の市政運営のあり方の基礎資料とすることを目的としている。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 鹿沼市全域
- (2) 調査対象 平成 29 年 7 月 1 日現在、鹿沼市に居住する満 20 歳以上 80 歳未満の男女
- (3) 対象人数 2,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
(①地域別・②性別・③年代別)
- (5) 調査時期 平成 29 年 9 月 14 日 (木) ～ 9 月 29 日 (金)
- (6) 調査方法 郵送による配付・回収及びインターネット回収
- (7) 調査内容 属性質問 5 問 一般設問 30 問

3 調査部署 鹿沼市総務部鹿沼営業戦略課

4 回収結果

標本数	回収数	回収率
2,000 標本	840 件	42.0%

5 報告書の表記について

- (1) 調査結果の構成比はすべて百分比 (%) で表しており、その質問の回答者総数を基数として、小数第 2 位以下を四捨五入して算出している。なお、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答形式の場合、構成比の合計は通常 100%を超える。
- (3) グラフ中の「n」(net)とは、その質問への回答者数を表す。
- (4) クロス集計では、例えば性別の場合、性別を回答していない人がいるため、男性と女性の合計が「全体」と一致しない。年齢や他の設問間クロス集計においても同様となる。また、項目の無回答を除いて集計しているため、各項目の「n」の合計が「全体」と一致しない場合がある。
- (5) 質問の選択肢は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがある。
- (6) 標本数 (n) が 10 未満の項目についてはコメントをしない。
- (7) 単一回答 (Single Answer) 形式を (S A)、複数回答 (Multi Answer) 形式を (M A) と、省略して表記している場合がある。



第26回市政に関する世論調査票

平成29年9月

あなたご自身についてお答えください あてはまる番号を1つ選んでください

1 あなたの性別は。

- 1 男 2 女

2 あなたの年齢は。

- 1 20代 2 30代 3 40代
4 50代 5 60代 6 70歳以上

3 あなたの職業は。

- 1 専門職（医師、弁護士、大学教授、僧侶等）
- 2 管理職（官公庁や事業所の重役、部課長等）
- 3 事務・技術職（一般事務、公務員、技師、教員、看護師等）
- 4 販売・生産・労務職（店員、工員、職人、運転手、作業員等）
- 5 農林水産業従事者
- 6 自営業
- 7 パート・アルバイト
- 8 主に家事、育児をしている
- 9 学生
- 10 無職
- 11 その他

4 あなたのお住まいの地区は。

- | | | |
|-----------------|--------|-------|
| 1 鹿沼（中央・東部・北部） | 2 板荷 | 3 西大芦 |
| 4 加蘇 | 5 北犬飼 | 6 南摩 |
| 7 南押原 | 8 東大芦 | 9 菊沢 |
| 10 北押原 | 11 東部台 | 12 栗野 |
| 13 粕尾 | 14 永野 | 15 清洲 |
| 16 地区名がわからない（町名 | | ） |

5 鹿沼市（旧栗野町を含む）に住んで何年ですか。（通算で）

- 1 5年以下 2 6～10年 3 11～20年
4 21年以上

1) 暮らしの変化

問1 あなたの生活は、暮らし向きや生活環境等を含めて、総じて2～3年の間にどう変わったと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 かなり良くなった ⇒ 問2へ
- 2 少し良くなった ⇒ 問2へ
- 3 変わらない
- 4 少し悪くなった ⇒ 問3へ
- 5 かなり悪くなった ⇒ 問3へ

問1で1番あるいは2番とお答えの方にお聞きします。

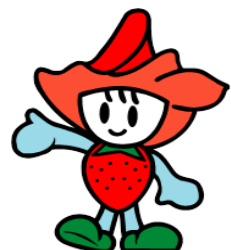
問2 どういうところが良くなったと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 家計の状態
- 2 通勤や買い物の便利さ
- 3 道路や上下水道等の公共設備の向上による生活の便利さ
- 4 道路や通学路の安全性
- 5 商品の品質・安全性
- 6 ごみの収集や処理の状況
- 7 地域活動やサークル活動等への参加のしやすさ
- 8 近所の風紀
- 9 レジャー施設
- 10 その他 ()

問1で4番あるいは5番とお答えの方にお聞きします。

問3 どういうところが悪くなったと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 家計の状態
- 2 通勤や買い物の便利さ
- 3 道路や上下水道等の公共設備の向上による生活の便利さ
- 4 道路や通学路の安全性
- 5 商品の品質・安全性
- 6 ごみの収集や処理の状況
- 7 地域活動やサークル活動等への参加のしやすさ
- 8 近所の風紀
- 9 レジャー施設
- 10 その他 ()



2) 市政に対する現状評価等

問4 現在の鹿沼市の施策や生活環境について、どのように感じているかお答えください。
下記の項目ごとに、評価欄にある番号に○印を付けてください。

評価基準： 1 満足 2 やや満足 3 普通 4 やや不満 5 不満

	項 目	評 価				
1	子どもの遊び場、公園の整備	1	2	3	4	5
2	住宅施策の充実（宅地、市営住宅、空き家）	1	2	3	4	5
3	上水道の整備	1	2	3	4	5
4	下水道の整備	1	2	3	4	5
5	ごみ処理対策（分別、リサイクル等）	1	2	3	4	5
6	河川の整備	1	2	3	4	5
7	環境保全対策（美化運動、不法投棄対策等）	1	2	3	4	5
8	公害対策（騒音、大気汚染、放射能、水質汚濁防止等）	1	2	3	4	5
9	資源エネルギー対策	1	2	3	4	5
10	区画整理事業・中心市街地の整備	1	2	3	4	5
11	公共交通機関の整備	1	2	3	4	5
12	道路・歩道の整備	1	2	3	4	5
13	地域産業の振興	1	2	3	4	5
14	農業の振興	1	2	3	4	5
15	林業の振興・森林資源の活用	1	2	3	4	5
16	商工業の振興	1	2	3	4	5
17	観光の振興	1	2	3	4	5
18	保健・医療体制の充実	1	2	3	4	5
19	高齢者福祉の充実	1	2	3	4	5
20	障がい福祉の充実	1	2	3	4	5
21	子育て支援の充実	1	2	3	4	5
22	人口減少対策への対応（少子化、結婚出産対策）	1	2	3	4	5
23	地域における福祉活動	1	2	3	4	5
24	消防・救急・救助体制	1	2	3	4	5

裏面に続く

評価基準： 1 満足 2 やや満足 3 普通 4 やや不満 5 不満

25	防災対策・災害に対する安全性	1	2	3	4	5
26	交通安全対策	1	2	3	4	5
27	人権が尊重される明るい社会の実現	1	2	3	4	5
28	男女共同参画社会の形成	1	2	3	4	5
29	学校教育の充実	1	2	3	4	5
30	生涯学習の推進	1	2	3	4	5
31	青少年の健全育成	1	2	3	4	5
32	芸術文化の振興	1	2	3	4	5
33	スポーツ・レクリエーション施策の充実	1	2	3	4	5
34	情報インフラの整備	1	2	3	4	5
35	国際化の推進	1	2	3	4	5
36	広報・広聴の充実	1	2	3	4	5
37	雇用環境の充実	1	2	3	4	5
38	地域でのコミュニケーション、近所づきあい	1	2	3	4	5
39	日常の買い物の利便性	1	2	3	4	5
40	市の魅力の発信、イメージアップPR	1	2	3	4	5
41	定住移住策の推進	1	2	3	4	5
42	中山間地域の振興	1	2	3	4	5
43	自然環境の豊かさ	1	2	3	4	5
44	他市等との広域連携、都市間交流	1	2	3	4	5
45	市役所職員の市民への対応（説明の分かりやすさ等）	1	2	3	4	5
46	まちの住みやすさ	1	2	3	4	5

問5 問4の46項目の中から、今後のまちづくりで特に重点をおくべきと思う項目を5つ選んで、番号を記入してください。

--	--	--	--	--

3) 市の魅力の発信

問6	かぬまブランド品として、「いちご」「かぬま和牛」「鹿沼そば」「さつき」「鹿沼こんにゃく」「鹿沼組子」等39品目あります。あなたは、かぬまブランド品をご存じですか。次の中から <u>1つ</u> 選んでください。
----	---

- 1 ほとんど知っている ⇒ 問7へ
- 2 半分程度は知っている ⇒ 問7へ
- 3 1品～5品程度は知っている ⇒ 問7へ
- 4 知らない



問6で1番、2番、3番とお答えの方にお聞きします。

問7	あなたがご友人やご親戚におすすめする、かぬまブランド品は何ですか。 <u>5品まで</u> 選んで○をつけてください。
----	--

農作物	1 スギ材 2 ヒノキ材 3 いちご 4 にら 5 なし 6 トマト 7 さつき 8 さつきポーク 9 さつきの舞(米) 10 はちみつ 11 麻 12 かぬま和牛 13 里山まいたけ 14 板荷茶 15 スプレーマム(菊)
木工品	16 鹿沼組子 17 木製学習机・椅子 18 鹿沼寄木 19 New KANUMA シリーズ(木製日用品) 20 布団干し機能付きすのこベッド
加工品	21 鹿沼そば 22 鹿沼こんにゃく 23 はとむぎ製品
菓子	24 焼きんとん 25 屋台最中 26 はとむぎサブレ 27 美たまるかすてら 28 泣き相撲シリーズ 29 芭蕉のそば餅 30 医王焼 31 いちご大福(錦京堂) 32 いちご大福(光陽堂) 33 ハニージェラート
酒	34 里山ワイン 35 はとむぎ美人(焼酎) 36 美たまる(焼酎) 37 発光路強力(清酒) 38 鹿沼娘(清酒)
民芸品	39 きびがら細工

問8 鹿沼市は、平成28年11月に「いちご市」宣言を行う等、「いちご」による様々なPR活動をしています。あなたは「いちご市」という文字や言葉を見た・聞いたことはありますか。
また、「いちごいちえ」、「ベリーちゃん」等のロゴマークやキャラクター、イベント、看板等を見た・聞いたことがありますか。次の中から1つ選んでください。



いちご市ロゴマーク



いちごいちえロゴマーク



ベリーちゃん

- 1 すべて見たり聞いたりしたことがある
- 2 いくつかは見たり聞いたりしたことがある
- 3 見たことも聞いたこともない

4) 市制70周年記念事業

問9 鹿沼市が市制を施行した昭和23年から来年で、70周年を迎えます。そこで本市では、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの間、市制70周年の記念事業を実施する予定です。記念事業に期待することを次の中から1つ選んでください。

- 1 市民参加
- 2 地域振興
- 3 健康づくり
- 4 環境への配慮
- 5 地域に愛着が湧く取組
- 6 未来を見据え、こどもが中心となる事業
- 7 単発では終わらない継続的な効果
- 8 いちご市や鹿沼今宮神社祭の屋台行事のユネスコ登録等を大きくPRする事業
- 9 その他 ()

問10 記念事業を盛り上げる工夫についてアイデアをお寄せください。

(自由記述)

5) 公共施設の適正配置

問 11 今後、公共施設のあり方を見直す際に、どのような施設から検討していくべきと考えますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設
- 2 周辺自治体の施設と役割または機能が重複している施設
- 3 民間施設と役割または機能が重複している施設
- 4 維持管理費や建替え費用等コストのかかっている施設
- 5 市内の各地区にある利用者が限定されている施設
- 6 その他

6) 人権行政

問 12 あなたはこの1年間に、自分または身近な子どもの人権が侵害されたと感じたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 女性または男性として人権を侵害された
- 2 障がい者または病気の患者として人権を侵害された
- 3 自分の子どもが人権を侵害された
- 4 他人の子どもが人権を侵害された
- 5 高齢者として人権を侵害された
- 6 同和問題の関係者として人権を侵害された
- 7 職場の人間関係で人権を侵害された
- 8 その他 ()
- 9 特に人権を侵害されたことはない

問 13 あなたは同和問題について、どのような受け止め方をしていますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 同和関係の人に良いイメージを感じる。具体的に ()
- 2 同和関係の人に悪いイメージを感じる。具体的に ()
- 3 同和関係の人に良いイメージも悪いイメージも特に感じない。
- 4 同和問題とは何か知らない。
- 5 その他 ()

問 14 あなたはどのような人権問題の解決を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 女性または男性等の性別による差別の解決
- 2 障がい者または病気の患者への人権侵害の解決
- 3 子どもに対するいじめや虐待等の解決
- 4 高齢者への人権侵害の解決
- 5 同和関係者への差別の解決
- 6 職場でのいじめや差別の解決
- 7 その他 ()

7) 市民のスポーツ・レクリエーション活動

問15 あなたはこの1年間、どのくらいスポーツやレクリエーションをしましたか。
(ウォーキング、ジョギング等も含みます。) 次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|----------|
| 1 ほとんど毎日 | 2 週に1回以上 |
| 3 月に1回、2回 | 4 年に数回 |
| 5 ほとんどやらない | |

問16 あなたが参加したいスポーツやレクリエーションの大会、教室、講座はなんですか。
次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1 初心者を対象としたもの | 2 健康づくりを目的としたもの |
| 3 家族で参加できるもの | 4 年齢や性別で分けられたもの |
| 5 その他、参加したい大会・教室・講座名があればお書きください | |
| (|) |

問17 あなたが鹿沼市のスポーツ施設に望むことはなんですか。
次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 利用手続きの簡素化 | 2 利用料金の引き下げ |
| 3 施設の充実(設備等の新設・修復) | 4 開催イベント等の情報発信向上 |
| 5 その他 | |
| (|) |

8) 観光・地域活性化

問18 あなたは現在、どのくらいの頻度で温泉又は銭湯を利用していますか。次の中から
1つ選んでください。

- | | |
|----------|-------------|
| 1 週1回以上 | 2 月1回以上 |
| 3 年に数回程度 | 4 ほとんど利用しない |

問19 温泉又は銭湯を利用する場合、どのような所に行きますか。次の中からいくつでも
選んでください。

- | | | |
|---------|-------------|---------|
| 1 市内の温泉 | 2 市外の温泉(県内) | 3 県外の温泉 |
| 4 市内の銭湯 | 5 市外の銭湯(県内) | 6 県外の銭湯 |

問20 車で30分以内であれば、どのくらいの頻度で行きたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|---------|
| 1 週1回以上 | 2 月1~2回 |
| 3 2か月~半年に1回 | 4 年1回 |
| 5 行きたいと思わない | |

9) 図書館の利用

問 21 図書館のうち1年以内に利用した施設を、次の中からいくつでも選んでください。

- 1 図書館本館 2 東分館 3 栗野館
4 利用したことがない ⇒ 問 23 へ

問 22 図書館を利用した目的について、次の中からいくつでも選んでください。

- 1 図書、視聴覚資料等を借りる 2 勉強や学習
3 行事や催し物に参加 4 その他 ()

問 21 で 4 番とお答えの方にお聞きします。

問 23 図書館を利用しない理由について、次の中からいくつでも選んでください。

- 1 本や必要な情報は行かなくても手に入る 2 必要な本や資料がない
3 図書館が遠い 4 本は購入する
5 その他 ()

10) 救急・救命活動

問 24 あなたは、心肺蘇生法の講習会に参加したことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 ある (3年未満)
2 ある (3年以上前)
3 ない (今後、受けようと考えている)
4 ない (今後も参加するつもりはない)

問 25 あなたは、いざというとき心肺蘇生ができますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 胸骨圧迫 (心臓マッサージ) と人工呼吸のどちらもできる
2 胸骨圧迫 (心臓マッサージ) のみできる
3 人工呼吸のみできる
4 できない (自信がない)

問 26 あなたは、いざというとき AED (注1) を正しく使用できますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 正しく使用できる
2 あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる
3 使用できない

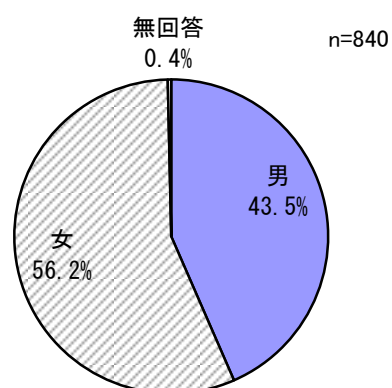
(注1)「自動体外式除細動器」といいます。電極のついたパッドを胸に貼ると自動的に心臓の状態を判断し、もし心臓が細かくふるえて血液を全身に送ることができない状態であれば、電気ショックを与えて心臓の動きを正常に戻す機能を持っている機械です。

第2章

回答者の属性

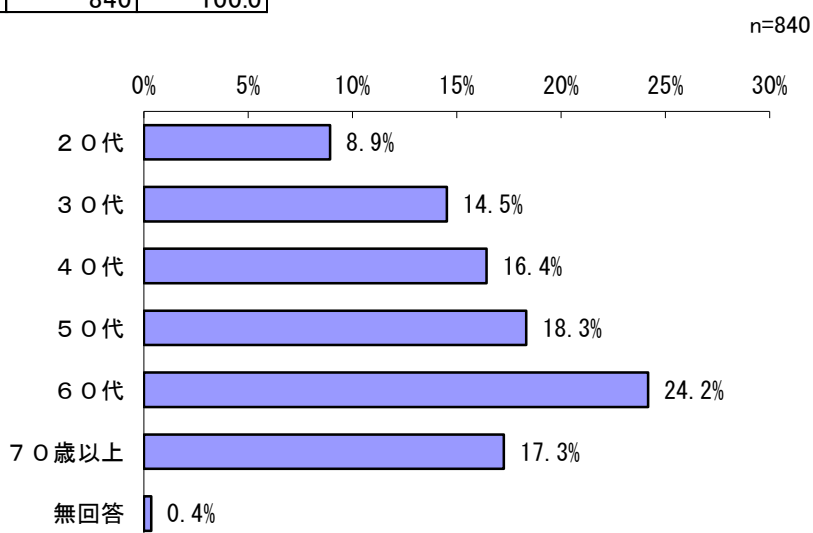
1 性別

選択肢	基数(n)	構成比(%)
男	365	43.5
女	472	56.2
無回答	3	0.4
全体	840	100.0



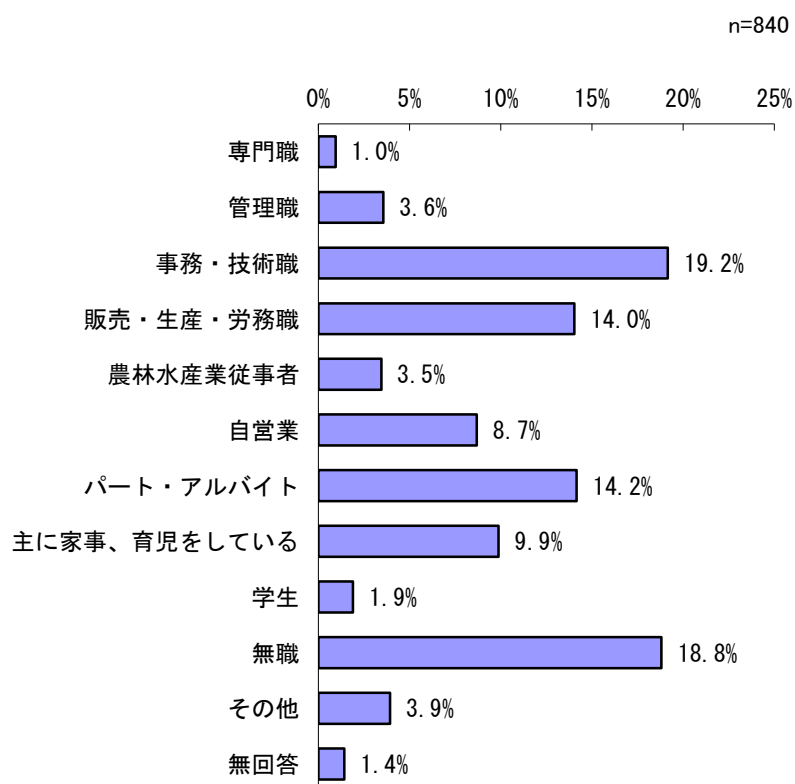
2 年代別

選択肢	基数(n)	構成比(%)
20代	75	8.9
30代	122	14.5
40代	138	16.4
50代	154	18.3
60代	203	24.2
70歳以上	145	17.3
無回答	3	0.4
全体	840	100.0



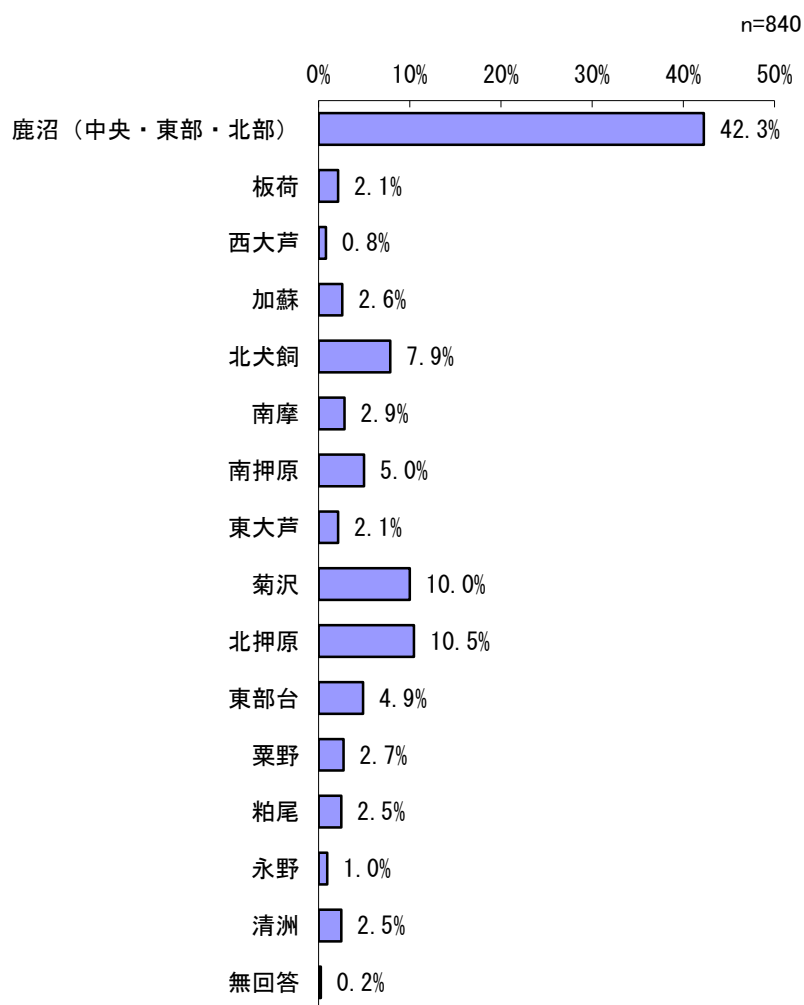
3 職業別

選択肢	基数(n)	構成比(%)
専門職	8	1.0
管理職	30	3.6
事務・技術職	161	19.2
販売・生産・労務職	118	14.0
農林水産業従事者	29	3.5
自営業	73	8.7
パート・アルバイト	119	14.2
主に家事、育児をしている	83	9.9
学生	16	1.9
無職	158	18.8
その他	33	3.9
無回答	12	1.4
全体	840	100.0



4 居住地区別（15 地区）

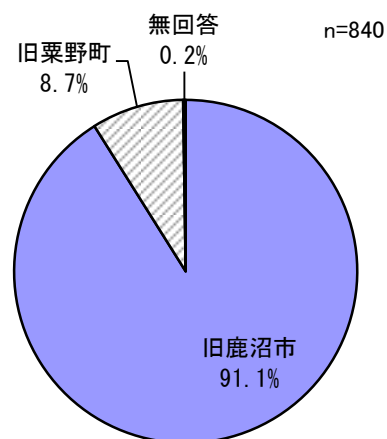
選択肢	基数(n)	構成比(%)
鹿沼(中央・東部・北部)	355	42.3
板荷	18	2.1
西大芦	7	0.8
加蘇	22	2.6
北犬飼	66	7.9
南摩	24	2.9
南押原	42	5.0
東大芦	18	2.1
菊沢	84	10.0
北押原	88	10.5
東部台	41	4.9
栗野	23	2.7
粕尾	21	2.5
永野	8	1.0
清洲	21	2.5
無回答	2	0.2
全体	840	100.0



5 居住地区別（2地区）

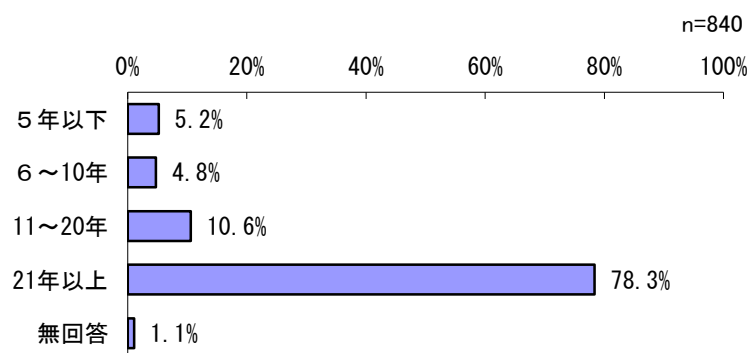
選択肢	基数(n)	構成比(%)
旧鹿沼市	765	91.1
旧栗野町	73	8.7
無回答	2	0.2
全体	840	100.0

- ・旧鹿沼市：鹿沼（中央・東部・北部）、板荷、西大芦、加蘇、北犬飼、南摩、南押原、東大芦、菊沢、北押原、東部台
- ・旧栗野町：栗野、粕尾、永野、清洲



6 居住年数別

選択肢	基数(n)	構成比(%)
5年以下	44	5.2
6～10年	40	4.8
11～20年	89	10.6
21年以上	658	78.3
無回答	9	1.1
全体	840	100.0



第3章

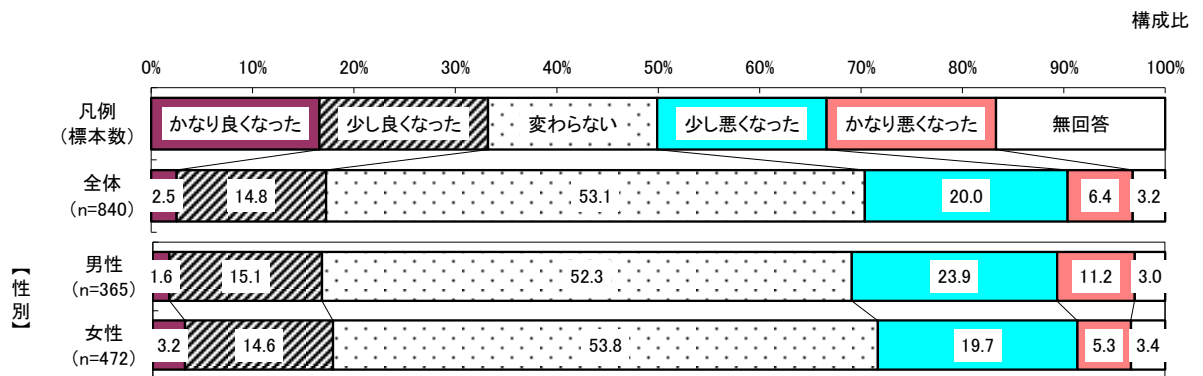
調査結果の分析

1 暮らしの変化

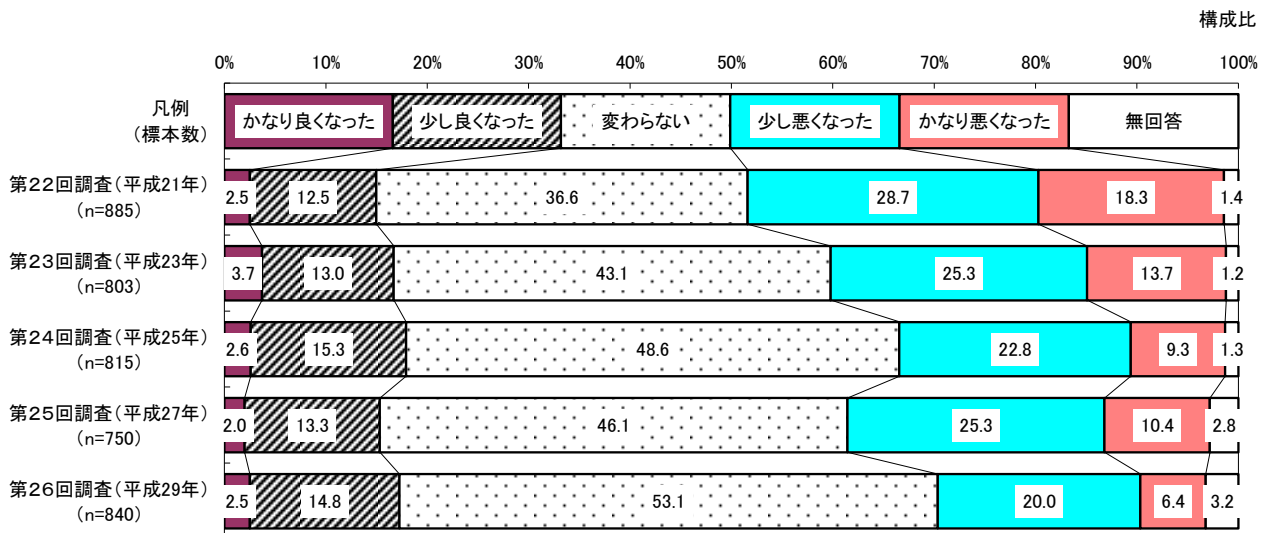
(1) ここ2～3年の暮らし向きの変化

問1 あなたの生活は、暮らし向きや生活環境等を含めて、総じて2～3年の間にどう変わったと思いますか。次の中から1つ選んでください。

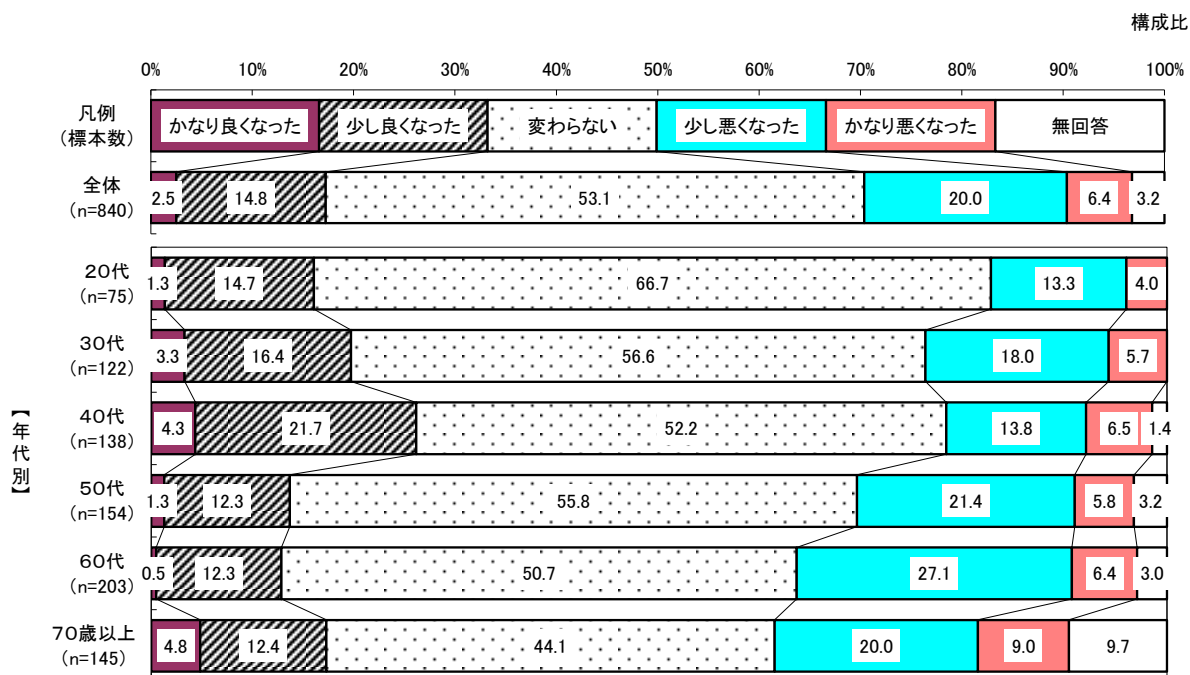
問1 暮らしの変化【性別】(SA)



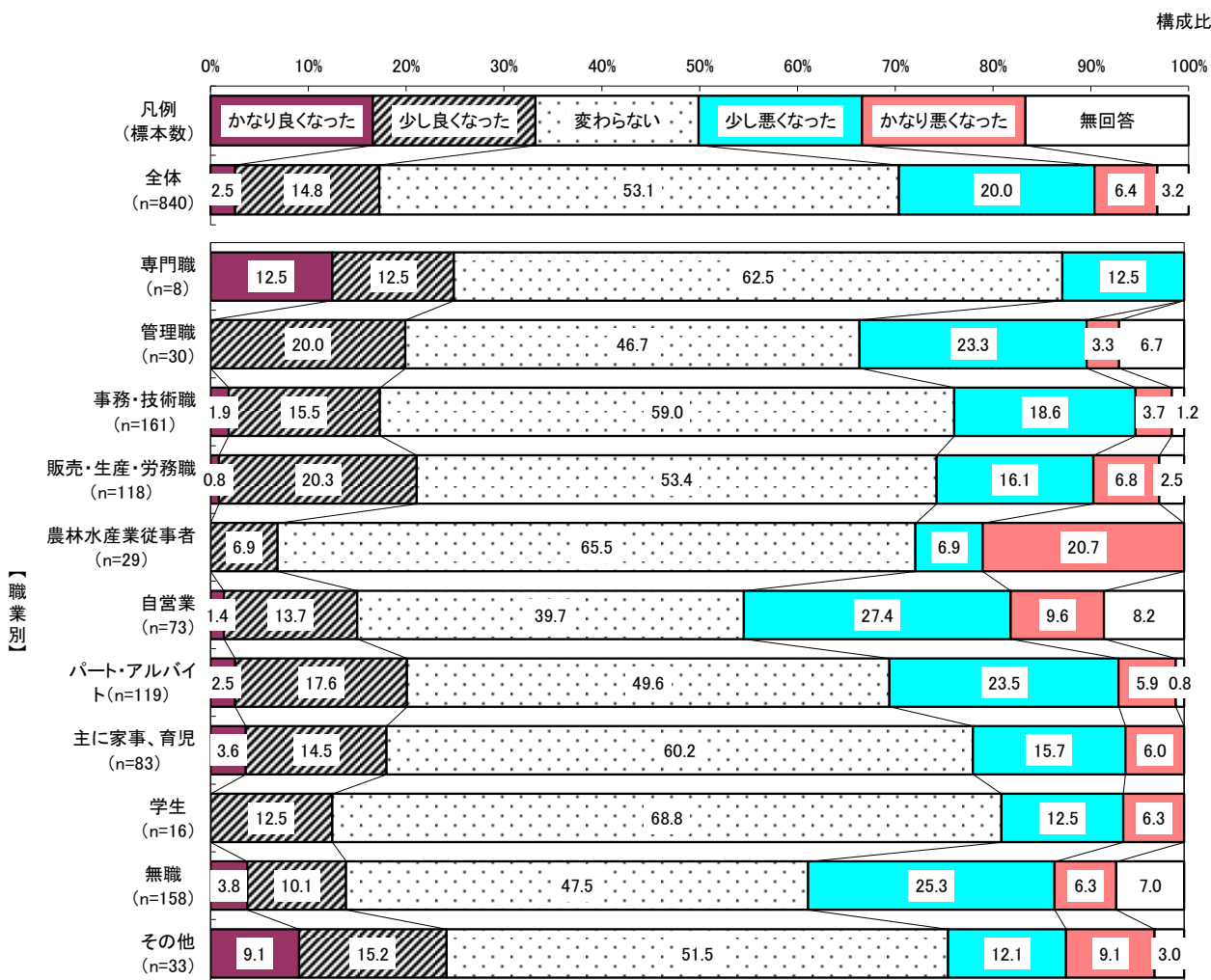
問1 暮らしの変化【経年変化】(SA)



問1 暮らしの変化【年代別（SA）】

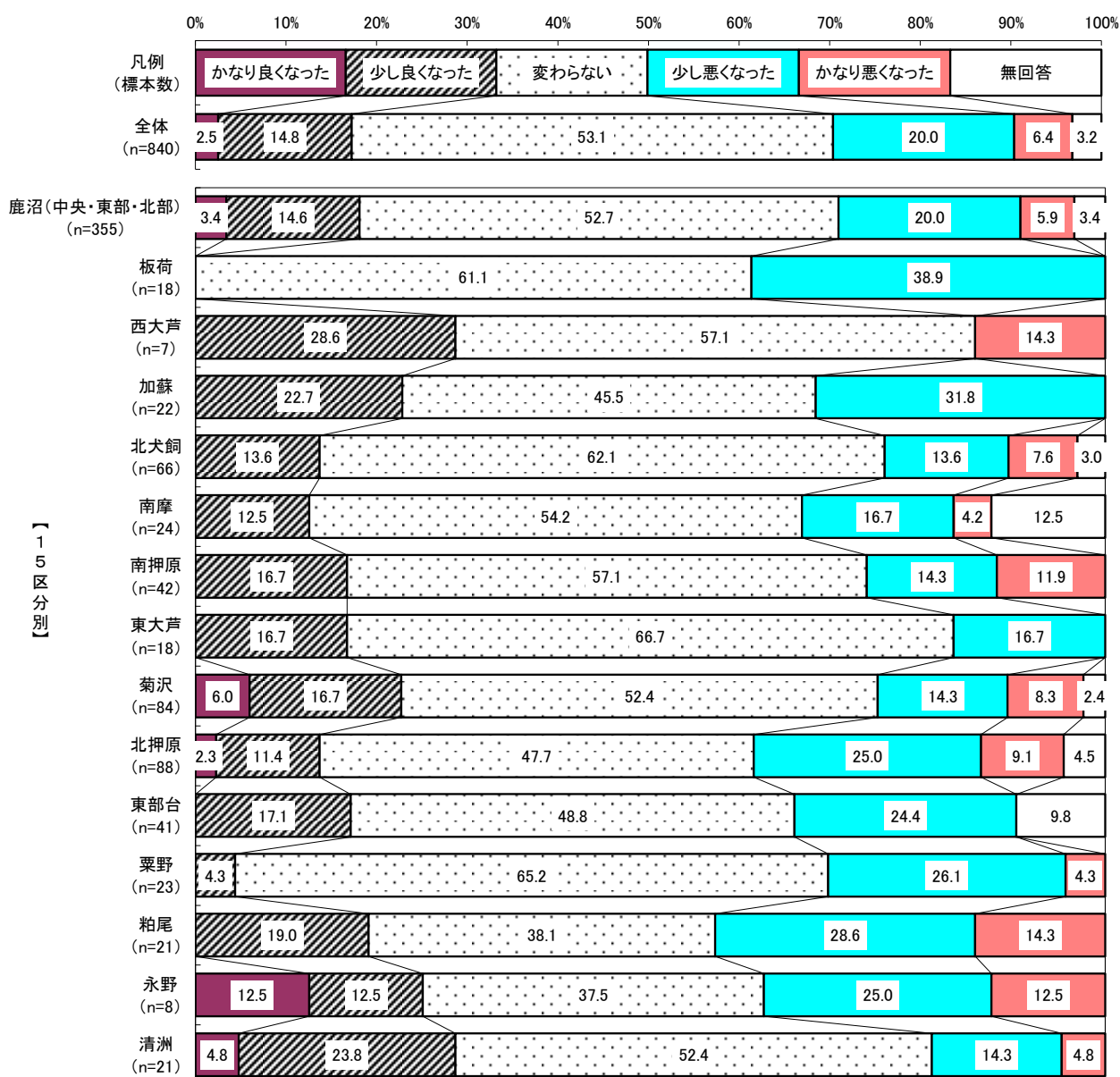


問1 暮らしの変化【職業別】（SA）



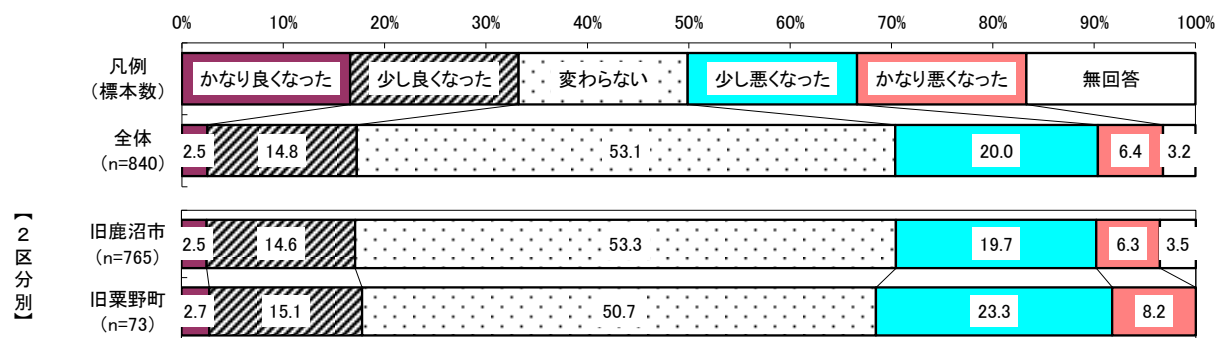
問1 暮らしの変化【居住地区別（15区分）】（SA）

構成比



問1 暮らしの変化【居住地区別（2区分）】（SA）

構成比



第3章 調査結果の分析

問1 暮らしの変化

◎『良くなった』が17.3%、「変わらない」は53.1%、『悪くなった』が26.4%。

【全体】

ここ2～3年の暮らし向きの変化について全体で見ると、「かなり良くなった」2.5%と「少し良くなった」14.8%を合わせた『良くなった』は17.3%、「少し悪くなった」20.0%と「かなり悪くなった」6.4%を合わせた『悪くなった』は26.4%となり、『悪くなった』が『良くなった』を9.1ポイント上回っている。また、「変わらない」は53.1%となっている。

【経年変化】

経年変化をみると、今回調査は『良くなった』が17.3%と、第23回調査（平成23年）16.7%、第24回調査（平成26年）15.3%を上回り、第22回調査（平成25年）17.9%に次ぐ高い割合となっている。また、『悪くなった』は今回調査では26.4%となっており、前回の第25回調査の35.7%と比べて9.3ポイント下降している。

【性別】

性別で見ると、『良くなった』は男性の16.7%に対し、女性は17.8%と男性に比べ1.1ポイント高くなっている。一方、『悪くなった』は、男性は28.0%に対し、女性は25.0%と男性に比べ3.0ポイント低くなっている。

【年代別】

年代別で見ると、40代を除くどの年代においても『悪くなった』の割合が『良くなった』の割合を上回っているが、特に60代で20.7ポイント、50代で13.6ポイント、70歳以上で11.8ポイント、『悪くなった』が『良くなった』を上回っている。

『良くなった』は40代が最も高い26.0%となって、唯一2割を超えている。一方、最も低いのは60代の12.8%で、40代に比べ13.2ポイント下回っている。『悪くなった』は60代の33.5%が最も高く、次いで70歳以上で29.0%、50代で27.2%と続いており、最も低いのは20代で17.3%となっている。

【職業別】

職業別で見ると、『良くなった』はその他を除くと販売・生産・労務職が21.1%と最も高く、次いでパート・アルバイトが20.1%、管理職が20.0%と続き、これらは2割以上となっている。一方で『悪くなった』は自営業が37.0%と最も高く、次いで無職が31.6%とこれらは3割を超えている。

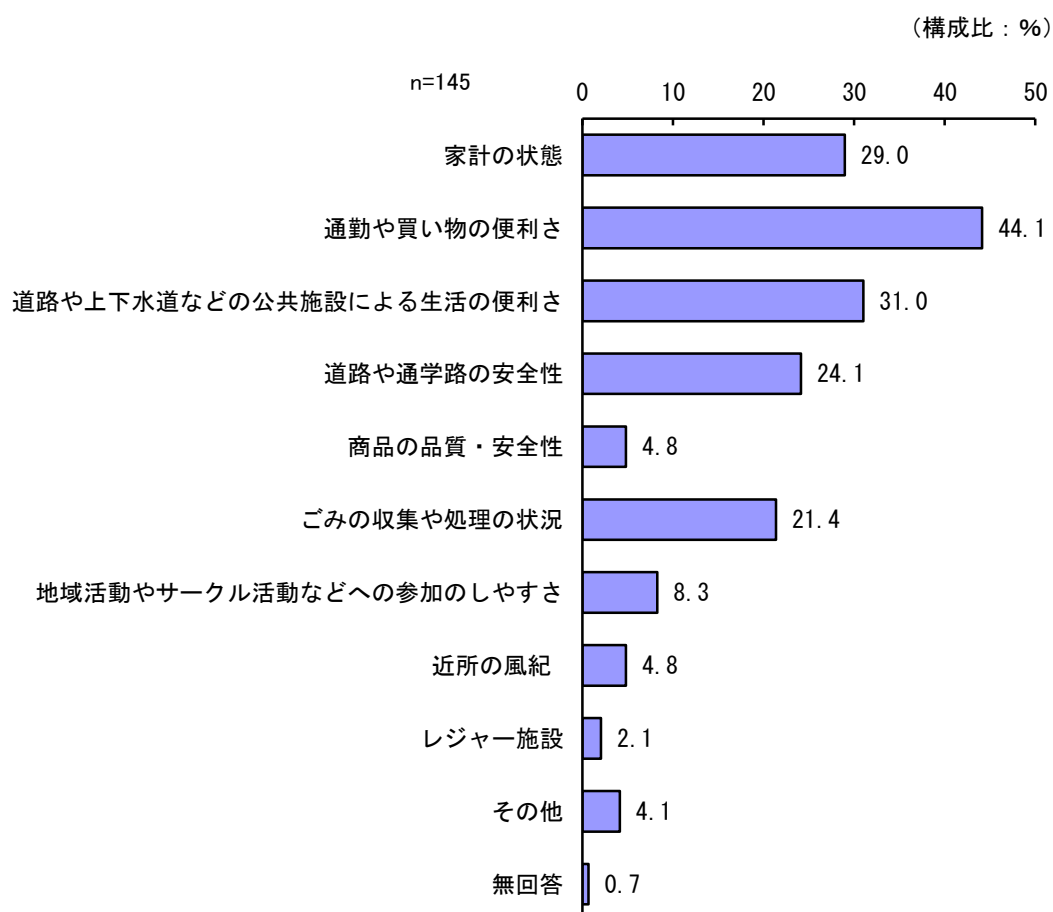
【居住地区別】

居住地区別で見ると、『良くなった』は清洲で28.6%、加蘇および菊沢で22.7%と高く、その一方、板荷は0.0%となった。『悪くなった』は粕尾で42.9%、板荷で38.9%と、いずれも4割前後と高くなっている。

問2 問1で1番あるいは2番とお答えの方にお聞きします。
 どういうところが良くなったと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

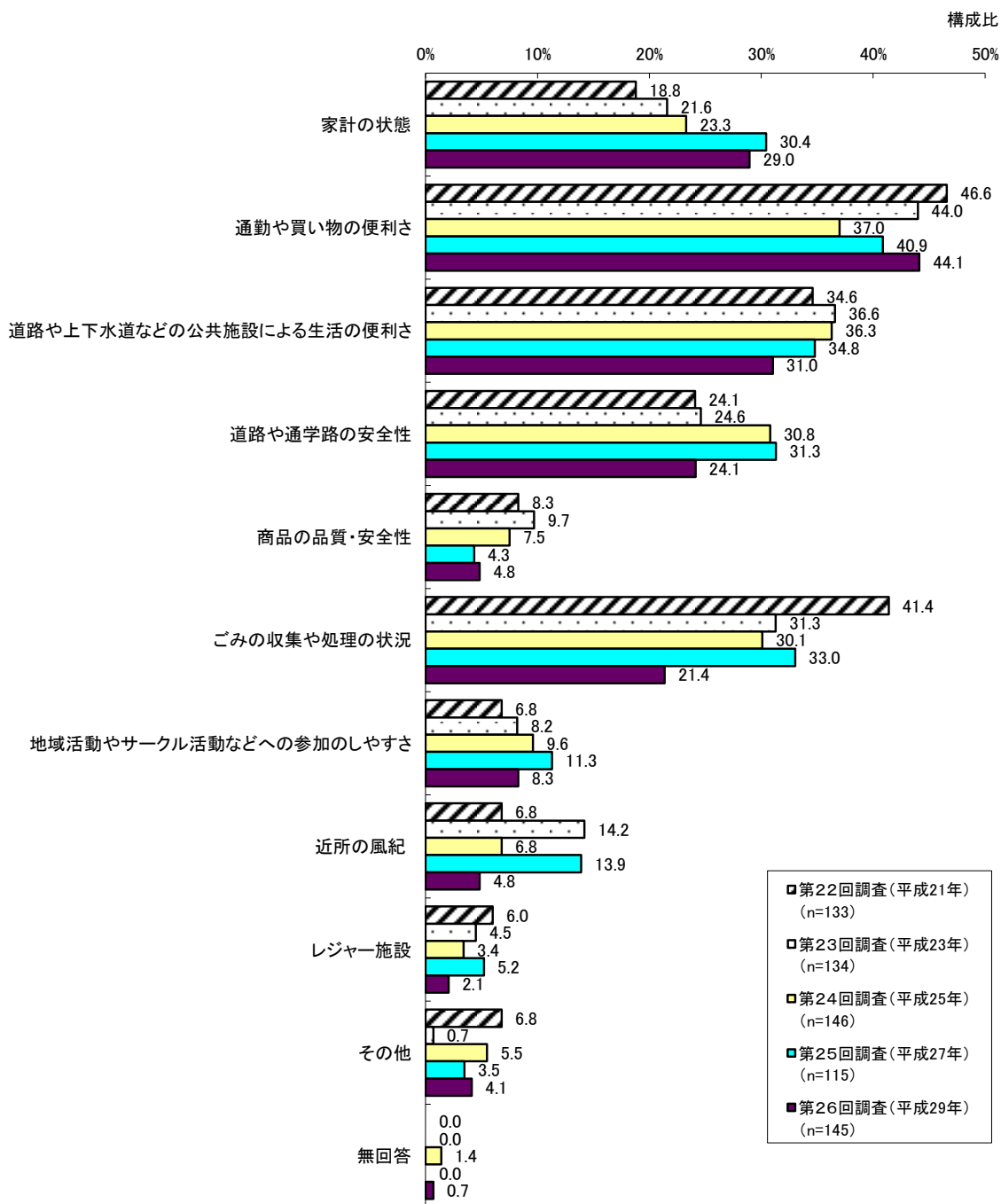
※問1で「かなり良くなった」「少し良くなった」と回答したひとのみ

問2 良くなった点【全体】(MA)



第3章 調査結果の分析

問2 良くなった点【経年変化】(MA)



問2 良くなった点【性別・年代別・職業別・居住地区別・居住年数別】(MA)

(構成比:%)

		家計の状態	通勤や買い物の利便さ	道路や上下水道などの公共施設による生活の利便さ	道路や通学路の安全性	商品の品質・安全性	ごみの収集や処理の状況	地域活動やサークル活動などへの参加のしやすさ	近所の風紀	レジャー施設	その他	無回答
	全体 (n=145)	29.0	44.1	31.0	24.1	4.8	21.4	8.3	4.8	2.1	4.1	0.7
性別	男性 (n=61)	26.2	41.0	31.1	31.1	6.6	13.1	4.9	4.9	1.6	1.6	1.6
	女性 (n=84)	31.0	46.4	31.0	19.0	3.6	27.4	10.7	4.8	2.4	6.0	0.0
年代	20代 (n=12)	25.0	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (n=24)	25.0	54.2	29.2	16.7	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	40代 (n=36)	44.4	41.7	25.0	19.4	2.8	16.7	8.3	5.6	0.0	5.6	0.0
	50代 (n=21)	47.6	42.9	28.6	4.8	9.5	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代 (n=26)	11.5	46.2	38.5	42.3	0.0	19.2	11.5	0.0	7.7	0.0	0.0
	70歳以上 (n=25)	12.0	28.0	36.0	40.0	16.0	52.0	20.0	20.0	4.0	4.0	4.0
職業	専門職 (n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	管理職 (n=6)	66.7	33.3	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	事務・技術職 (n=28)	32.1	42.9	35.7	14.3	0.0	14.3	10.7	7.1	0.0	7.1	0.0
	販売・生産・労務職 (n=25)	20.0	40.0	32.0	28.0	4.0	8.0	4.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	農林水産業従事者 (n=2)	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	自営業 (n=11)	45.5	27.3	9.1	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
	パート・アルバイト (n=24)	16.7	70.8	29.2	16.7	0.0	25.0	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0
	主に家事・育児 (n=15)	53.3	40.0	13.3	13.3	6.7	26.7	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0
	学生 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職 (n=22)	13.6	40.9	40.9	50.0	13.6	50.0	22.7	22.7	4.5	0.0	4.5
その他 (n=8)	37.5	37.5	37.5	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	
居住地区 (15区分)	鹿沼(中央・東部・北部) (n=64)	35.9	43.8	25.0	10.9	6.3	15.6	9.4	1.6	1.6	6.3	0.0
	板荷 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西大戸 (n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	加蘇 (n=5)	0.0	40.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	北犬飼 (n=9)	33.3	22.2	33.3	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0
	南摩 (n=3)	0.0	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	南押原 (n=7)	14.3	42.9	85.7	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	東大戸 (n=3)	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	菊沢 (n=19)	26.3	31.6	42.1	42.1	5.3	42.1	21.1	10.5	5.3	0.0	0.0
	北押原 (n=12)	16.7	50.0	25.0	33.3	8.3	33.3	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3
	東部台 (n=7)	28.6	85.7	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	粟野 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	粕尾 (n=4)	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	永野 (n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	清洲 (n=6)	33.3	50.0	33.3	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住地区 (2区分)	旧鹿沼市 (n=131)	28.2	44.3	31.3	25.2	4.6	21.4	8.4	4.6	2.3	4.6
旧粟野町 (n=13)		38.5	46.2	30.8	7.7	7.7	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
居住年数	5年以下 (n=11)	45.5	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
	6~10年 (n=12)	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	11~20年 (n=12)	25.0	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	21年以上 (n=108)	29.6	44.4	33.3	26.9	6.5	25.0	11.1	6.5	2.8	2.8	0.9

問2 良くなった点

◎交通面や公共施設での評価が高い。

【全体】

ここ2～3年の暮らし向きが『良くなった』と回答した人の良くなった点を全体でみると、「通勤や買い物の便利さ」が44.1%で4割を超えて最も高くなっている。次いで「道路や上下水道などの公共施設による生活の便利さ」が31.0%と、交通面や公共施設での評価が続き、3割を超えている。

「その他」の具体的回答では、「家を建てた」「アパートから一軒家に引っ越したから」と、住居に関する回答が多かった。

【経年変化】

経年変化でみると、今回調査では「通勤や買い物の便利さ」で、前回調査（平成25年）を3.2ポイント上回っている。「家計の状態」は過去4回の調査では調査ごとに上回っていたが、今回調査では前回調査を下回った。

「ごみの収集や処理の状況」は今回調査では21.4%と、前回調査より11.6ポイント下降し、過去4回の調査と比べても最も低くなっている。「レジャー施設」も2.1%と過去4回の調査の中で最も低くなっている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「通勤や買い物の便利さ」が最も高く、ともに4割を超えている。また、男性は「道路や通学の安全性」が女性よりも10ポイント以上高く、女性は「ごみの収集や処理の状況」が男性よりも10ポイント以上高くなっている。

【年代別】

年代別でみると、20代および30代では「通勤や買い物の便利さ」が最も高く、ともに5割を超えており、他の年代に比べ高くなっている。60代も「通勤や買い物の便利さ」が46.2%で最も高くなっている。一方、40代および50代では「家計の状態」が最も高く、ともに4割を超えており、他の年代に比べ高くなっている。70歳以上では「ごみの収集や処理の状況」が52.0%で最も高く、唯一5割を超えている。

【職業別】

職業別でみると、自営業、主に家事、育児では「家計の状態」が最も高く、事務・技術職、販売・生産・労務職、パート・アルバイトでは「通勤や買い物の便利さ」が最も高くなっている。無職では「道路や通学路の安全性」および「ごみの収集や処理の状況」が、同率で最も高くなっている。

【居住地区別】

居住地区別（2区分）でみると、旧鹿沼市、旧栗野町ともに「通勤や買い物の便利さ」が最も高く、4割を超えている。また、「道路や上下水道などの公共設備の向上による生活の便利」も、ともに3割を超えている。

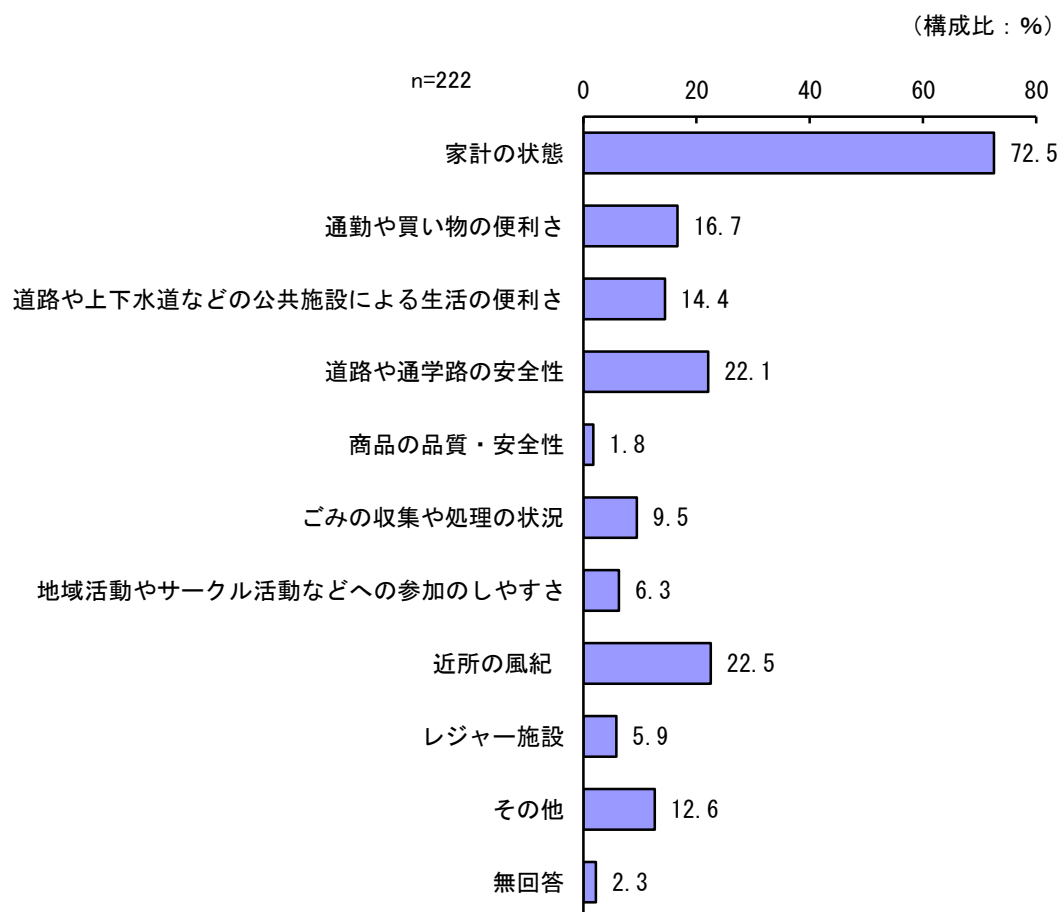
【居住年数別】

居住年数別でみると、居住年数が5年以下では「家計の状態」が45.5%と最も高く、唯一4割を超えている。居住年数が6年以上では、いずれも「通勤や買い物の便利さ」が最も高く、4割を超えている。

問3 問1で4番あるいは5番とお答えの方にお聞きします。
 どういうところが悪くなったと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

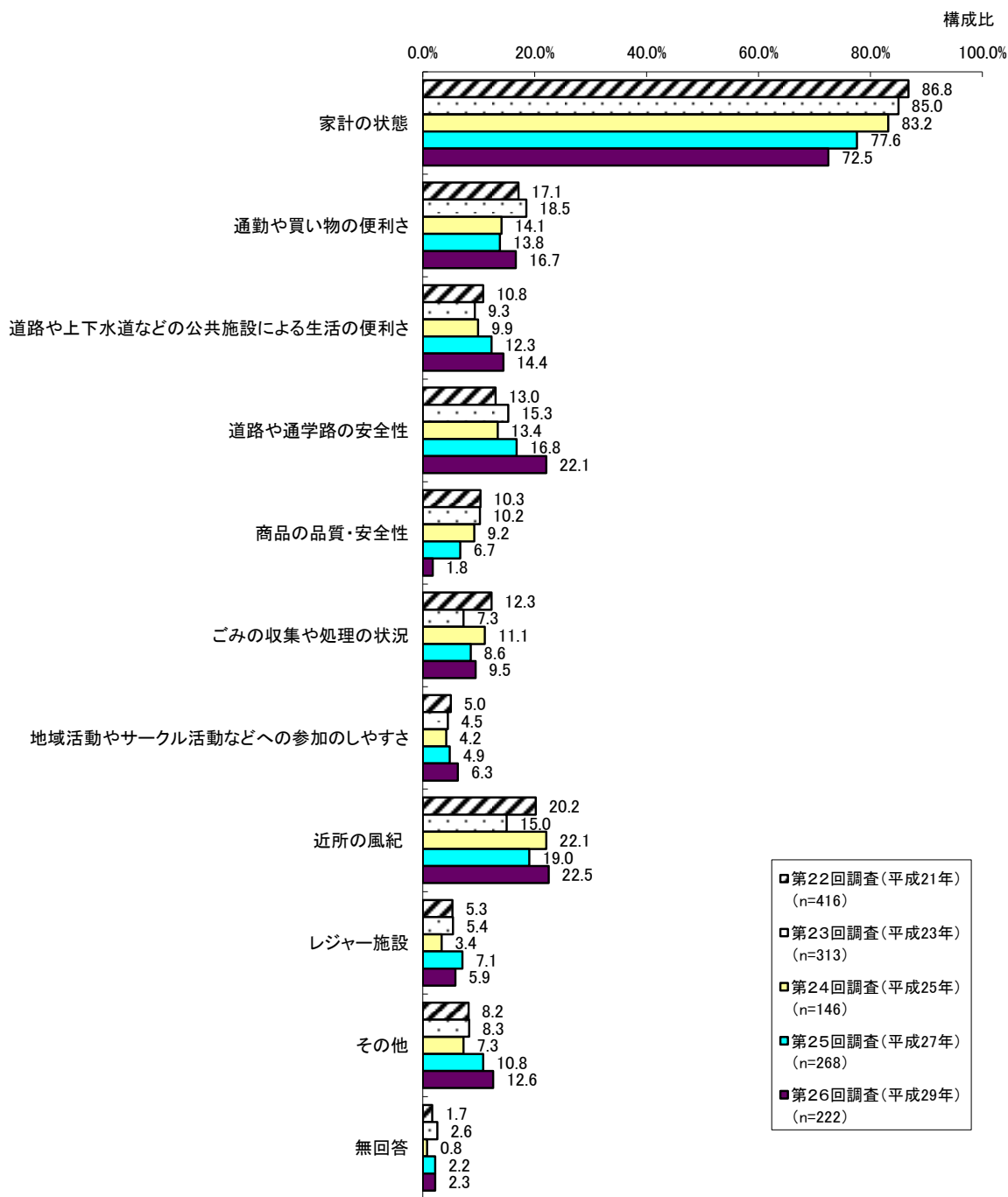
※問1で「少し悪くなった」「かなり悪くなった」と回答したひとのみ

問3 悪くなった点【全体】(MA)



第3章 調査結果の分析

問3 悪くなった点【経年変化】(MA)



問3 悪くなった点【性別・年代別・職業別・居住地区別・居住年数別】(MA)

(構成比:%)

		家計の状態	通勤や買い物の利便さ	道路や上下水道などの公共施設による生活の利便さ	道路や通学路の安全性	商品の品質・安全性	ごみの収集や処理の状況	地域活動やサークル活動などへの参加のしやすさ	近所の風紀	レジャー施設	その他	無回答	
	全体(n=222)	72.5	16.7	14.4	22.1	1.8	9.5	6.3	22.5	5.9	12.6	2.3	
性別	男性(n=102)	69.6	13.7	15.7	21.6	2.9	8.8	7.8	24.5	4.9	16.7	2.0	
	女性(n=118)	74.6	19.5	13.6	22.9	0.8	10.2	4.2	21.2	6.8	9.3	2.5	
年代	20代(n=13)	38.5	15.4	23.1	46.2	7.7	15.4	7.7	38.5	15.4	15.4	0.0	
	30代(n=29)	65.5	24.1	13.8	24.1	0.0	20.7	6.9	13.8	10.3	10.3	3.4	
	40代(n=28)	57.1	21.4	17.9	28.6	0.0	7.1	10.7	7.1	3.6	21.4	0.0	
	50代(n=42)	76.2	19.0	7.1	21.4	2.4	4.8	2.4	33.3	7.1	14.3	4.8	
	60代(n=68)	83.8	14.7	19.1	14.7	1.5	5.9	5.9	22.1	4.4	5.9	1.5	
	70歳以上(n=42)	76.2	9.5	9.5	21.4	2.4	11.9	7.1	23.8	2.4	16.7	2.4	
職業	専門職(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	管理職(n=8)	37.5	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	0.0	37.5	12.5	37.5	0.0	
	事務・技術職(n=36)	55.6	11.1	13.9	27.8	2.8	11.1	11.1	25.0	5.6	13.9	2.8	
	販売・生産・労務職(n=27)	77.8	18.5	18.5	18.5	7.4	11.1	3.7	22.2	0.0	18.5	3.7	
	農林水産業従事者(n=8)	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0	
	自営業(n=27)	92.6	11.1	14.8	14.8	3.7	18.5	7.4	18.5	14.8	0.0	0.0	
	パート・アルバイト(n=35)	71.4	17.1	11.4	25.7	0.0	2.9	2.9	17.1	5.7	8.6	0.0	
	主に家事、育児(n=18)	55.6	27.8	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	16.7	16.7	5.6	11.1	
	学生(n=3)	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	
	無職(n=50)	84.0	16.0	14.0	24.0	0.0	6.0	2.0	26.0	2.0	16.0	2.0	
	その他(n=7)	71.4	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	
居住地区 (15区分)	鹿沼(中央・東部・北部)(n=92)	72.8	16.3	7.6	18.5	2.2	12.0	5.4	20.7	7.6	12.0	0.0	
	板荷(n=7)	71.4	28.6	28.6	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	
	西大戸(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	加蘇(n=7)	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	14.3	
	北大飼(n=14)	57.1	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	7.1	14.3	7.1	
	南摩(n=5)	100.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
	南押原(n=11)	90.9	36.4	36.4	45.5	0.0	9.1	18.2	45.5	0.0	0.0	0.0	
	東大戸(n=3)	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	菊沢(n=19)	78.9	0.0	15.8	31.6	0.0	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	
	北押原(n=30)	83.3	13.3	23.3	10.0	0.0	3.3	3.3	33.3	6.7	13.3	3.3	
	東部台(n=10)	60.0	0.0	10.0	40.0	10.0	10.0	0.0	50.0	10.0	0.0	0.0	
	粟野(n=7)	71.4	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	
	粕尾(n=9)	55.6	11.1	33.3	22.2	11.1	0.0	22.2	22.2	0.0	22.2	11.1	
	永野(n=3)	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	
	清洲(n=4)	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	
	居住地区 (2区分)	旧鹿沼市(n=199)	73.9	15.1	14.1	22.1	1.5	10.1	5.5	23.1	6.5	12.1	1.5
		旧粟野町(n=23)	60.9	30.4	17.4	21.7	4.3	4.3	13.0	17.4	0.0	17.4	8.7
居住年数	5年以下(n=20)	45.0	55.0	5.0	20.0	0.0	20.0	10.0	10.0	15.0	10.0	10.0	
	6~10年(n=5)	80.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
	11~20年(n=16)	62.5	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	12.5	18.8	6.3	37.5	0.0	
	21年以上(n=179)	76.0	14.5	16.8	21.8	2.2	8.4	5.6	25.1	4.5	11.2	1.7	

第3章 調査結果の分析

問3 悪くなった点

◎「家計の状態」は7割超。治安に関する不安が高い傾向にある。

【全体】

ここ2～3年の暮らし向きが『悪くなった』と回答した人の悪くなった点を全体で見ると、「家計の状態」72.5%が最も高く、7割を超えている。次いで「近所の風紀」22.5%、「道路や通学路の安全性」22.1%といった治安に関する不安が続き、ともに2割を超えて高くなっている。

「その他」の具体的回答では、「さる、イノシシ等の出没による被害の増大」など、野生鳥獣による被害に関する回答が多かった。

【経年変化】

経年変化で見ると、「家計の状態」は毎回の調査で最も高い割合となるが、その割合は毎回、前回は下回って、今回調査も前回調査を5.1ポイント下回って7割超と、過去4回の調査に比べて最も低くなっている。一方、「道路や通学路の安全性」は前回調査と比べ今回調査は5.3ポイント上がって2割を超え、過去4回の調査に比べて最も高くなっている。

【性別】

性別で見ると、男女ともに「家計の状態」が最も高く、7割前後となっている。また、男性は「その他」が女性よりも5ポイント以上高く、女性は「家計の状態」「通勤や買い物の便利さ」が男性よりも5ポイント前後上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、30代以上はいずれも「家計の状態」が最も高く、5割を超えている。20代は「道路や通学路の安全性」が46.2%で最も高く、唯一4割を超えている。また、20代、50代、60代、および70歳以上では「近所の風紀」がいずれも2割を超えている。

【職業別】

職業別で見ると、すべての職業でも「家計の状態」が最も高く、いずれも5割を超えている。特に自営業では92.6%と、唯一9割を超えている。

【居住地区別】

居住地区別（2区分）で見ると、旧鹿沼市、旧栗野町とも「家計の状態」が最も高く、旧鹿沼市は73.9%と、旧栗野町の60.9%を13.0ポイント上回っている。「通勤や買い物の便利さ」は旧栗野町で30.4%と、旧鹿沼市の15.1%を、15.3ポイント上回っている。

【居住年数別】

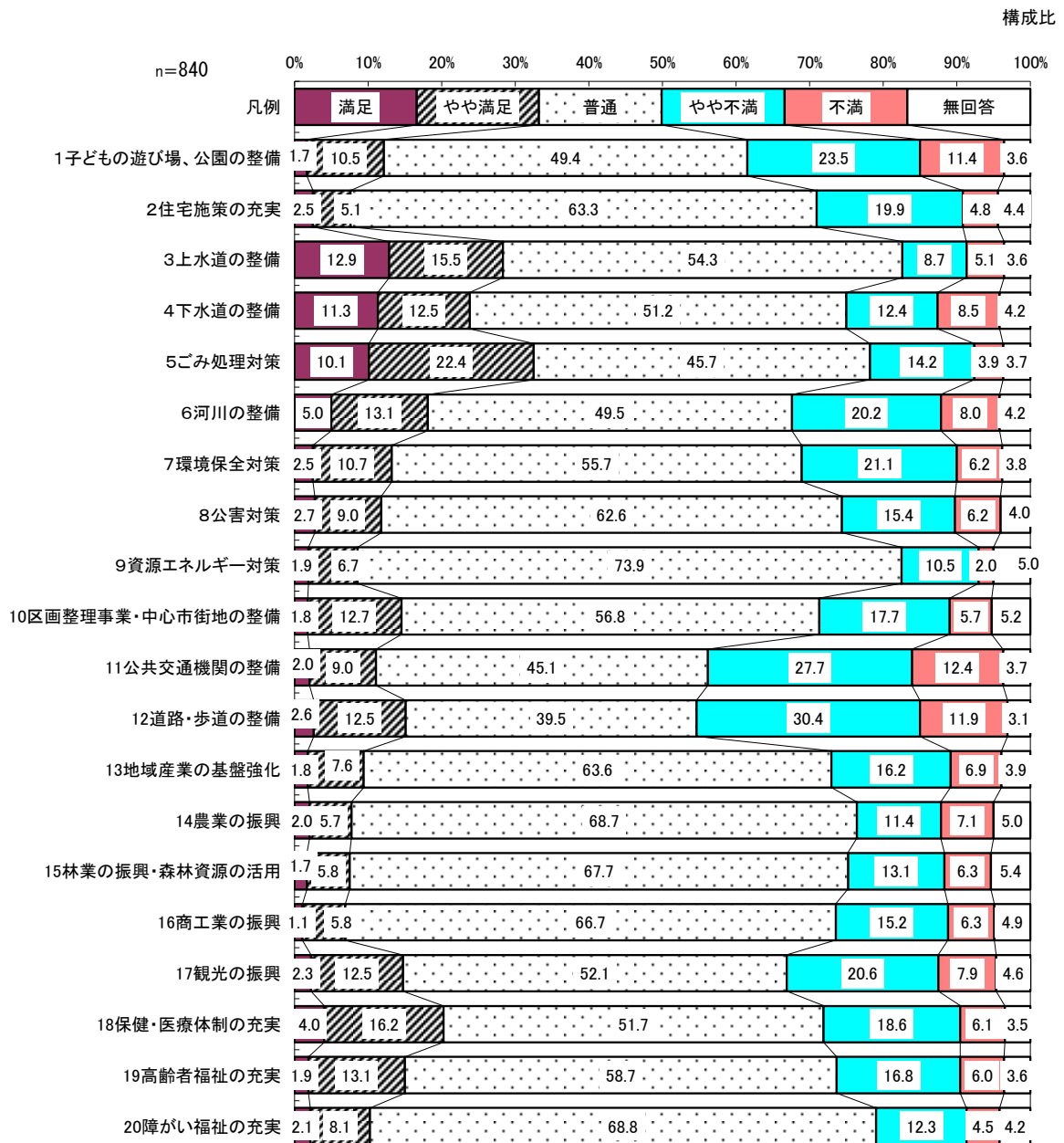
居住年数別で見ると、居住年数が5年以下では「通勤や買い物の便利さ」が55.0%で最も高く、唯一5割を超えている。11～20年および21年以上では「家計の状態」が最も高く、6割を超えている。

2 市政に対する現状評価等

(2) 市政に対する現状評価等

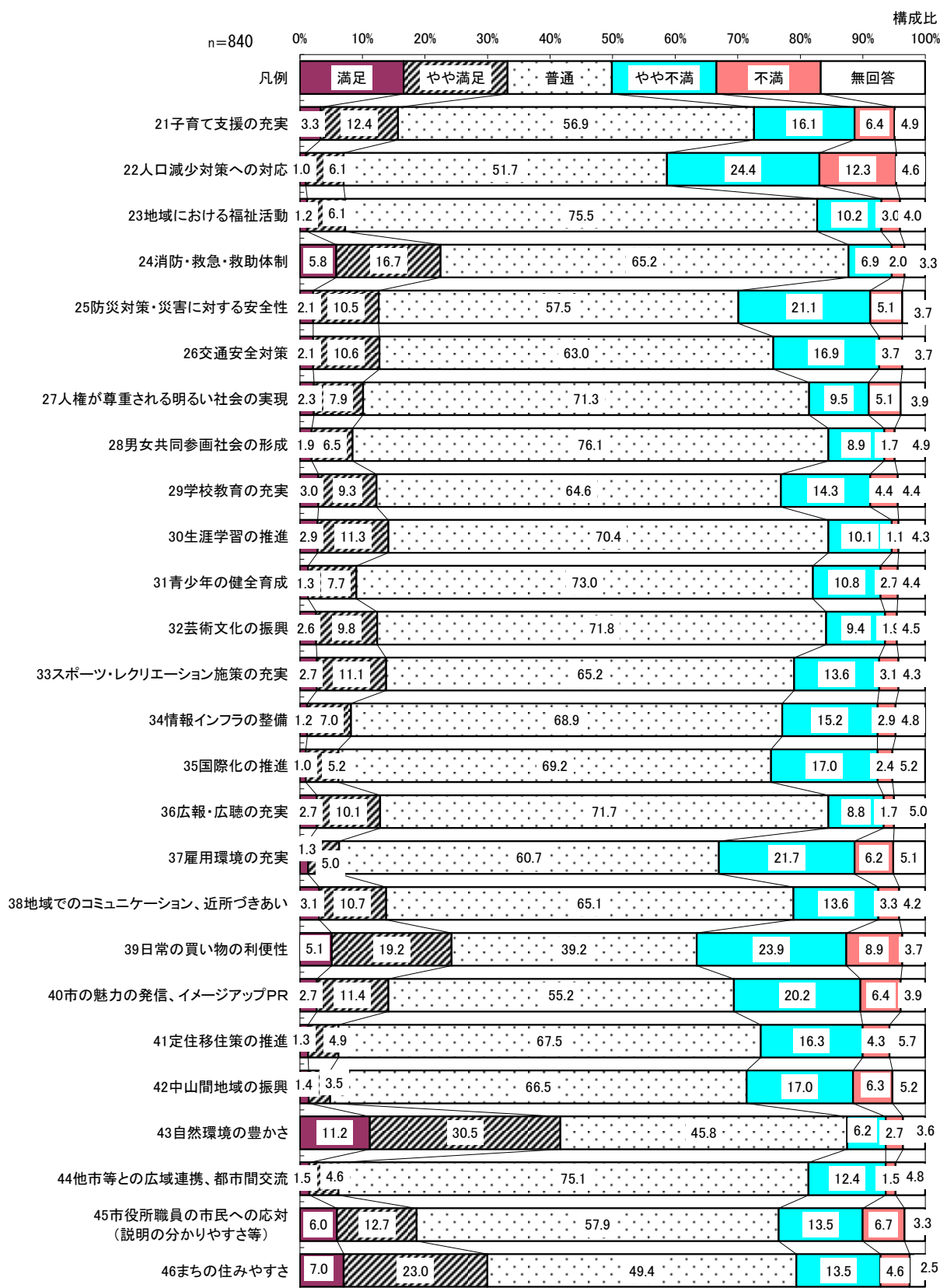
問4 現在の鹿沼市の施策や生活環境について、どのように感じているかお答えください。
 下記の項目ごとに、評価欄にある番号に○印を付けてください。
 評価基準：1 満足 2 やや満足 3 普通 4 やや不満 5 不満

問4 市政に対する現状評価【全体・46項目（項目1～20）】（SA）



第3章 調査結果の分析

問4 市政に対する現状評価【全体・46項目（項目21～46）】（SA）



問4 市政に対する現状評価等

- ◎自然環境、ごみ処理や上水道の設備などの清潔な居住環境についての満足度は高い。
- ◎道路や交通機関の整備、少子化対策や子どもの遊び場の整備についての満足度は低い。

【全体】

市政に対する現状評価について全体でみると、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「43 自然環境の豊かさ」が41.7%と最も高くなっている。次いで「5 ごみ処理対策」32.5%、「46 まちの住みやすさ」30.0%と3割を超えて続いている。さらに、「3 上水道の設備」28.4%、「39 日常の買い物の利便性」24.3%、「4 下水道の設備」23.8%、「24 消防・救急・救助体制」22.5%、「18 保健・医療体制の振興」20.2%が2割を超えている。一方、「42 中山間地域の振興」は4.9%、「35 国際化の推進」「41 定住移住策の推進」は同率の6.2%、「44 他市等との地域連携、都市間交流」は6.1%と低くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』は、「12 道路・歩道の整備」が42.3%と最も高くなっており、次いで「11 公共交通機関の整備」40.1%、「22 人口減少対策への対応」36.7%、「1 子どもの遊び場、公園の設備」34.9%、「39 日常の買い物の利便性」32.8%、「17 観光の振興」28.5%と続いている。

問5 問4の46項目の中から、今後のまちづくりで特に重点をおくべきと思う項目を5つ選んで、番号を記入してください。

問5 今後特に重点をおくべき施策

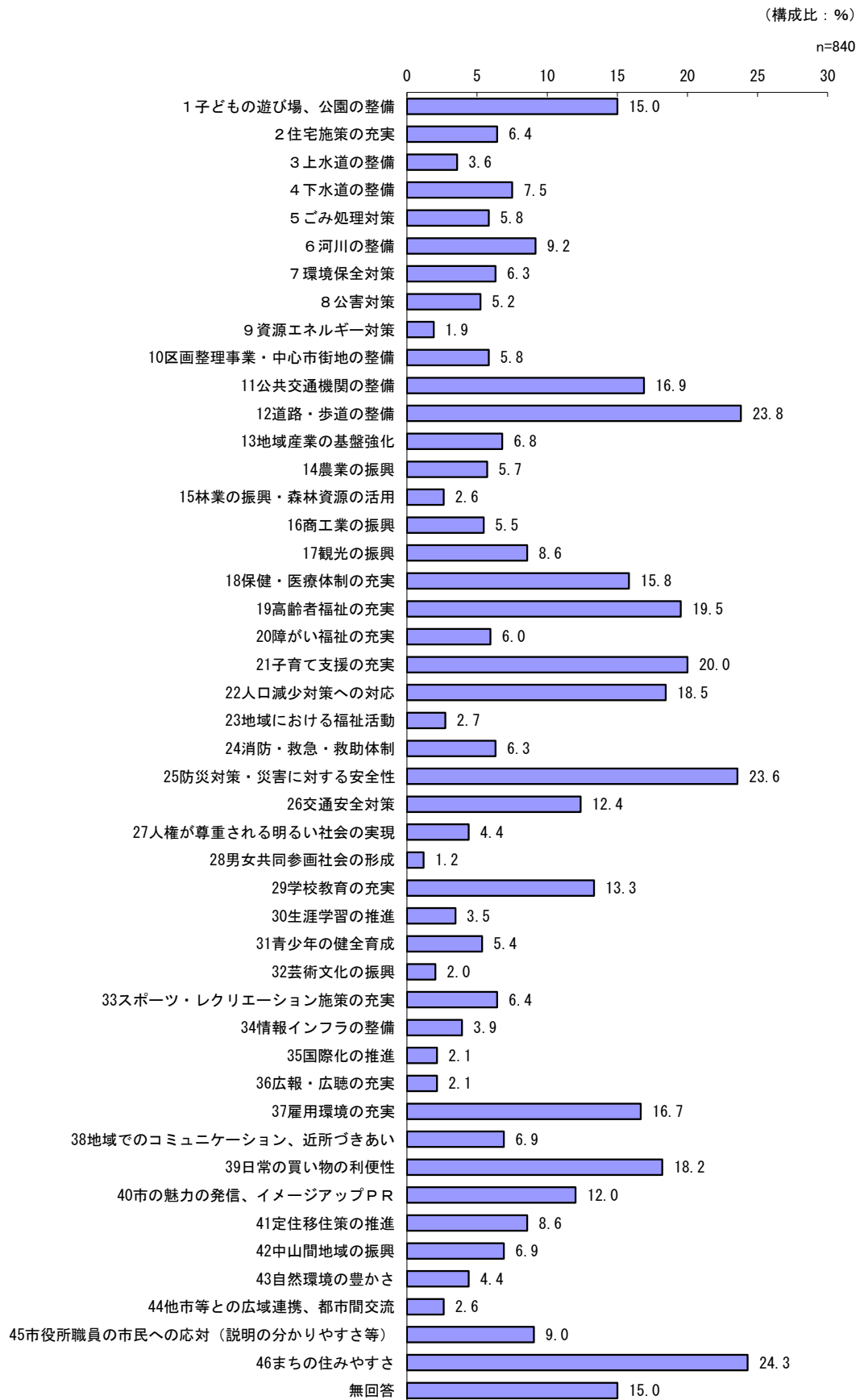
- ◎暮らしや道路・交通に関する施策とともに、子どもや高齢者に関する施策が高い。

【全体】

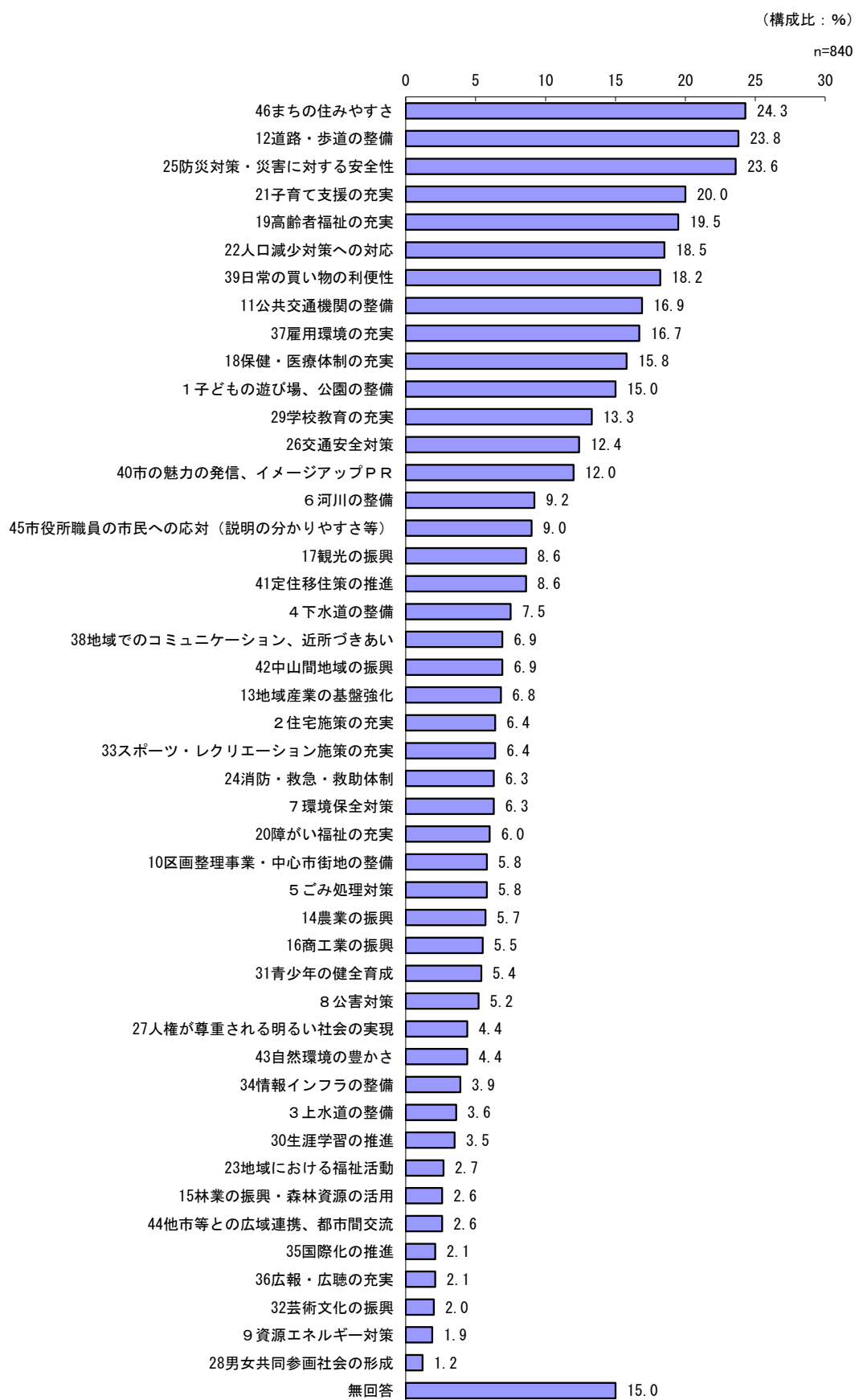
今後特に重点をおくべき施策について全体でみると、「46 まちの住みやすさ」が24.3%で最も高く、次いで「12 道路・歩道の整備」が23.8%、「25 防災対策・災害に対する安全性」が23.6%となっている。また、「39 日常の買い物の利便性」が18.2%、「11 公共交通機関の整備」が16.9%となっており、暮らしや道路・交通に関する施策が上位となっている。なお、「21 子育て支援の充実」も20.0%となっているほか、「19 高齢者福祉の充実」が19.5%、「22 人口減少対策への対応」が18.5%と、子どもや高齢者に関する施策も2割前後と高くなっている。

第3章 調査結果の分析

問5 今後特に重点をおくべき施策【全体】(MA)



問5 今後特に重点をおくべき施策【全体・上位順】(MA)

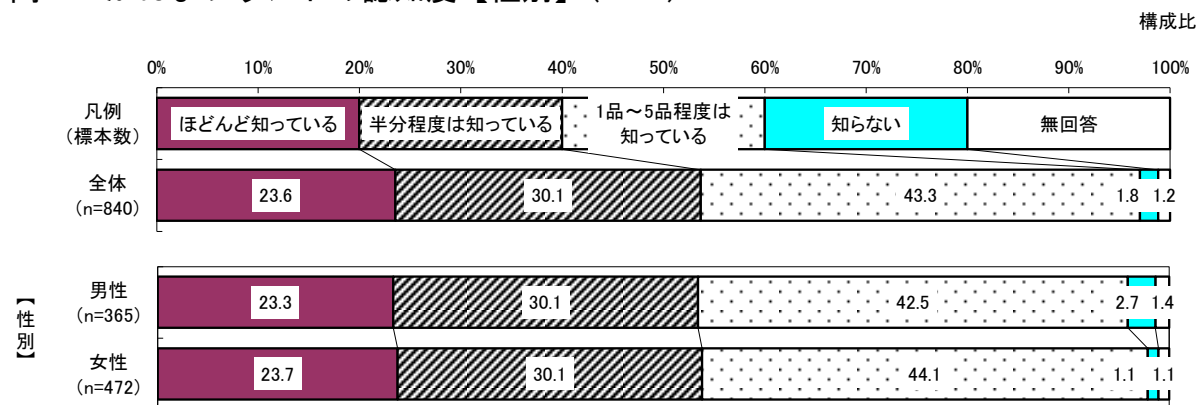


3 市の魅力の発信

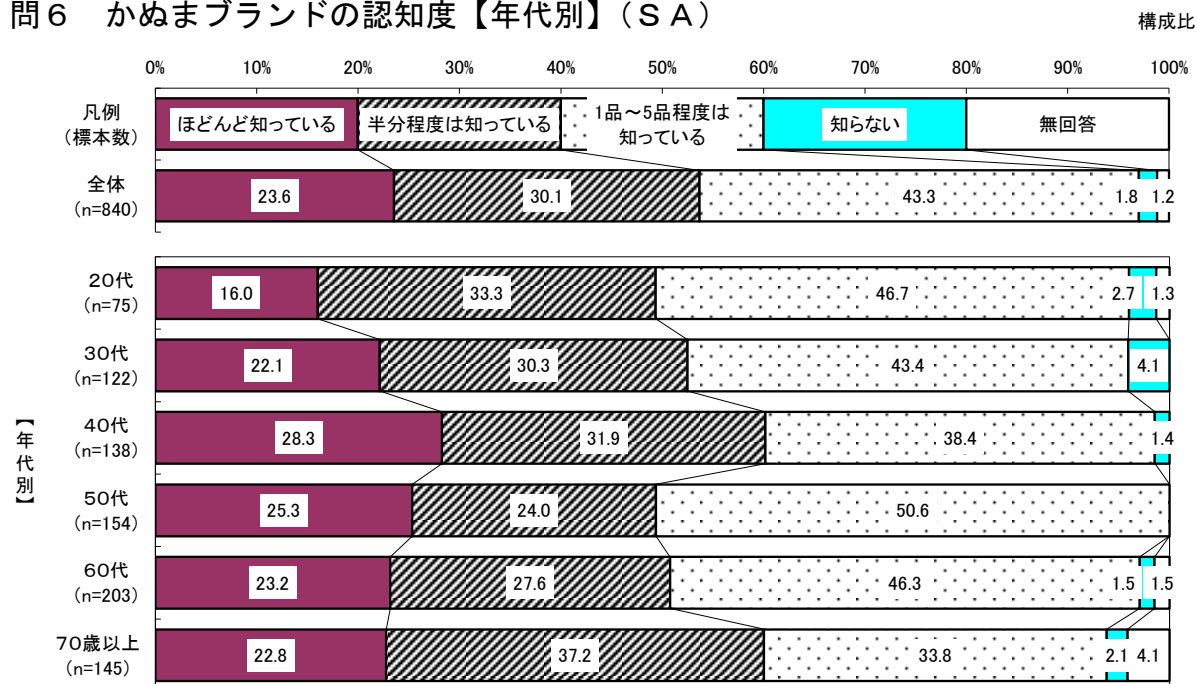
(1) かぬまブランドの認知度

問6 かぬまブランド品として、「いちご」「かぬま和牛」「鹿沼そば」「さつき」「鹿沼こんにゃく」「鹿沼組子」等39品目あります。あなたは、かぬまブランド品をご存じですか。次の中から1つ選んでください。

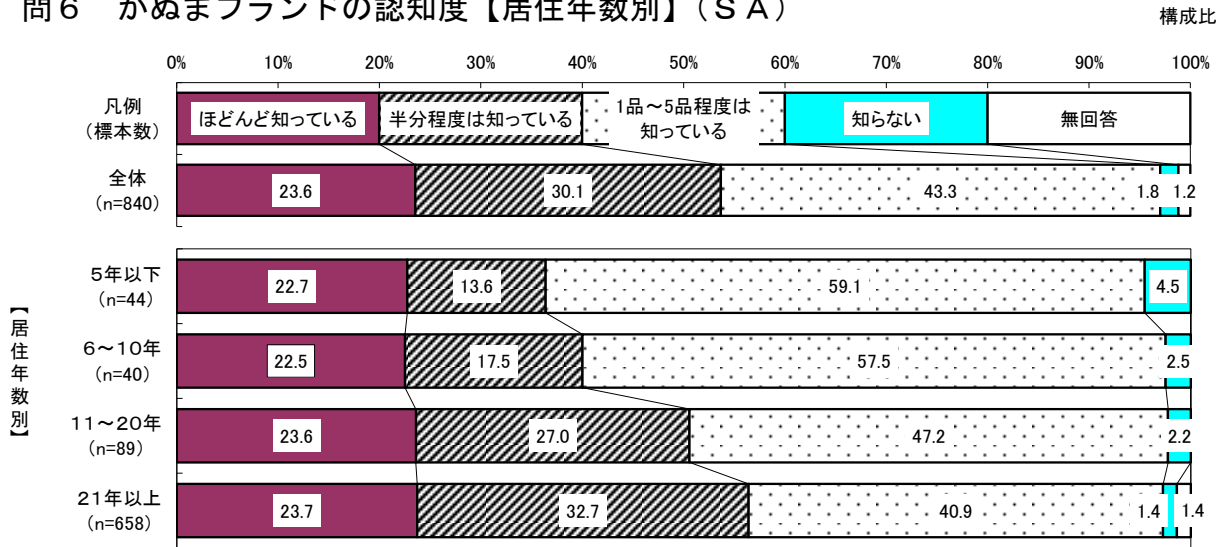
問6 かぬまブランドの認知度【性別】(SA)



問6 かぬまブランドの認知度【年代別】(SA)



問6 かめまブランドの認知度【居住年数別】(S A)



問6 かめまブランドの認知度

◎1品以上『知っている』は9割超。『半分程度知っている』は5割超。

【全体】

かめまブランドの認知度を全体で見ると、「ほとんど知っている」23.6%は2割を超え、「半分程度は知っている」30.1%は約3割となっており、「1品～5品程度は知っている」43.3%は4割を超えている。「ほとんど知っている」「半分程度は知っている」「1品～5品程度は知っている」を合わせた『知っている』は9割を超えている。「ほとんど知っている」「半分程度は知っている」を合わせた『半分程度知っている』は53.7%と、5割を超えている。

【性別】

性別で見ると、男女ともに「ほとんど知っている」は2割を超え、「半分程度は知っている」はともに約3割、「1～5品程度は知っている」はともに4割を超え、男女の差はいずれも5ポイント未満とほとんどない。

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で1品以上『知っている』は9割を超えている。「ほとんど知っている」は20代のみ16.0%と2割を下回っているが、30代以上はいずれも2割を超えている。「知らない」は30代が4.1%で最も高く、次いで20代が2.7%となっており、他の年代よりやや高くなっている。『半分程度知っている』は40代と70歳以上で6割に達している。

【居住年数別】

居住年数で見ると、全ての居住年数層で1品以上『知っている』は9割を超えている。「1品～5品程度は知っている」と答えた割合は、5年以下で59.1%と最も高く、21年以上で40.9%と、年数が上がるにつれ低くなっている。『半分程度知っている』は、5年以下で36.3%と最も低く、21年以上で56.4%と年数が上がるにつれ高くなっている。

(2) 友人や親戚におすすめする「かぬまブランド品」

問7 問6で1番、2番、3番とお答えの方にお聞きします。
あなたのご友人やご親戚におすすめする、かぬまブランド品は何ですか。
5品まで選んで○をつけてください。

※6品以上を選んだ回答者多数のため、回答された選択肢を全て集計。

問7 友人や親戚におすすめする「かぬまブランド品」

◎「いちご」が8割超で最も高く、食品関連のブランド品が高い。

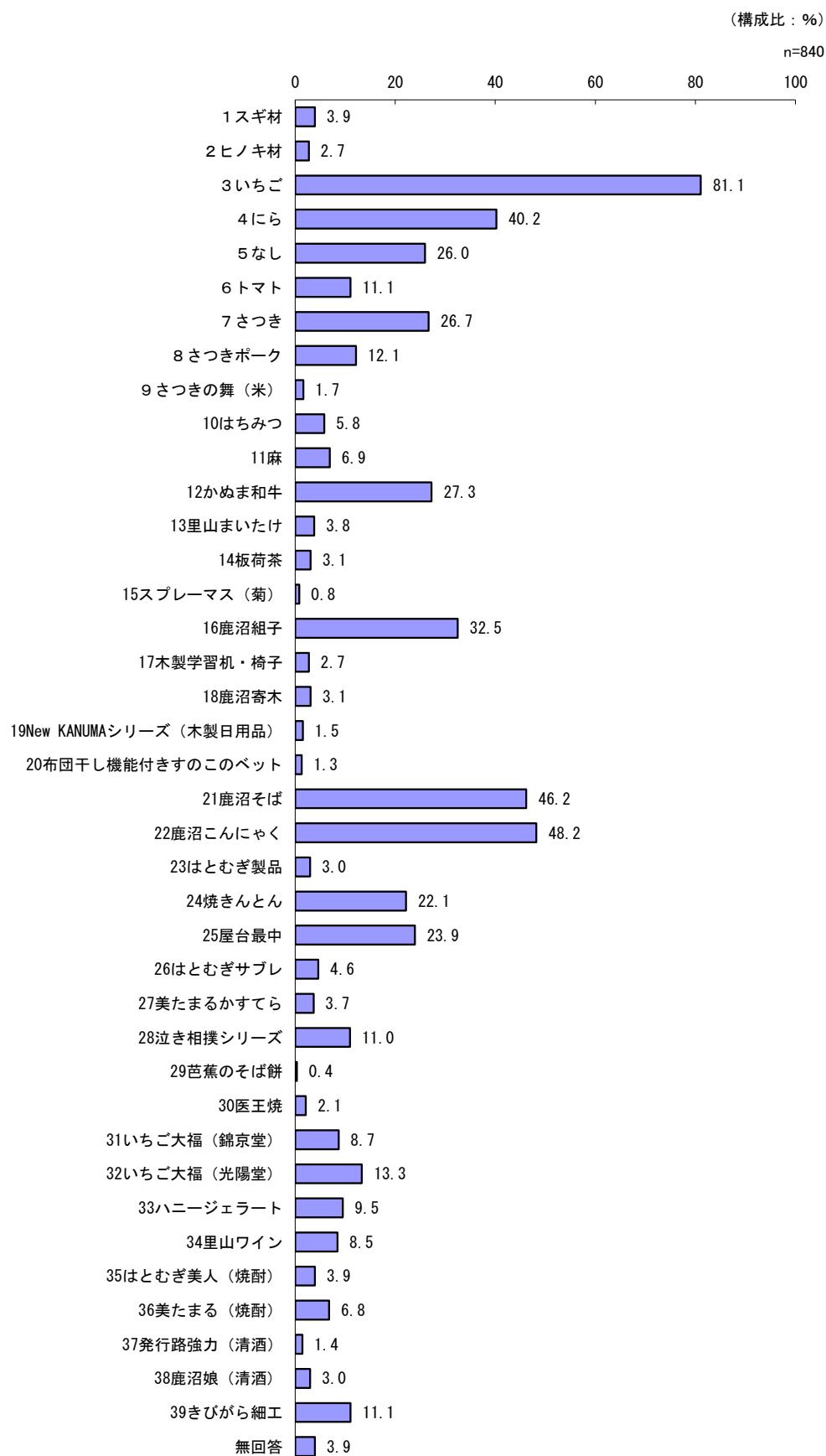
【全体】

友人や親戚におすすめする「かぬまブランド品」について全体で見ると、「3いちご」81.1%が最も高く、8割を超えており、市の「いちご市」宣言などのPRが浸透していることがうかがえる結果となっている。

次いで「22 鹿沼こんにゃく」48.2%、「21 鹿沼そば」46.2%、「4 にら」40.2%と続き、食品関連が上位に上がっている。

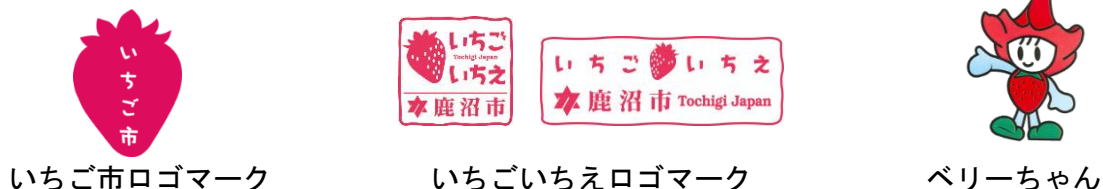
食品関連以外では「16 鹿沼組子」32.5%が最も高く、3割を超えている。

問7 友人や親戚におすすめする「かぬまブランド品」【全体】(MA)

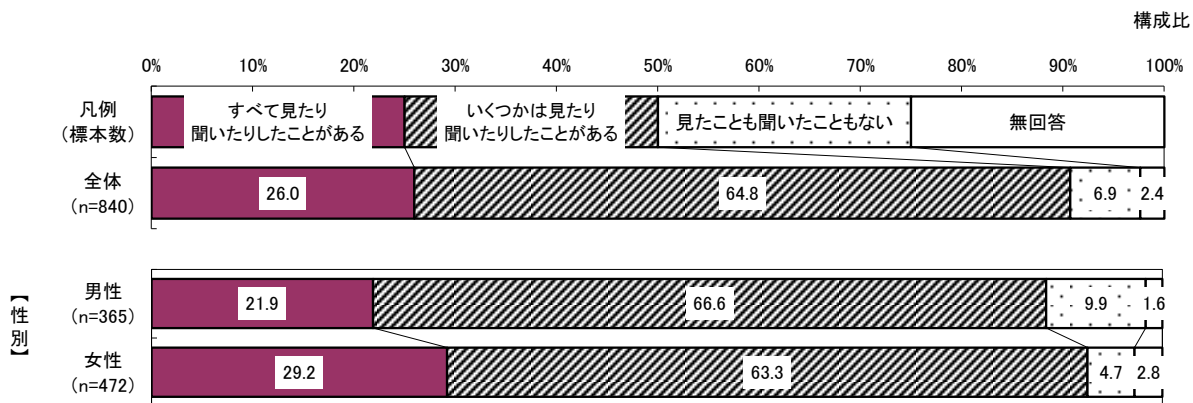


(3) 「いちご」によるPR活動の認知状況

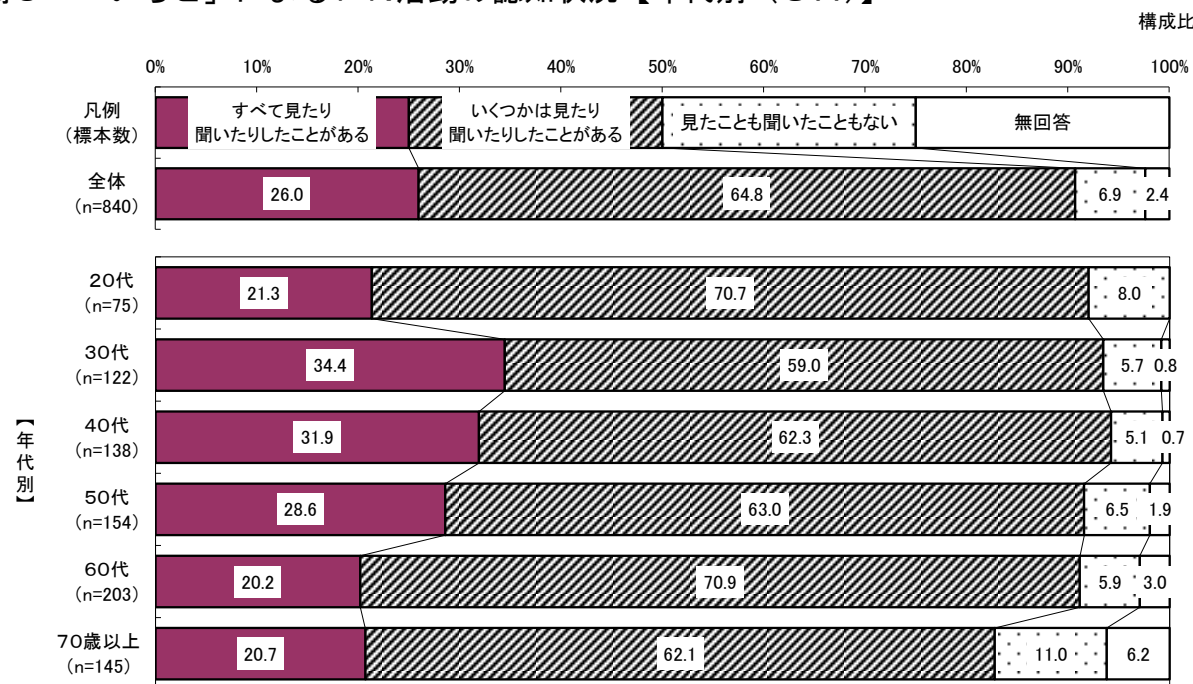
問8 鹿沼市は、平成28年11月に「いちご市」宣言を行う等、「いちご」による様々なPR活動をしています。あなたは「いちご市」という文字や言葉を見た・聞いたことはありますか。また、「いちごいちえ」、「ベリーちゃん」等のロゴマークやキャラクター、イベント、看板等を見た・聞いたことがありますか。次の中から1つ選んでください。



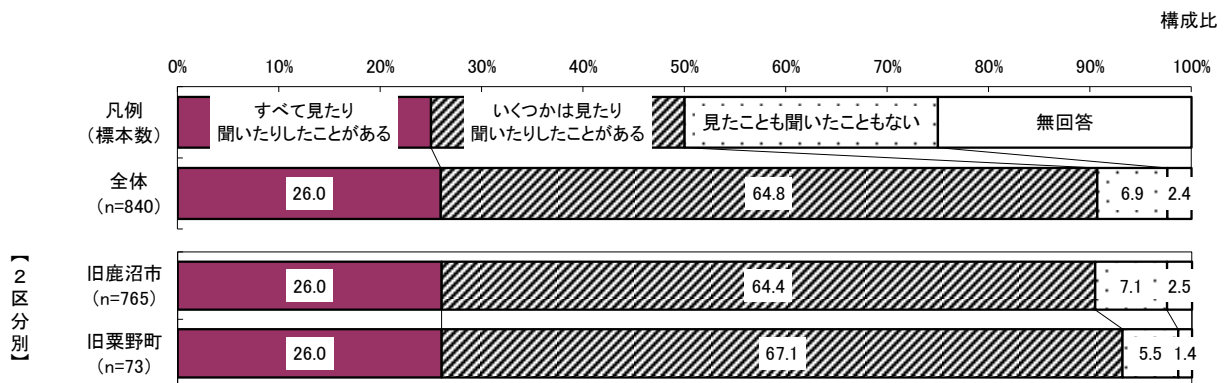
問8 「いちご」によるPR活動の認知状況【性別】(SA)



問8 「いちご」によるPR活動の認知状況【年代別】(SA)



問8 「いちご」によるPR活動の認知状況【居住地区別（2区分）】（SA）



問8 「いちご」によるPR活動の認知状況

◎約9割が『見たり聞いたりしたことがある』と回答。

【全体】

鹿沼市の「いちご」による様々なPR活動の認知状況（「いちご市」という文字や言葉を見た・聞いたことや、「いちごいちえ」、「ベリーちゃん」等のロゴマークやキャラクター、イベント、看板等を見た・聞いたことがあるか）を全体で見ると、「すべて見たり聞いたりしたことがある」が26.0%、「いくつかは見たり聞いたりしたことがある」が64.8%となっており、2つを合わせた『見たり聞いたりしたことがある』は90.8%となっている。一方、「見たことも聞いたこともない」との割合は6.9%と1割を下回っている。

【性別】

性別で見ると、「すべて見たり聞いたりしたことがある」の割合は女性のほうが男性よりも高く、「いくつかは見たり聞いたりしたことがある」の割合は男性の方が女性よりも高くなっている。『見たり聞いたりしたことがある』は男性が88.5%、女性が92.5%で、女性が男性を4.0ポイント上回っている。「見たことも聞いたこともない」は男性が9.9%、女性は4.7%となっており、男性が女性を5.2ポイント上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で『見たり聞いたりしたことがある』の割合は9割を超えている。なお、「すべて見たり聞いたりしたことがある」は30代が34.4%、40代が31.9%と3割を超えており、ともに他の年代よりも高い。一方、「見たことも聞いたこともない」の割合は70歳以上が11.0%と最も高く、40代が5.1%と最も低くなっている。

【居住地区別（2区分）】

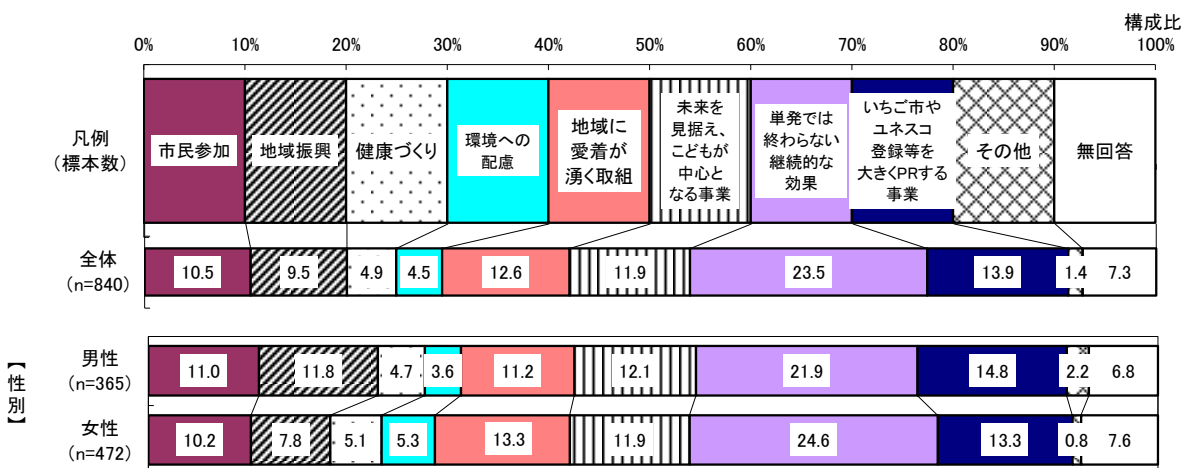
居住地区別（2区分）で見ると、『見たり聞いたりしたことがある』の割合は旧鹿沼市が90.4%、旧栗野町が93.1%となっており、ともに9割を超えている。

4 市制70周年記念事業

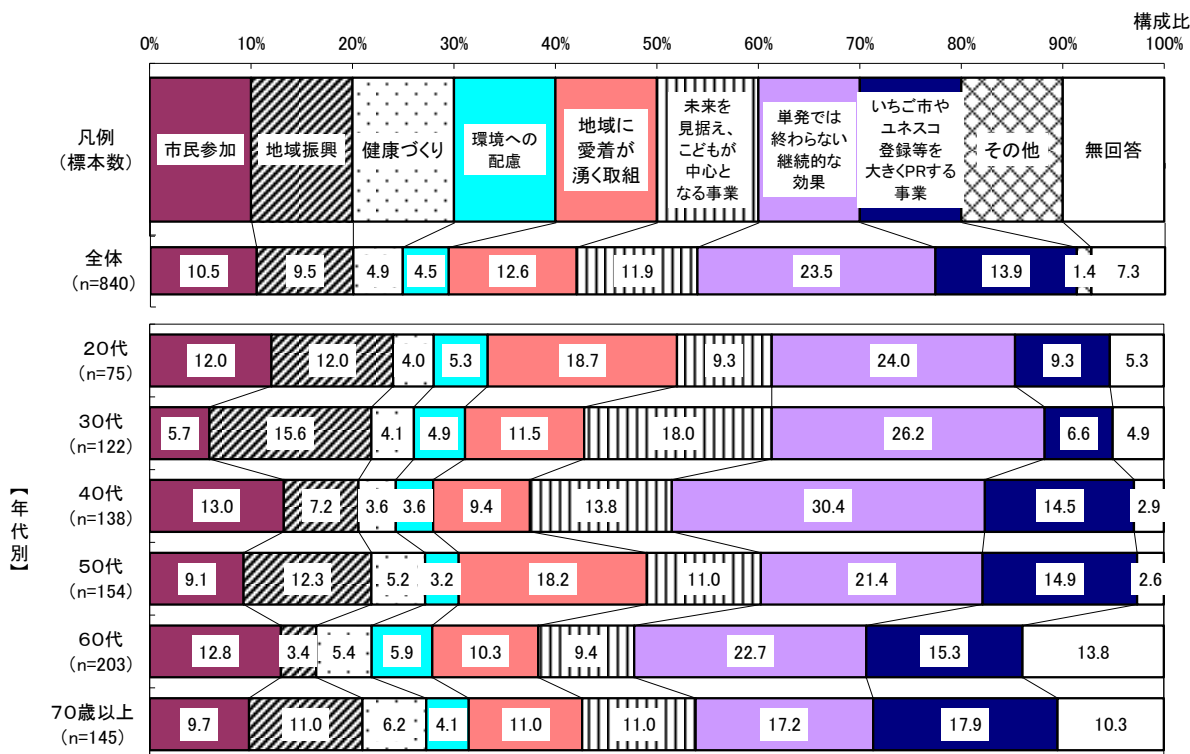
(1) 記念事業に期待すること

問9 鹿沼市が市制を施行した昭和23年から来年で、70周年を迎えます。そこで本市では、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの間、市制70周年の記念事業を実施する予定です。記念事業に期待することを次の中から1つ選んでください。

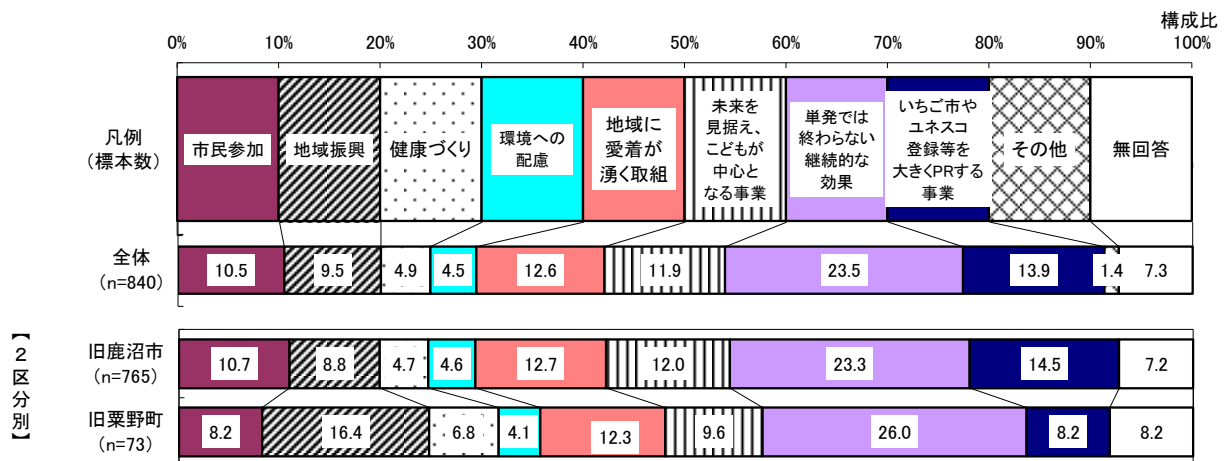
問9 記念事業に期待すること【性別】(SA)



問9 記念事業に期待すること【年代別】(SA)



問9 記念事業に期待すること【居住地区別（2区分）】（SA）



問9 記念事業に期待すること

◎「単発では終わらない継続的な効果」が2割超。

【全体】

市制70周年の記念事業に期待することを全体でみると、「単発では終わらない継続的な効果」が23.5%で最も高く、唯一2割を超えている。次いで、「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」が13.9%、「地域に愛着が湧く取組」が12.6%となっている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「単発では終わらない継続的な効果」が最も高く、いずれも2割を超えている。男性は、次いで「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」「未来を見据え、こどもが中心となる事業」「地域振興」の順で高く、いずれも1割を超えている。女性は、次いで「地域に愛着が湧く取組」と「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」が同率で並び、「未来を見据え、こどもが中心となる事業」の順で高く、いずれも1割を超えている。

【年代別】

年代別でみると、70歳以上のみ「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」が17.9%で最も高く、次いで「単発では終わらない継続的な効果」が17.2%で続いている。60代までは、すべての年代で「単発では終わらない継続的な効果」が最も高く、特に40代は30.4%と約3割となっている。「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」は、20代で9.3%、30代で6.6%と1割に満たないが、40代では14.5%となり、年代が上がるにつれ高くなっている。

【居住地区別（2区分）】

居住地区別（2区分）でみると、旧鹿沼市、旧栗野町ともに「単発では終わらない継続的な効果」が最も高く、2割を超えている。旧鹿沼市は、次いで「いちご市やユネスコ登録等を大きくPRする事業」が14.5%、「地域に愛着が湧く取組」が12.7%となっている。一方、旧栗野町は、次いで「地域振興」が16.4%、「地域に愛着が湧く取組」が12.3%となっている。

(2) 記念事業を盛り上げる工夫

問 10 記念事業を盛り上げる工夫についてアイデアをお寄せください。

記念事業を盛り上げる工夫についてアイデアとしての具体的な回答は、以下のものなどが寄せられている(順不同)。

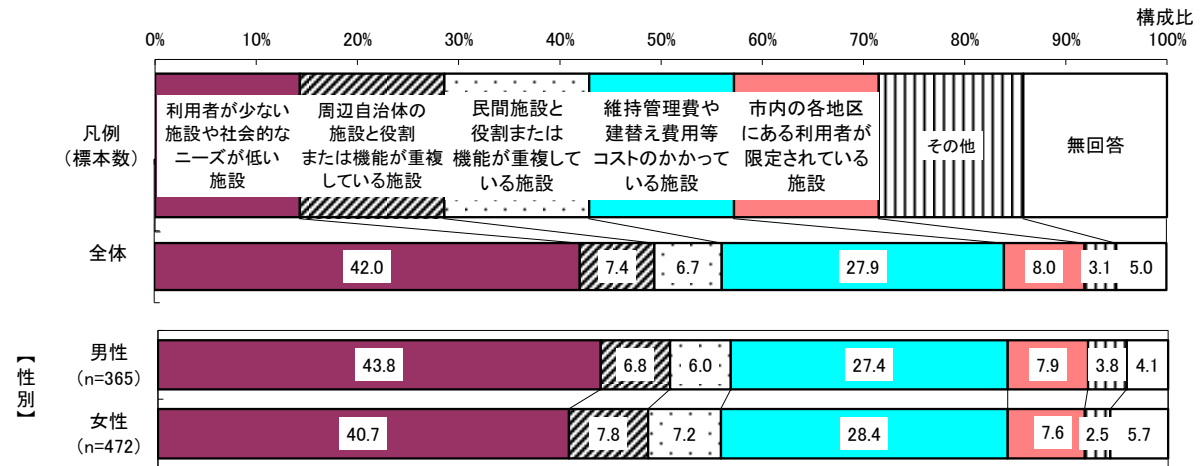
- 新しいイベントの開催(有名人によるコンサート、抽選による無料招待の催し、いちごいちえ(一期一会)ということで、大規模なお見合いパーティーなど)
- PRの強化、いちごを使ったPR(幅広い世代が興味を持つような事を仕掛ける、全国のいちごブランド商品の食べ比べ等のイベントなど)
- 既存イベントの強化(さつき花火大会を盛大に行う、屋台をもっとわかりやすく展示する地図を作成する、若い子にいちご市をPRしてもらうなど)
- 市全体の参加(老いも若きも一緒に踊れる盆踊り、障がい者も参加できるイベントなど)
- 資金面(クラウドファンディングにて資金調達、できるだけお金をかけないようになど)
- 産業活性化(空き店舗を借り上げて起業したい人に貸す、首都圏の福祉施設を誘致して職員の雇用を市内からしてもらうなど)
- 市制50周年、60周年の記念事業を知っている市民は皆無であると思う。市制〇〇周年に合わせた、祭りやイベント、を繰り返すことで市民に市制周年のPR(すりこみ)を実施する。(イベントは同じものを実施していく)
- 鹿沼町～鹿沼市～現在までの(市制及び歴史等)について振りかえる。市民(小学生も含め)や移住者にどう知ってもらうかが課題。記念誌などを発行する。
- 市民が参加しやすいよう、個人での参加だけではなく、家族や会社単位で参加出来るようなイベント(スポーツ、レクリエーション)を開催してほしい。周知、アピールする為にも、市民の参加を重視すべき。
- 鹿沼市の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校から代表を選び、子供達に70周年記念事業のお手伝いをしてもらいながら、鹿沼市のよさ、住みやすさなどPRしてもらう。

5 公共施設の適正配置

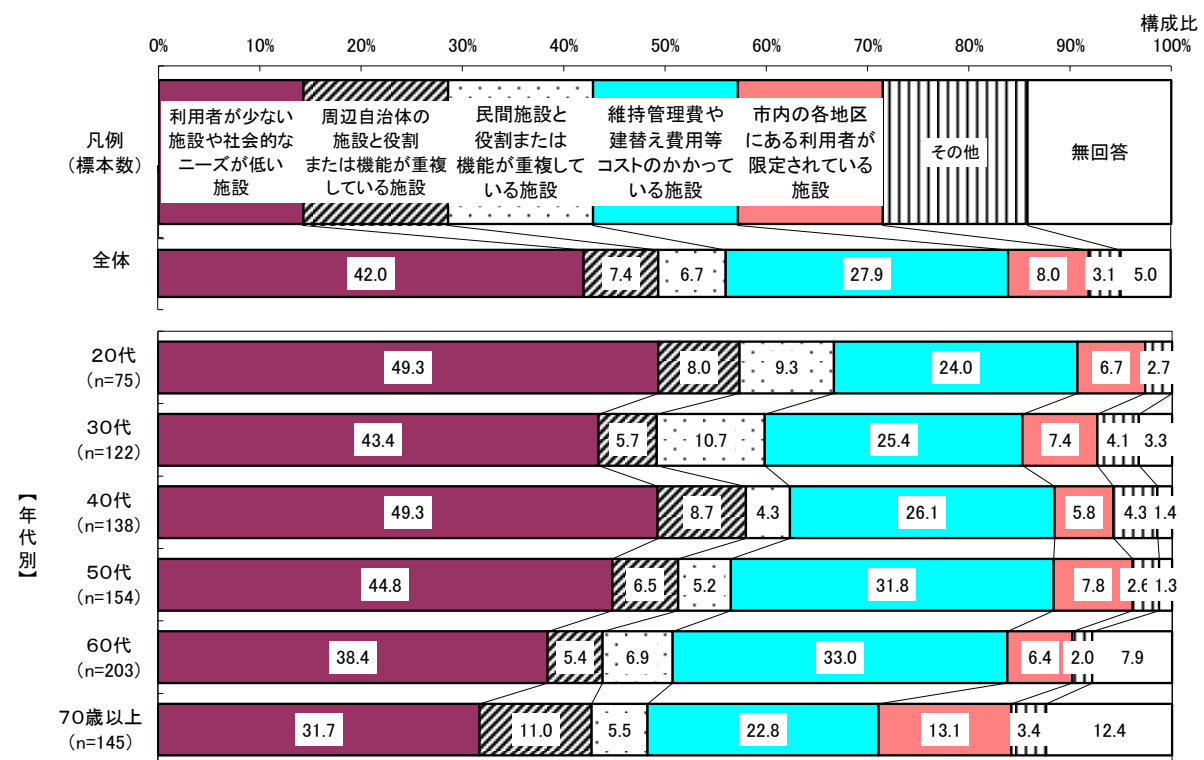
(1) 今後の公共施設見直しで優先すべき施設

問 11 今後、公共施設のあり方を見直す際に、どのような施設から検討していくべきと考えますか。次の中から1つ選んでください。

問 11 今後の公共施設見直しで優先すべき施設【性別】(SA)

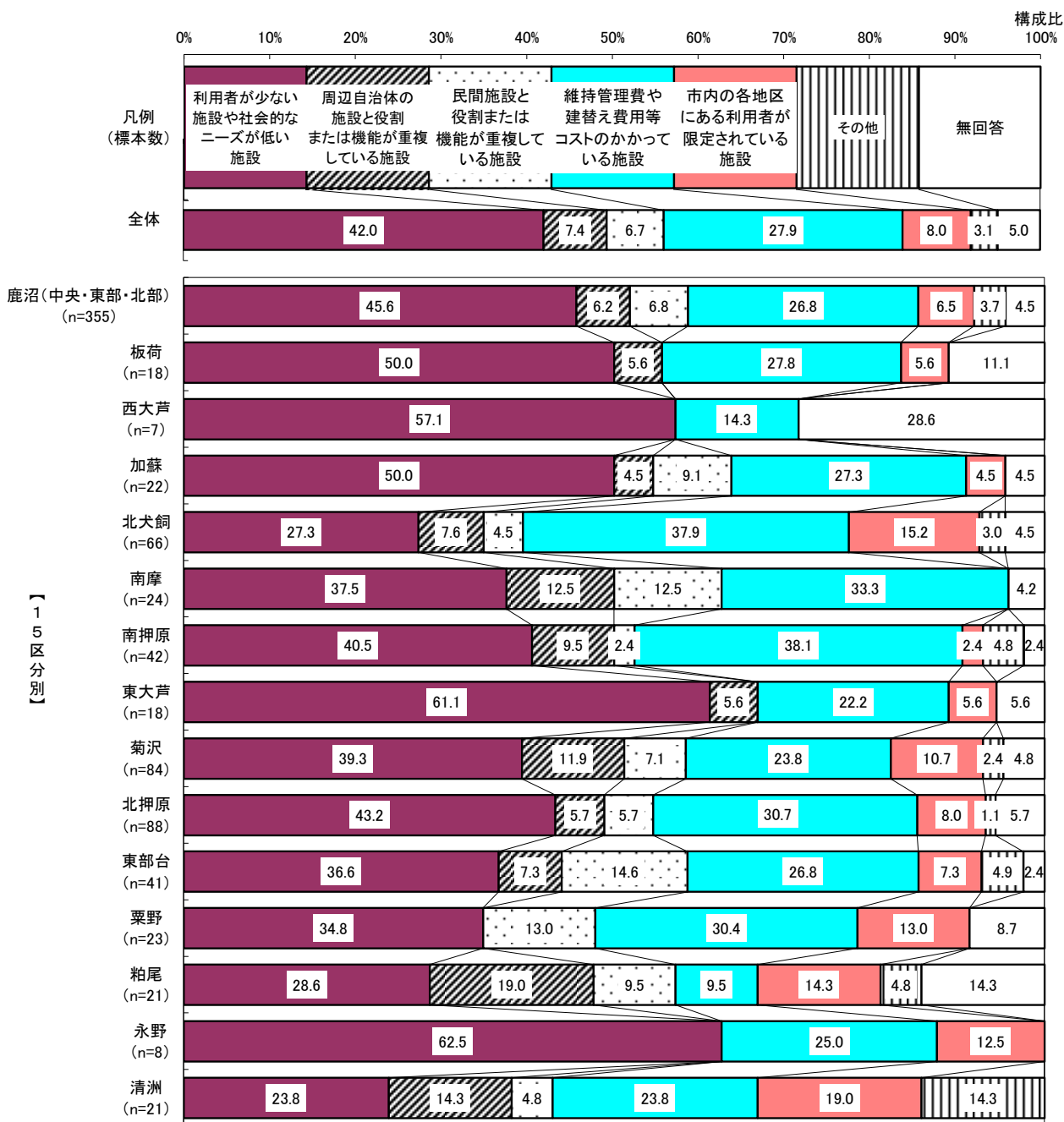


問 11 今後の公共施設見直しで優先すべき施設【年代別】(SA)

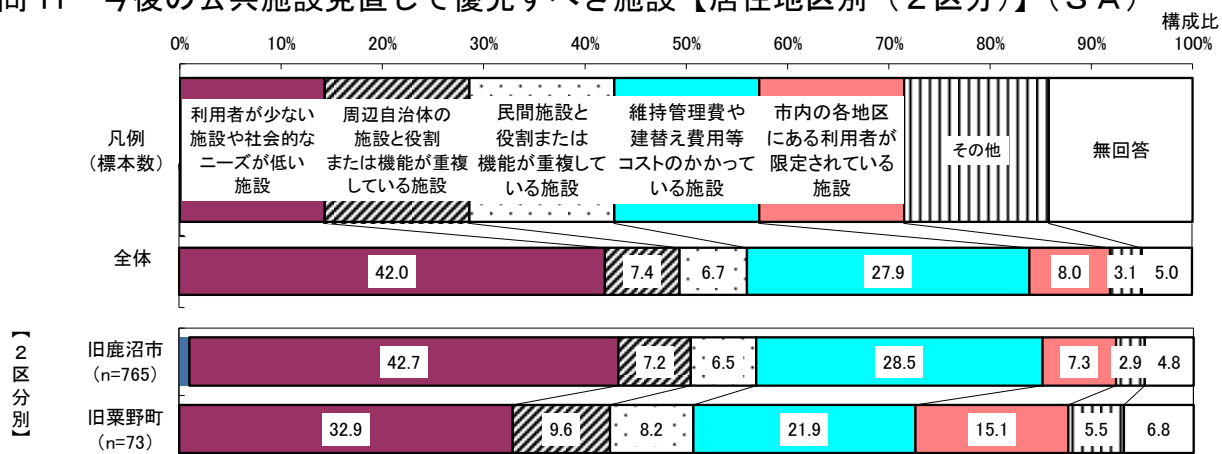


第3章 調査結果の分析

問 11 今後の公共施設見直しで優先すべき施設【居住地区別（15区分）】（SA）



問 11 今後の公共施設見直しで優先すべき施設【居住地区別（2区分）】（SA）



問 11 今後の公共施設見直しで優先すべき施設

◎「利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設」が4割超。

【全体】

今後、公共施設のあり方を見直す際に、どのような施設から検討していくべきかを全体でみると、「利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設」が 42.0%で最も高く、4割を超えている。次いで、「維持管理費や建替え費用等コストのかかっている施設」が 27.9%となっている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設」が最も高くいずれも4割を超え、次いで「維持管理費や建替え費用等コストのかかっている施設」が高く、いずれも2割を超えている。

【年代別】

年代別でみると、「利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設」は、20代および40代とともに49.3%と最も高く、30代と50代も4割を超えているが、60代で38.4%、70歳以上では31.7%と割合が低くなっている。「維持管理費や建替え費用等コストのかかっている施設」は60代が33.0%で最も高く、次いで50代が31.8%と続き、これらの年代で3割を超えている。「周辺自治体の施設と役割または機能が重複している施設」「市内の各地区にある利用者が限定されている施設」は、70歳以上のみ1割を超えている。「民間施設と役割または機能が重複している施設」は30代で10.7%と、唯一1割を超えている。

【居住地区別（2区分）】

居住地区別（2区分）でみると、「利用者が少ない施設や社会的なニーズが低い施設」は、旧鹿沼市が42.7%、旧栗野町が32.9%となっており、旧鹿沼市の方が旧栗野町よりも9.8ポイント高くなっている。一方、「市内の各地区にある利用者が限定されている施設」は旧栗野町が15.1%、旧鹿沼市が7.3%となっており、旧栗野町市の方が旧鹿沼よりも7.8ポイント高くなっている。

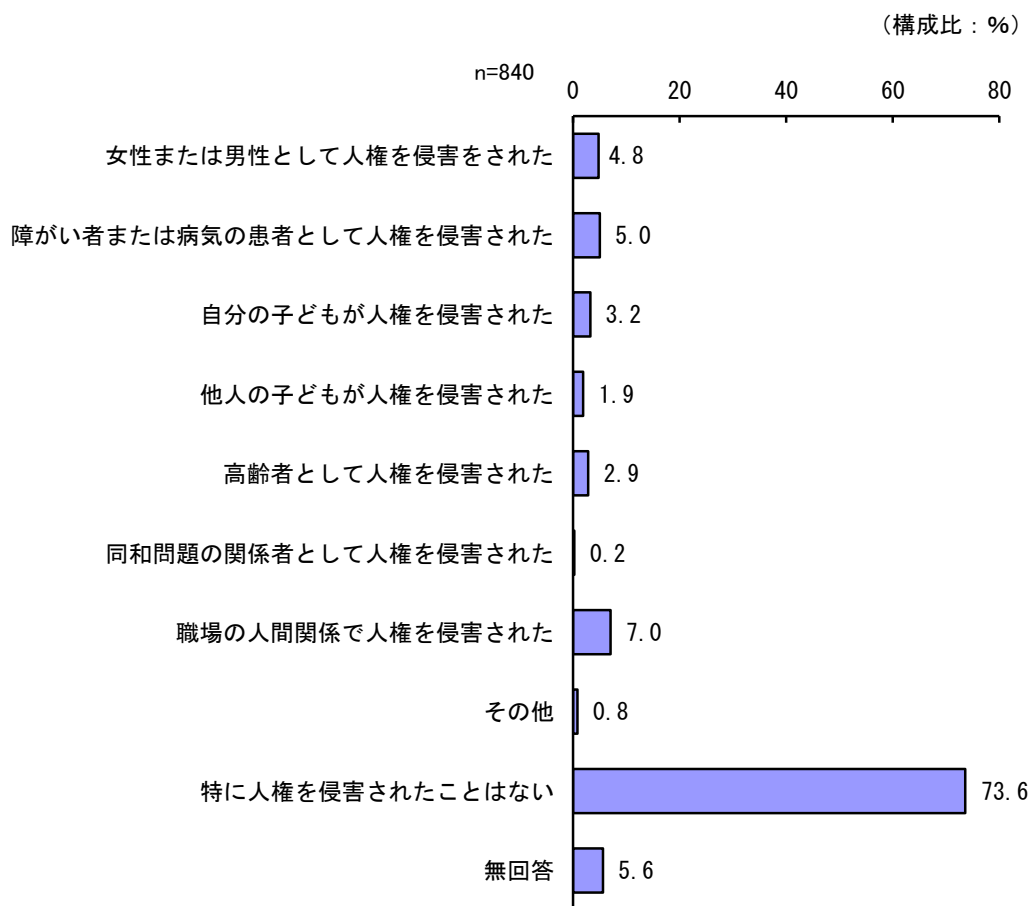
6

人権行政

(1) 人権侵害の有無

問 12 あなたはこの1年間に、自分または身近な子どもの人権が侵害されたと感じたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。

問 12 人権侵害の有無【全体】(MA)



問 12 人権侵害の有無【性別・年代別】(MA)

(構成比:%)

		女性または男性として 人権を侵害をされた	障がい者または病気の患者 として人権を侵害された	自分の子どもが 人権を侵害された	他人の子どもが 人権を侵害された	高齢者として 人権を侵害された	同和問題の関係者として 人権を侵害された	職場の人間関係で 人権を侵害された	その他	特に人権を侵害された ことはない	無回答
	全体(n=840)	4.8	5.0	3.2	1.9	2.9	0.2	7.0	0.8	73.6	5.6
性別	男性(n=365)	2.2	4.1	2.2	1.9	3.0	0.3	5.5	0.5	77.3	5.8
	女性(n=472)	6.8	5.7	4.0	1.9	2.8	0.2	8.3	1.1	70.6	5.5
年代	20代(n=75)	5.3	0.0	1.3	2.7	1.3	0.0	9.3	0.0	81.3	1.3
	30代(n=122)	9.8	4.9	2.5	1.6	0.8	0.0	12.3	0.0	72.1	2.5
	40代(n=138)	7.2	8.7	8.0	3.6	0.0	0.0	8.0	0.7	69.6	2.2
	50代(n=154)	3.2	3.9	2.6	1.3	0.0	0.0	9.7	2.6	75.3	5.8
	60代(n=203)	1.5	4.9	3.0	2.5	3.9	1.0	4.9	0.0	72.9	8.9
	70歳以上(n=145)	4.1	5.5	1.4	0.0	9.7	0.0	0.7	1.4	73.1	9.0

問 12 人権侵害の有無

◎「特に人権を侵害されたことはない」が7割超。人権侵害有りでは職場での人間関係が最も多い。

【全体】

人権侵害の有無について全体でみると、「特に人権を侵害されたことはない」が73.6%で最も高く、7割超となっている。一方、侵害があった中では、「職場の人間関係で人権を侵害された」が7.0%となっており、他の人権侵害と比べてやや高くなっている。

「その他」の具体的な回答では、「子供がいない理由で人格をどれだけ否定されたか。」「職場の雇用形態による差別」「近所」「よそ者のくせにと言われた。」「言葉がキツイ」の回答が寄せられた。

【性別】

性別でみると、「特に人権を侵害されたことはない」は男性が77.3%、女性が70.6%と、男性が女性より6.7ポイント上回っている。また、「女性または男性として人権を侵害された」は女性が6.8%で、男性の2.2%を4.6ポイント、「職場の人間関係で人権を侵害された」は女性の8.3%が、男性の5.5%を2.8ポイントそれぞれ上回っており、社会の中で女性が人権侵害を受けたと感じている割合は、男性よりやや高くなっている。

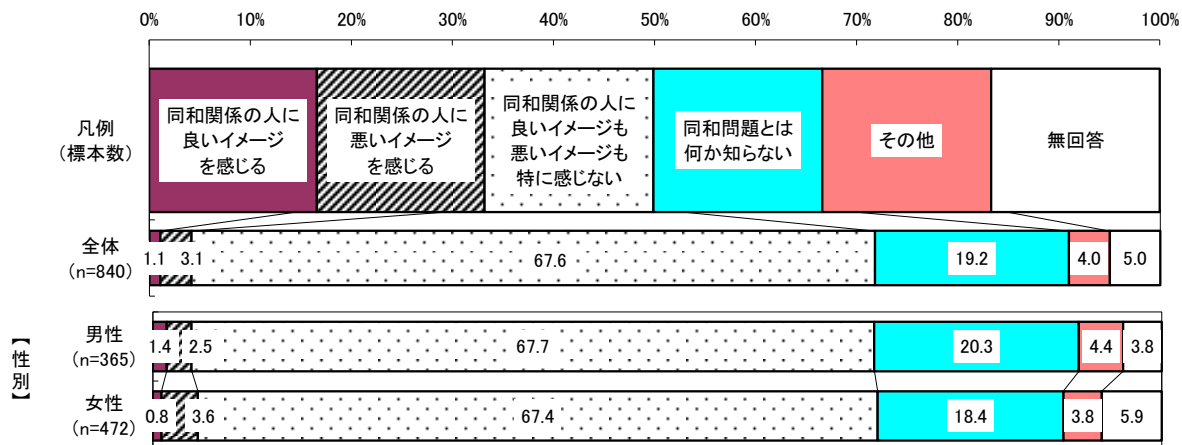
【年代別】

年代別でみると、「職場の人間関係で人権を侵害された」は30代で12.3%、「女性または男性として人権を侵害された」も30代で9.8%と、いずれも他の年代に比べ高くなっている。

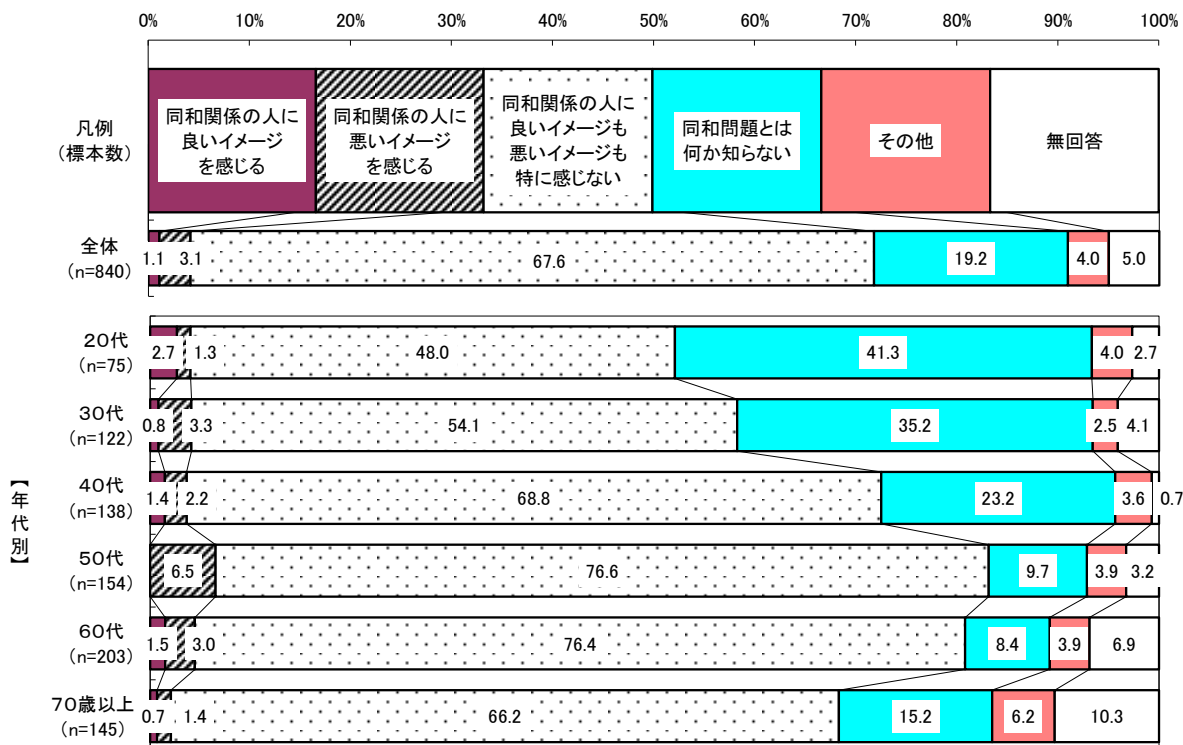
(2) 同和問題について

問 13 あなたは同和問題について、どのような受け止め方をしていますか。
次の中から1つ選んでください。

問 13 同和関係の人のイメージ【性別】(SA)



問 13 同和関係の人のイメージ【年代別】(SA)



問 13 同和関係の人のイメージ

◎「良いイメージも悪いイメージも特に感じない」が7割近く。

【全体】

同和関係の人のイメージについて全体でみると、「同和関係の人に良いイメージも悪いイメージも特に感じない」が67.6%と7割近くを占めている。また「同和問題とは何か知らない」は19.2%、「良いイメージを感じる」は1.1%、「悪いイメージを感じる」は3.1%となっている。

【性別】

性別でみると、「同和関係の人に良いイメージも悪いイメージも特に感じない」は男性が67.7%、女性が67.4%と、男女ともに7割近くとなっている。また、「同和問題とは何か知らない」は男性が20.3%、女性が18.4%と、2割前後となっている。

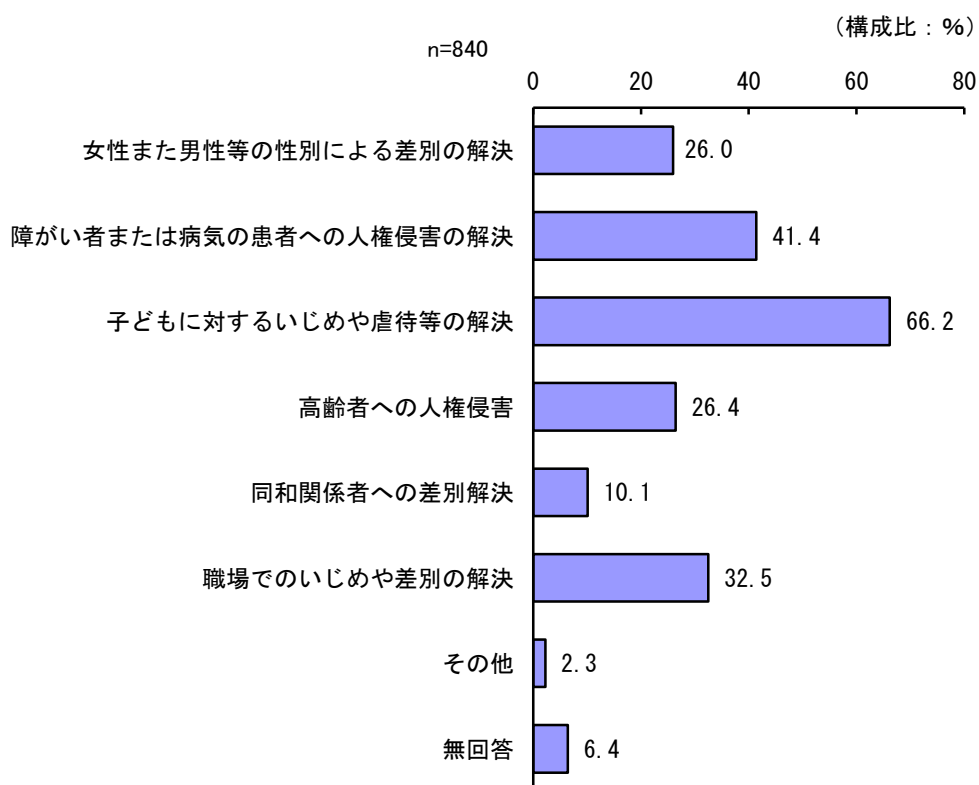
【年代別】

年代別でみると、「同和関係の人に良いイメージも悪いイメージも特に感じない」は50代で76.6%、60代76.4%と7割を超えて他の年代に比べ高く、20代が48.0%と最も低い。一方、「同和問題とは何か知らない」は20代で41.3%、30代で35.2%と若年層が3割を超えて、他の年代に比べ高くなっている。「悪いイメージを感じる」は50代で6.5%と最も高く、「良いイメージを感じる」は20代で2.7%と最も高くなっている。

(3) 解決してほしい人権問題

問 14 あなたはどのような人権問題の解決を望みますか。
次の中からいくつでも選んでください。

問 14 解決してほしい人権問題【全体】(MA)



問 14 解決してほしい人権問題【性別・年代別・職業別】(MA)

(構成比:%)

		女性または男性等の性別による差別の解決	障がい者または病気の患者への人権侵害の解決	子どもに対するいじめや虐待等の解決	高齢者への人権侵害の解決	同和関係者への差別の解決	職場でのいじめや差別の解決	その他	無回答
	全体(n=840)	26.0	41.4	66.2	26.4	10.1	32.5	2.3	6.4
性別	男性(n=365)	22.7	44.1	62.7	26.0	10.4	27.7	2.5	7.1
	女性(n=472)	28.6	39.4	68.6	26.9	10.0	36.2	2.1	5.9
年代	20代(n=75)	44.0	48.0	74.7	37.3	18.7	49.3	0.0	1.3
	30代(n=122)	38.5	50.0	73.0	32.0	15.6	45.9	2.5	2.5
	40代(n=138)	26.8	51.4	69.6	23.9	10.1	38.4	2.9	3.6
	50代(n=154)	29.2	43.5	70.1	22.1	7.8	34.4	2.6	1.3
	60代(n=203)	17.2	35.0	64.0	19.2	7.9	24.6	1.0	10.8
	70歳以上(n=145)	13.1	29.0	51.0	33.8	6.9	15.9	4.1	14.5
	職業	専門職(n=8)	25.0	25.0	75.0	25.0	0.0	12.5	0.0
	管理職(n=30)	36.7	63.3	80.0	36.7	10.0	43.3	3.3	0.0
	事務・技術職(n=161)	32.3	47.8	67.7	26.7	11.8	32.9	1.2	3.7
	販売・生産・労務職(n=118)	25.4	50.8	70.3	28.0	10.2	39.0	1.7	3.4
	農林水産業従事者(n=29)	24.1	41.4	72.4	24.1	13.8	13.8	6.9	10.3
	自営業(n=73)	13.7	34.2	65.8	26.0	4.1	27.4	2.7	6.8
	パート・アルバイト(n=119)	27.7	37.0	67.2	18.5	7.6	44.5	1.7	5.0
	主に家事、育児(n=83)	30.1	39.8	72.3	26.5	10.8	32.5	2.4	3.6
	学生(n=16)	50.0	62.5	75.0	50.0	37.5	62.5	0.0	0.0
	無職(n=158)	17.7	33.5	55.7	28.5	10.1	19.6	2.5	16.5
	その他(n=33)	27.3	30.3	54.5	18.2	9.1	36.4	6.1	3.0

問 14 解決してほしい人権問題

◎「子どもに対するいじめや虐待等の解決」が66.2%。

【全体】

解決してほしい人権問題について全体でみると、「子どもに対するいじめや虐待等の解決」が66.2%と最も高くなっている。次いで「障がい者または病気の患者への人権侵害の解決」が41.4%、「職場でのいじめや差別の解決」が32.5%と3割を超えて続いている。

「その他」の具体的な差別についての回答では、「性同一障害への差別」「LGBTQ（女性・男性としか表記が無いので遅れを感じる）」や、「地域・ご近所の間での嫉妬によるいじめをなくしてほしい。」「町内での差別」や、「人種差別の解決」「迷惑をかけぬよう心がけて歩いているのに、たまに邪魔とどなられます。とっても心のまずしい人と思っています。」「北朝鮮に連れて行かれた拉致被害者を救え。」などの回答が寄せられた。

【性別】

性別でみると、「職場でのいじめや差別の解決」は、女性が36.2%で男性の27.7%を8.5ポイント上回っている。また、「子どもに対するいじめや虐待等の解決」は、女性が68.6%で男性62.7%を5.9ポイント、「女性または男性等の性別による差別の解決」も、女性が28.6%で男性22.7%を5.9ポイントと上回っている。

【年代別】

年代別でみると、「子どもに対するいじめや虐待等の解決」は20代から60代でいずれも6割を超え、70歳以上の51.0%に比べ高い。「障がい者または病気の患者への人権侵害の解決」は、20代から50代でいずれも4割を超えており、60代および70歳以上に比べ高い。「同和関係者への差別解決」は20代で18.7%と最も高く、70歳以上で6.9%と最も低くなって、概ね年代が上がるにつれ低くなっている。

【職業別】

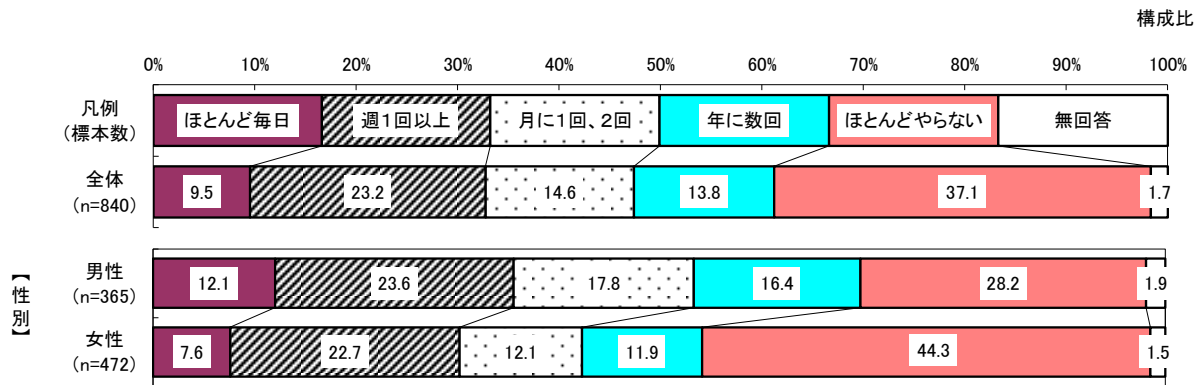
職業別でみると、「子どもに対するいじめや虐待等の解決」は、すべての職業で5割を超えている。また、「障がい者または病気の患者への人権侵害の解決」は、管理職、学生で6割を超え、「職場でのいじめや差別の解決」は学生で62.5%と6割を超えて高く、「女性または男性等の性別による差別の解決」は学生で50.0%と5割を占めて高くなっている。

7 市民のスポーツ・レクリエーション活動

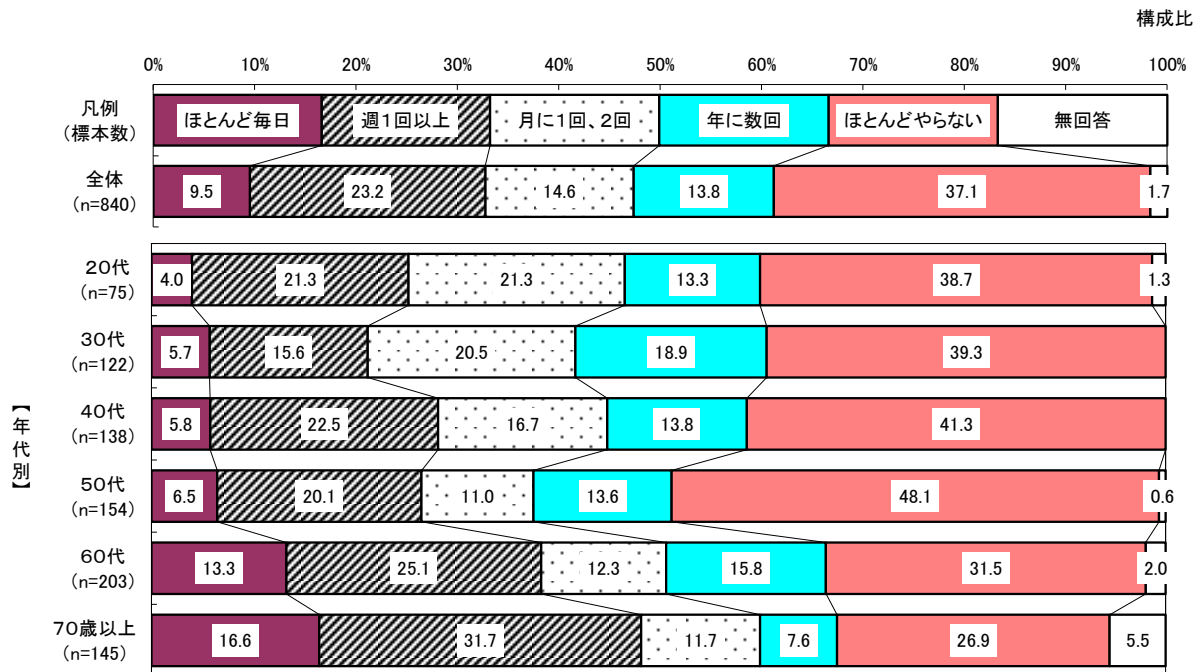
(1) 1年間にスポーツやレクリエーションをした回数

問 15 あなたはこの1年間、どのくらいスポーツやレクリエーションをしましたか。
 (ウォーキング、ジョギング等も含まれます。) 次の中から1つ選んでください。

問 15 1年間にスポーツやレクリエーションをした回数【性別】(SA)

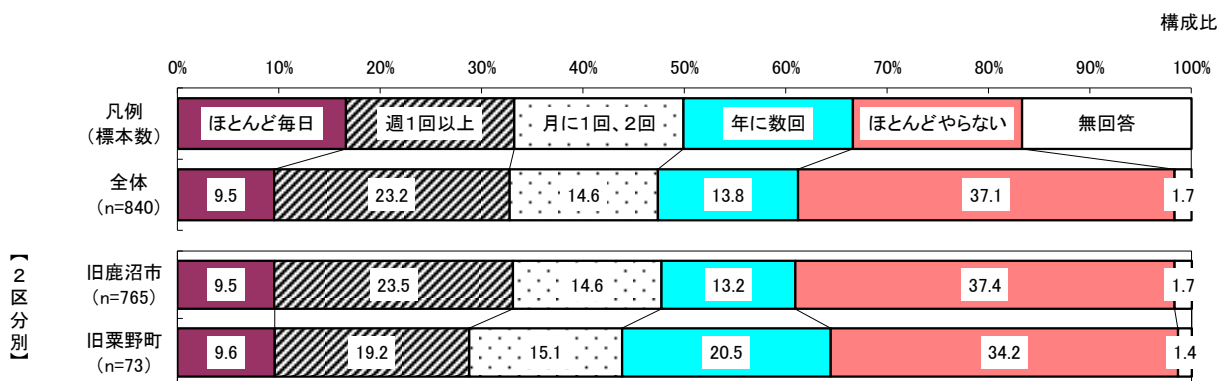


問 15 1年間にスポーツやレクリエーションをした回数【年代別】(SA)



第3章 調査結果の分析

問 15 1年間にスポーツやレクリエーションをした回数【居住地区別（2区分）】
（SA）



問 15 1年間にスポーツやレクリエーションをした回数

◎「ほとんどやらない」が4割近く。『週1回以上』は3割超。

【全体】

1年間にスポーツやレクリエーションをした回数について全体で見ると、「ほとんどやらない」が37.1%で4割近くとなっている。次いで「週1回以上」が23.2%、「月に1回、2回」が14.6%となっている。「ほとんど毎日」と「週1回以上」を合わせた『週1回以上』は32.7%と、3割を超えている。

【性別】

性別で見ると、「ほとんどやらない」は、女性が44.3%で男性の28.2%を16.1ポイント差で大幅に上回っている。一方、『週1回以上』は、男性が35.7%で女性の30.3%を5.4ポイント上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、「ほとんどやらない」は50代が48.1%、40代が41.3%といずれも4割を超えて、他の年代に比べ高く、最も低いのは70歳以上の26.9%となっている。「ほとんど毎日」は70歳以上で16.6%、60代で13.3%と、他の年代に比べて高くなっている。『週1回以上』も70歳以上で48.3%、60代で38.4%と3割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

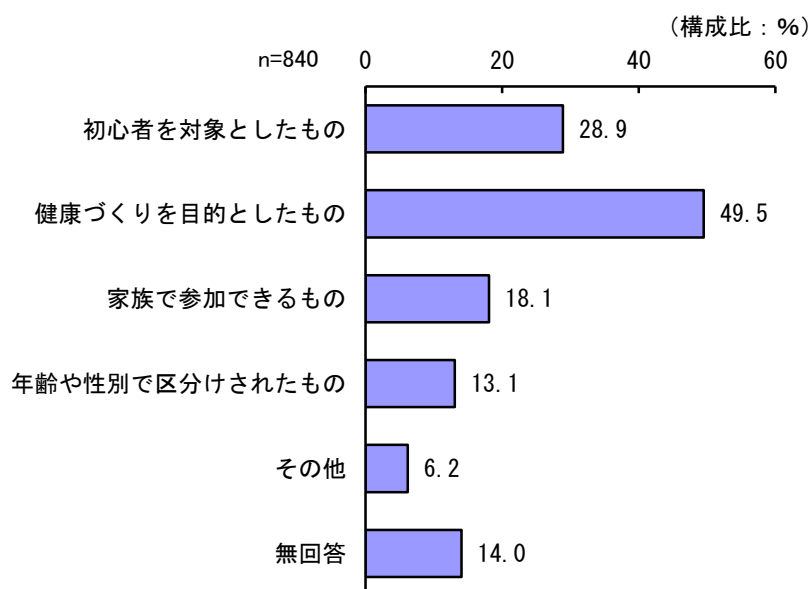
【居住地区別（2区分）】

居住地区別（2区分）で見ると、「ほとんどやらない」は、旧鹿沼市が37.4%、旧粟野町が34.2%と、いずれも3割を超えている。『週1回以上』は、旧鹿沼市が33.0%、旧粟野町が28.8%と、3割前後となっている。

(2) 参加したいスポーツやレクリエーションの大会・教室・講座

問 16 あなたが参加したいスポーツやレクリエーションの大会、教室、講座はなんですか。
次の中からいくつでも選んでください。

問 16 参加したいスポーツやレクリエーションの大会・教室・講座【全体】(MA)



第3章 調査結果の分析

問 16 参加したいスポーツやレクリエーションの大会・教室・講座

【性別・年代別・居住地区別】(MA)

(構成比:%)

		初心者を対象としたもの	健康づくりを目的としたもの	家族で参加できるもの	区分けされた年齢や性別で分けられたもの	その他	無回答
	全体(n=840)	28.9	49.5	18.1	13.1	6.2	14.0
性別	男性(n=365)	22.5	50.7	18.1	12.9	7.4	13.7
	女性(n=472)	33.9	48.5	18.2	13.3	5.3	14.2
年代	20代(n=75)	41.3	37.3	20.0	18.7	5.3	12.0
	30代(n=122)	34.4	34.4	34.4	15.6	6.6	7.4
	40代(n=138)	34.8	47.1	30.4	9.4	7.2	8.7
	50代(n=154)	27.3	59.7	13.0	13.6	7.1	10.4
	60代(n=203)	26.6	58.1	10.3	11.8	4.9	17.2
	70歳以上(n=145)	17.2	46.9	8.3	13.1	6.2	25.5
	居住地区 (15区分)	鹿沼(中央・東部・北部)(n=355)	28.2	50.7	21.1	12.7	5.9
板荷(n=18)		33.3	61.1	11.1	5.6	5.6	16.7
西大芦(n=7)		14.3	42.9	14.3	42.9	0.0	14.3
加蘇(n=22)		36.4	45.5	18.2	4.5	13.6	13.6
北犬飼(n=66)		27.3	54.5	15.2	4.5	4.5	13.6
南摩(n=24)		16.7	54.2	12.5	16.7	4.2	16.7
南押原(n=42)		40.5	42.9	16.7	11.9	9.5	9.5
東大芦(n=18)		16.7	55.6	16.7	16.7	5.6	22.2
菊沢(n=84)		32.1	51.2	16.7	16.7	4.8	15.5
北押原(n=88)		27.3	47.7	18.2	14.8	9.1	14.8
東部台(n=41)		22.0	48.8	7.3	22.0	9.8	17.1
粟野(n=23)		47.8	39.1	17.4	13.0	4.3	4.3
粕尾(n=21)		28.6	47.6	23.8	9.5	0.0	19.0
永野(n=8)		37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5
清洲(n=21)		28.6	38.1	9.5	14.3	0.0	23.8

問 16 参加したいスポーツやレクリエーションの大会・教室・講座

◎「健康づくりを目的としたもの」が約5割。

【全体】

参加したいスポーツやレクリエーションの大会・教室・講座について全体で見ると、「健康づくりを目的としたもの」が49.5%で約5割となっている。次いで「初心者を対象としたもの」が28.9%、「家族で参加できるもの」が18.1%となっている。

「その他」の具体的な回答では、「託児付ならどれでも。」「参加費がかかるものは行かない。」「楽しく長く続けられるもの。」「継続ではなく、都度参加できるものが増えると嬉しい。」などの回答が寄せられた（個別のスポーツ名やレクリエーション名を除く）。

【性別】

性別で見ると、「健康づくりを目的としたもの」は、男性50.7%、女性48.5%と、それぞれ5割前後となっている。「初心者を対象としたもの」は、女性が33.9%で男性の22.5%を11.4ポイント差で大幅に上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、「健康づくりを目的としたもの」は50代が59.7%、60代が58.1%といずれも約6割と他の年代に比べ高く、最も低いのは30代の34.4%となっている。「初心者を対象としたもの」は20代で41.3%と最も高く、次いで40代が34.8%、30代が34.4%と、これらの年代で3割を超えている。「家族で参加できるもの」は30代で34.4%、40代で30.4%と、これらの年代で3割を超えている。

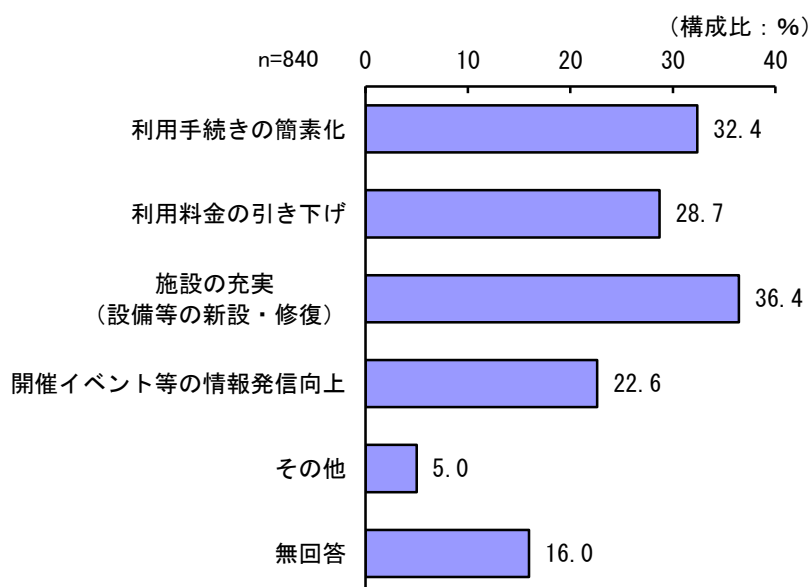
【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）で見ると、「健康づくりを目的としたもの」は、板荷61.1%、東大芦55.6%、北犬飼54.5%、南摩54.2%、菊沢51.2%、鹿沼50.7%の順で高く、これらの居住地域で5割を超えている。「初心者を対象としたもの」は栗野47.8%、南押原40.5%、加蘇36.4%の順で高く、「家族で参加できるもの」は粕尾23.8%、鹿沼21.1%、加蘇および北押原が18.2%の順で高くなっている。

(3) 鹿沼市のスポーツ施設に望むこと

問 17 あなたが鹿沼市のスポーツ施設に望むことはなんですか。
次の中からいくつでも選んでください。

問 17 鹿沼市のスポーツ施設に望むこと【全体】(MA)



問 17 鹿沼市のスポーツ施設に望むこと

【性別・年代別・居住地区別】(MA)

(構成比:%)

		利用手続きの簡素化	利用料金の引き下げ	(設備等の新設・修復)	開催イベント等の情報発信向上	その他	無回答
	全体(n=840)	32.4	28.7	36.4	22.6	5.0	16.0
性別	男性(n=365)	32.9	27.1	41.1	21.1	4.7	15.9
	女性(n=472)	31.8	29.9	33.1	23.7	5.3	16.1
年代	20代(n=75)	29.3	52.0	50.7	22.7	1.3	4.0
	30代(n=122)	37.7	37.7	54.9	21.3	7.4	4.9
	40代(n=138)	31.2	36.2	42.0	25.4	10.1	5.1
	50代(n=154)	34.4	22.1	33.1	31.2	2.6	13.0
	60代(n=203)	36.0	27.6	29.6	17.7	3.0	22.2
	70歳以上(n=145)	23.4	10.3	21.4	19.3	5.5	35.9
	居住地区 (15区分)	鹿沼(中央・東部・北部)(n=355)	33.5	31.3	37.7	23.4	4.2
板荷(n=18)		38.9	22.2	22.2	16.7	11.1	11.1
西大芦(n=7)		42.9	28.6	42.9	14.3	14.3	28.6
加蘇(n=22)		45.5	45.5	45.5	18.2	4.5	18.2
北犬飼(n=66)		36.4	27.3	28.8	27.3	3.0	10.6
南摩(n=24)		25.0	33.3	66.7	8.3	8.3	8.3
南押原(n=42)		26.2	31.0	26.2	35.7	7.1	16.7
東大芦(n=18)		11.1	16.7	27.8	22.2	5.6	22.2
菊沢(n=84)		38.1	26.2	44.0	14.3	6.0	21.4
北押原(n=88)		29.5	20.5	33.0	27.3	10.2	10.2
東部台(n=41)		17.1	26.8	24.4	22.0	0.0	26.8
粟野(n=23)		47.8	26.1	34.8	17.4	4.3	8.7
粕尾(n=21)		33.3	19.0	52.4	14.3	0.0	9.5
永野(n=8)		12.5	25.0	25.0	25.0	0.0	37.5
清洲(n=21)		28.6	38.1	28.6	28.6	0.0	19.0

第3章 調査結果の分析

問 17 鹿沼市のスポーツ施設に望むこと

◎「施設の充実（設備等の新設・修復）」と「利用手続きの簡素化」が3割超。

【全体】

鹿沼市のスポーツ施設に望むことについて全体でみると、「施設の充実（設備等の新設・修復）」が36.4%で最も高く、次いで「利用手続きの簡素化」が32.4%と、これらが3割を超えている。以下、「利用料金の引き下げ」が28.7%、「開催イベント等の情報発信向上」が22.6%の順となっている。

「その他」の具体的な回答では、「スポーツをする場所が中心から離れすぎて不便である。」「フォレストアリーナは遠いから一度も行きません。」「施設が遠いため不便です。」など場所に関することや、「駐車場が広いこと。」「施設までの交通整備。」といった交通手段に関することが、比較的多く寄せられた。

【性別】

性別でみると、「施設の充実（設備等の新設・修復）」は、男性が41.1%と、女性の33.1%を8.0ポイント上回っている。

【年代別】

年代別でみると、「施設の充実（設備等の新設・修復）」は30代が54.9%で最も高く、次いで20代が50.7%となっており、若年層で5割を超えている。40代から70歳以上では年代が上がるにつれて割合が下がっている。「利用料金の引き下げ」は20代で52.0%と唯一5割を超えており、次いで30代が37.7%と、年代が上がるにつれて割合が下がっている。「利用手続きの簡素化」は30代から60代でいずれも3割を超え、20代および70歳以上でも2割を超えている。「開催イベント等の情報発信向上」は50代で31.2%と、最も高くなっている。

【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、「施設の充実（設備等の新設・修復）」は、南摩66.7%、粕尾52.4%、加蘇45.5%、菊沢44.0%順で高く、これらの居住地域で4割を超えている。「利用料金の引き下げ」は加蘇45.5%が最も高く、「利用手続きの簡素化」は栗野47.8%が最も高く、「開催イベント等の情報発信向上」は南押原35.7%が最も高くなっている。

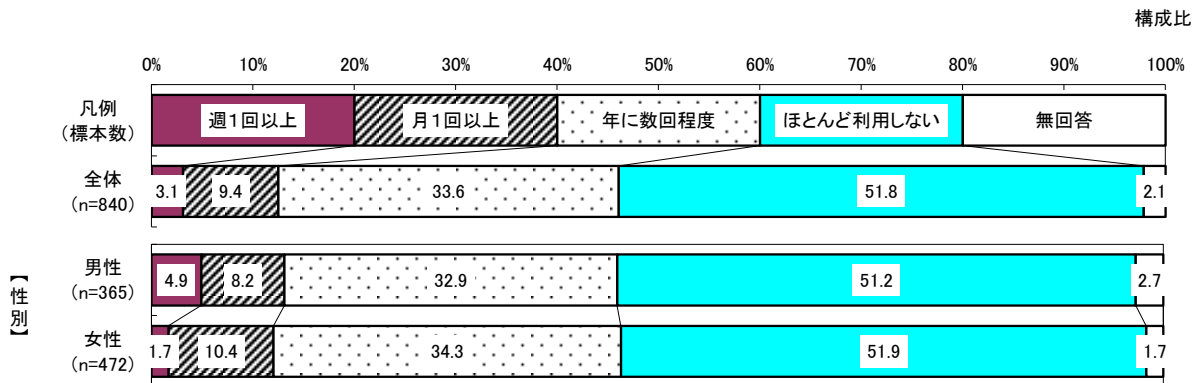
8

観光・地域活性化

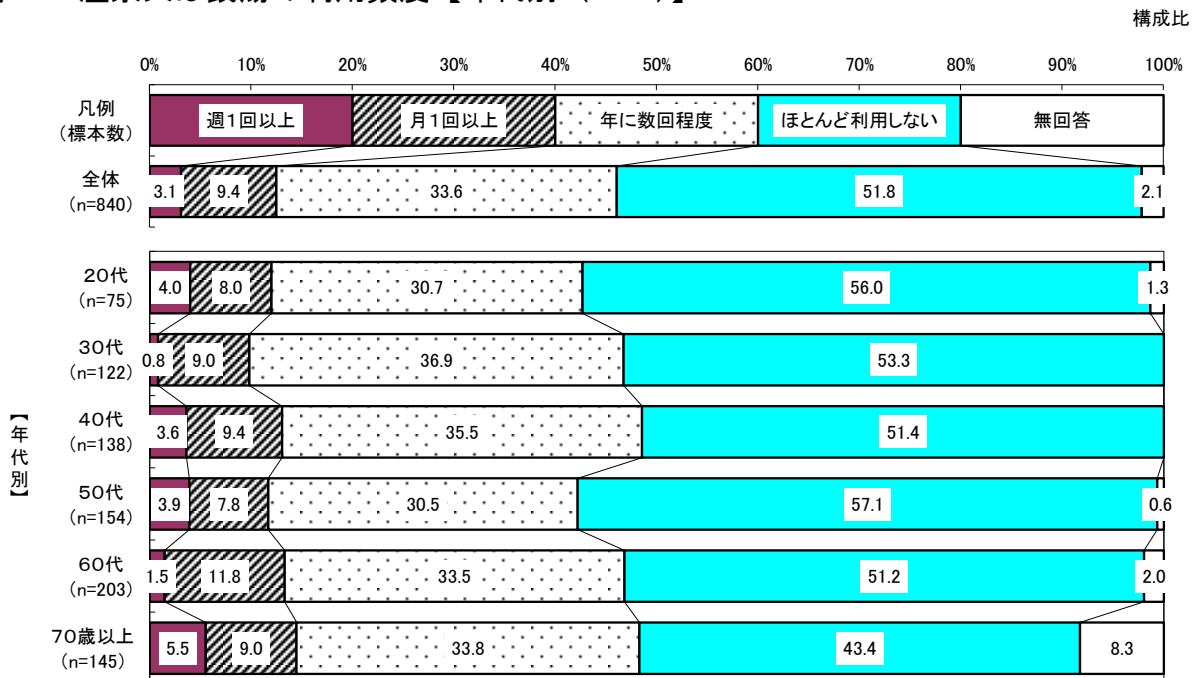
(1) 温泉又は銭湯の利用頻度

問 18 あなたは現在、どのくらいの頻度で温泉又は銭湯を利用していますか。次の中から1つ選んでください。

問 18 温泉又は銭湯の利用頻度【性別】(SA)

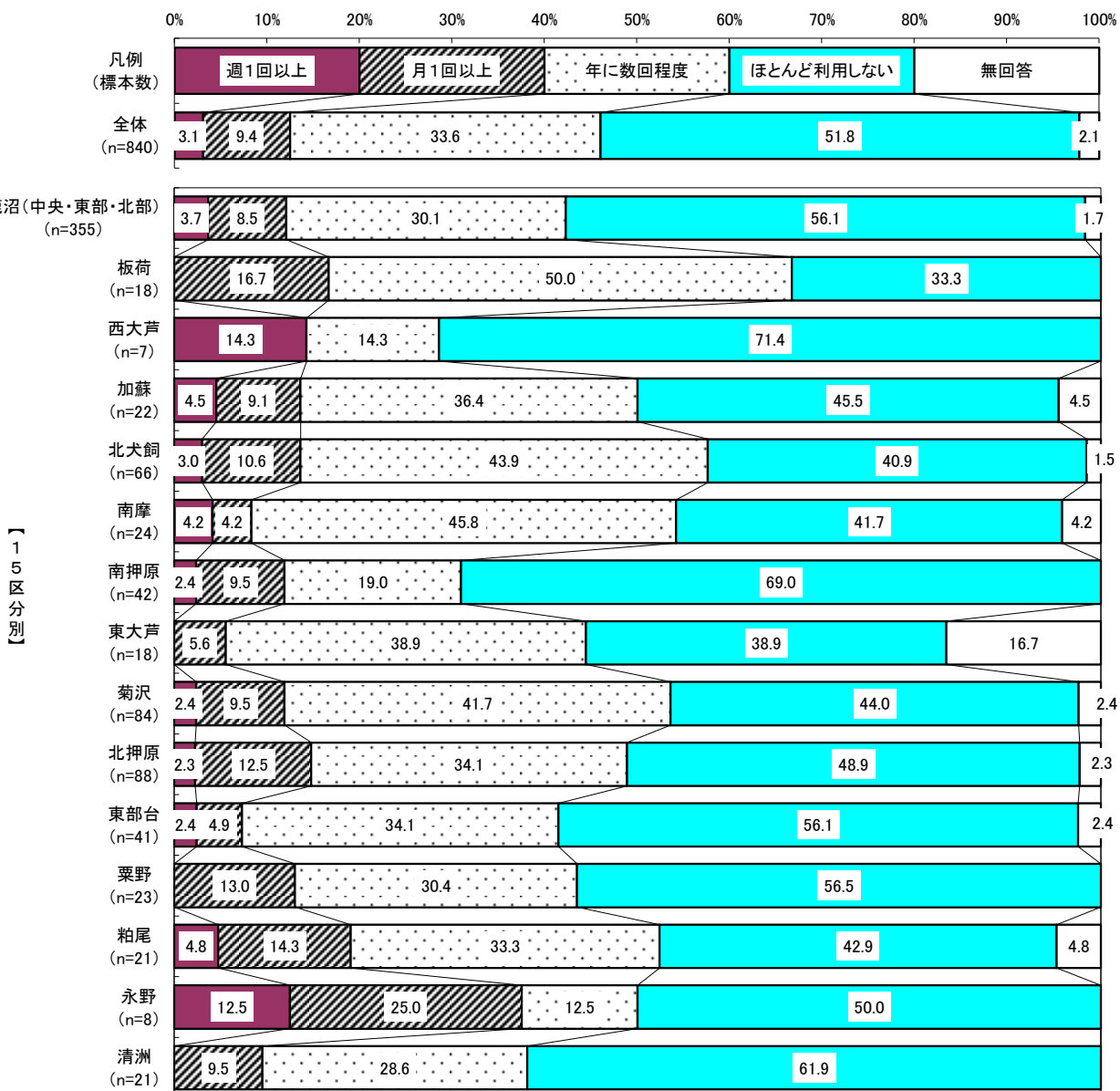


問 18 温泉又は銭湯の利用頻度【年代別】(SA)



問 18 温泉又は銭湯の利用頻度【居住地区別（15区分）】（SA）

構成比



【15区分別】

問 18 温泉又は銭湯の利用頻度

◎「ほとんど利用しない」が5割超。

【全体】

温泉又は銭湯の利用頻度について全体でみると、「ほとんど利用しない」が51.8%で最も高く、5割超となっている。次いで「年に数回程度」が33.6%、「月1回以上」が9.4%、「週1回以上」が3.1%となっている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「ほとんど利用しない」が最も高く、いずれも5割を超えている。「年に数回程度」は男女ともに3割を超えている。

【年代別】

年代別でみると、いずれの年代も「ほとんど利用しない」が最も高いが、70歳以上のみ43.4%と5割を下回り、20代から60代はいずれも5割を超えている。「年に数回程度」は30代の36.9%を筆頭に、すべての年代で3割を超えている。

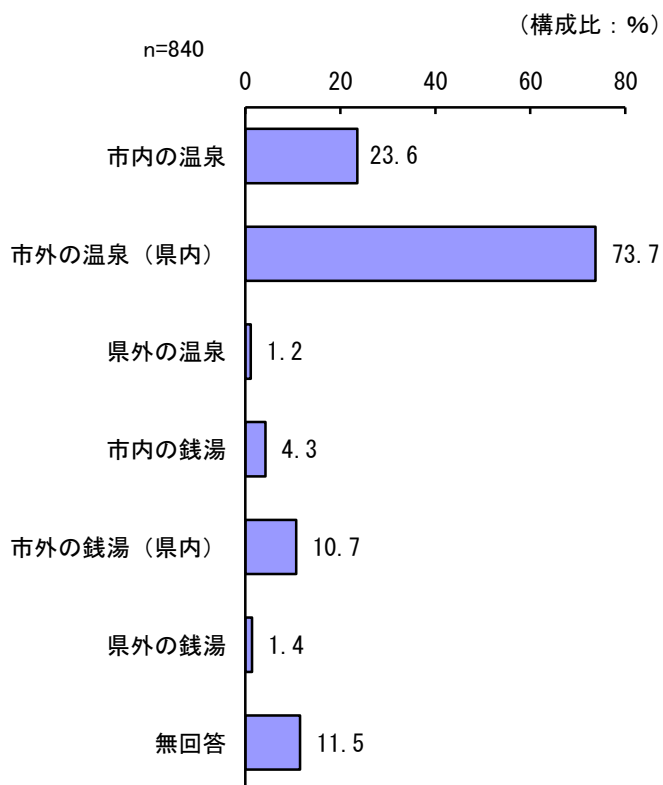
【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、板荷、北犬飼、南摩、菊沢は「年に数回程度」が最も高く、いずれの居住地域でも4割を超えている。東大芦は「年に数回程度」「ほとんど利用しない」が同率で38.9%となっている。それ以外の居住地域では「ほとんど利用しない」が最も高く、特に南押原69.0%、清洲61.9%で高い割合となっている。

(2) 温泉又は銭湯を利用する場所

問 19 温泉又は銭湯を利用する場合、どのような所に行きますか。次の中からいくつでも選んでください。

問 19 温泉又は銭湯を利用する場所【全体】(MA)



問 19 温泉又は銭湯を利用する場所
【性別・年代別・居住地区別】(MA)

(構成比:%)

		市内の温泉	市外の温泉(県内)	県外の温泉	市内の銭湯	市外の銭湯(県内)	県外の銭湯	無回答
	全体(n=840)	23.6	73.7	1.2	4.3	10.7	1.4	11.5
性別	男性(n=365)	24.1	73.7	1.4	4.7	10.7	0.5	11.5
	女性(n=472)	23.3	73.5	1.1	4.0	10.8	2.1	11.7
年代	20代(n=75)	12.0	66.7	0.0	9.3	22.7	5.3	9.3
	30代(n=122)	20.5	82.0	1.6	5.7	19.7	2.5	4.1
	40代(n=138)	23.2	79.7	1.4	5.1	15.2	2.2	8.7
	50代(n=154)	16.2	80.5	1.9	1.9	9.7	0.0	9.1
	60代(n=203)	36.5	71.4	1.5	3.4	3.4	0.5	13.8
	70歳以上(n=145)	22.8	60.7	0.0	2.8	4.1	0.7	21.4
	居住地区(15区分)	鹿沼(中央・東部・北部)(n=355)	22.0	72.4	2.0	5.1	9.9	1.1
板荷(n=18)		11.1	100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
西大芦(n=7)		14.3	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
加蘇(n=22)		13.6	77.3	0.0	4.5	4.5	0.0	18.2
北犬飼(n=66)		19.7	71.2	0.0	4.5	15.2	1.5	10.6
南摩(n=24)		20.8	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	16.7
南押原(n=42)		14.3	69.0	0.0	2.4	16.7	2.4	16.7
東大芦(n=18)		33.3	61.1	0.0	5.6	11.1	0.0	16.7
菊沢(n=84)		36.9	67.9	2.4	7.1	14.3	1.2	10.7
北押原(n=88)		20.5	81.8	1.1	2.3	10.2	4.5	9.1
東部台(n=41)		29.3	73.2	0.0	2.4	7.3	0.0	12.2
粟野(n=23)		43.5	73.9	0.0	4.3	4.3	4.3	17.4
粕尾(n=21)		19.0	85.7	0.0	0.0	14.3	0.0	4.8
永野(n=8)		12.5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清洲(n=21)		38.1	71.4	0.0	4.8	9.5	0.0	9.5

第3章 調査結果の分析

問 19 温泉又は銭湯を利用する場所

◎「市外の温泉（県内）」が7割超。

【全体】

温泉又は銭湯を利用する場所について全体で見ると、「市外の温泉（県内）」73.7%で最も高く、7割を超えている。次いで「市内の温泉」が23.6%と続き、銭湯では「市外の銭湯（県内）」が10.7%で最も高くなっている。

【性別】

性別で見ると、男女ともに「市外の温泉（県内）」が最も高く、いずれも7割を超えている。「市内の温泉」は男女ともに2割を超え、「市外の銭湯（県内）」は男女ともに1割を超えている。

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で「市外の温泉（県内）」が最も高く、特に30代から50代ではいずれも8割前後と他の年代に比べ高く、最も低いのは70歳以上の60.7%となっている。「市内の温泉」は60代で36.5%と、他の年代に比べて高くなっている。「市外の銭湯（県内）」は20代で22.7%と最も高く、年代が上がるにつれ、割合は下がっている。

【居住区分別（15区分）】

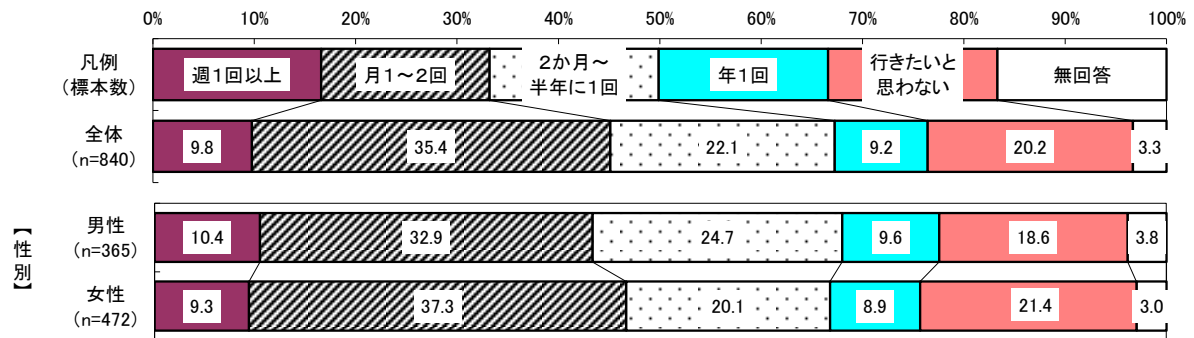
居住区分別（15区分）で見ると、全ての居住地域で「市外の温泉（県内）」が最も高く、特に板荷で100%と高く、北押原、粕尾で8割を超えている。「市内の温泉」は栗野で43.5%と特に高く、東大芦、菊沢、清洲で3割を超えている。「市外の銭湯（県内）」は、板荷、北犬飼、南摩、南押原、東大芦、菊沢、北押原、粕尾で1割を超えている。

(3) 車で30分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度

問20 車で30分以内であれば、どのくらいの頻度で行きたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

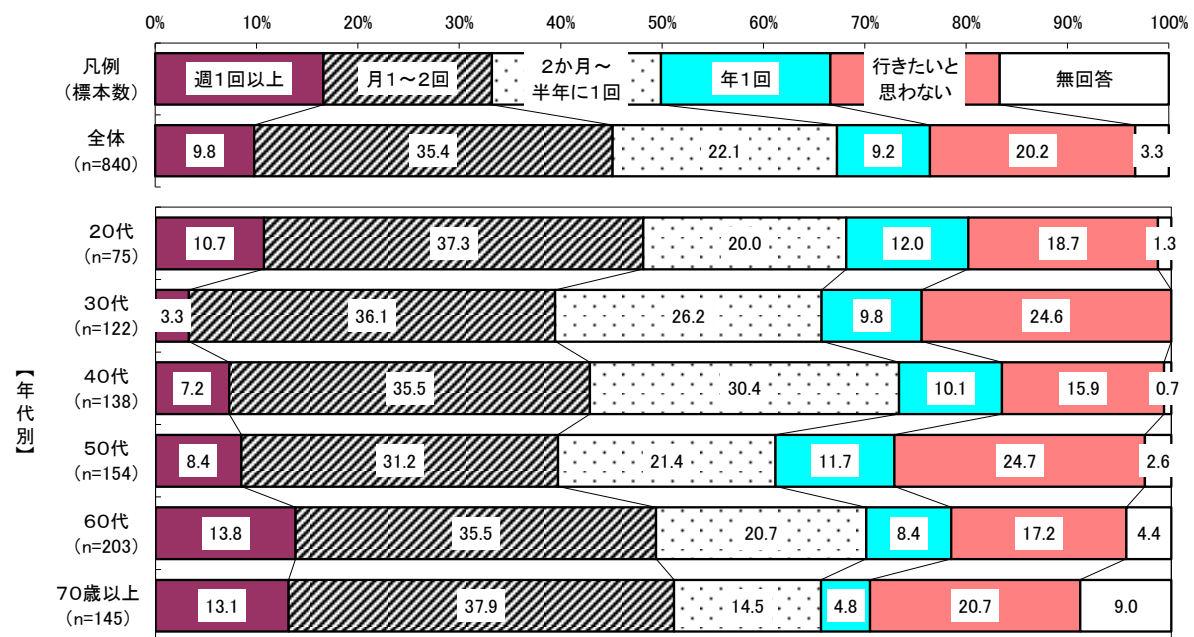
問20 車で30分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度【性別】(SA)

構成比



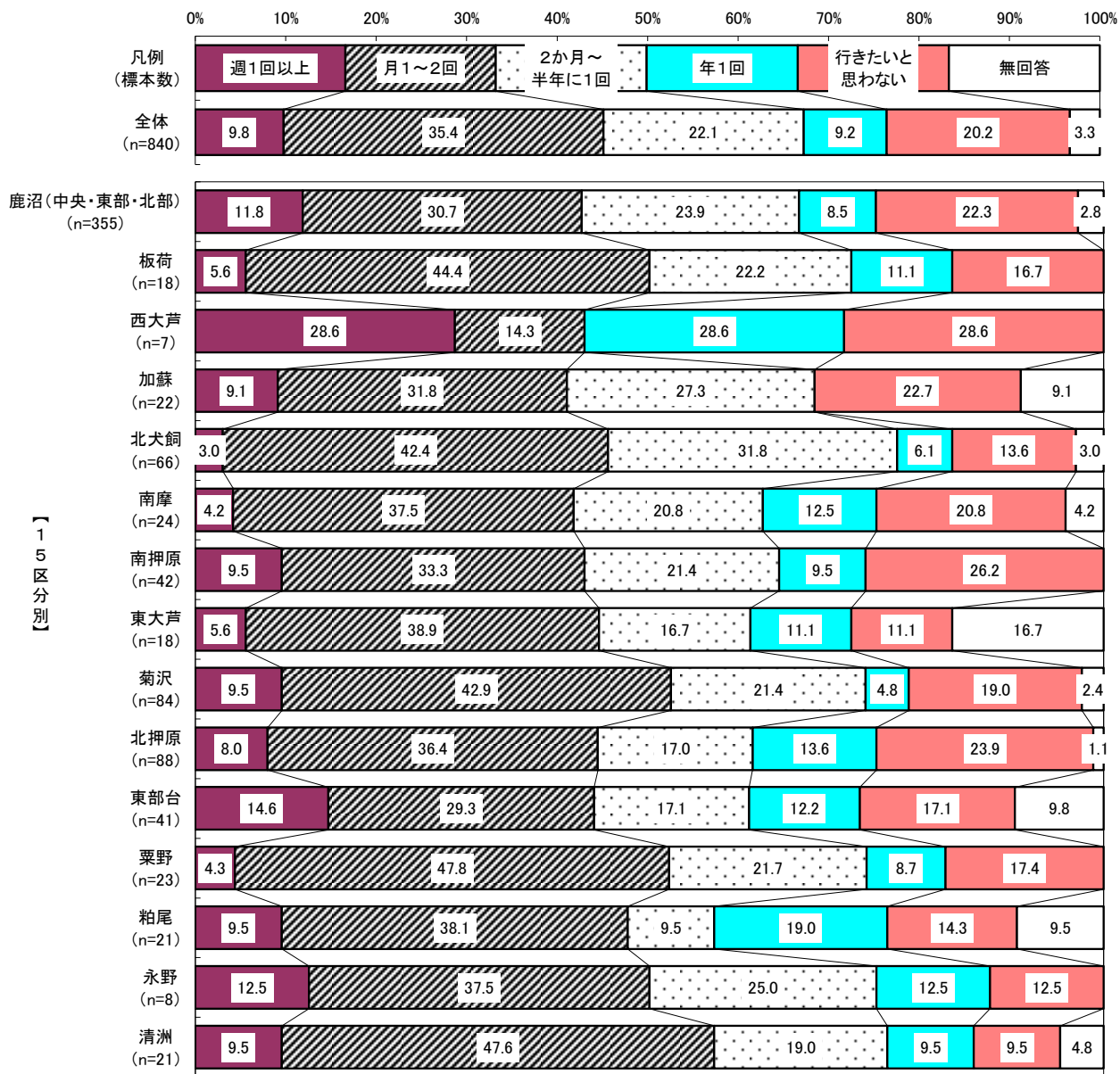
問20 車で30分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度【年代別】(SA)

構成比



問 20 車で 30 分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度【居住地区別(15区分)】
(SA)

構成比



【15区分別】

問 20 車で 30 分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度

◎「月1～2回」が3割超。「行きたいと思わない」は約2割。

【全体】

車で30分以内に温泉又は銭湯がある場合の利用頻度について全体でみると、「月1～2回」が35.4%で最も高く3割を超え、次いで「2か月～半年に1回」が22.1%で続き、「行きたいと思わない」は20.2%と、約2割を占めている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「月1～2回」が最も高く、いずれも3割を超えている。「行きたいと思わない」は、男性が18.6%、女性21.4%と、それぞれ2割前後となっている。

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「月1～2回」が最も高く、いずれの年代も3割を超えている。「週1回以上」は60代で13.8%と最も高く、次いで70歳以上が13.1%、20代が10.7%と他の年代に比べて高くなっている。一方、「行きたいと思わない」は、50代が24.7%で最も高く、40代が15.9%で最も低くなっている。

【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、すべての居住地域で「月1～2回」が最も高く、栗野47.8%、清洲47.6%が、他の居住地域に比べてやや高くなっている。「週1回以上」は、東部台で14.6%と最も高く、次いで鹿沼が11.8%でなっており、これらの居住地域は1割を超えている。一方、「行きたいと思わない」は、南押原26.2%が最も高くなっている。

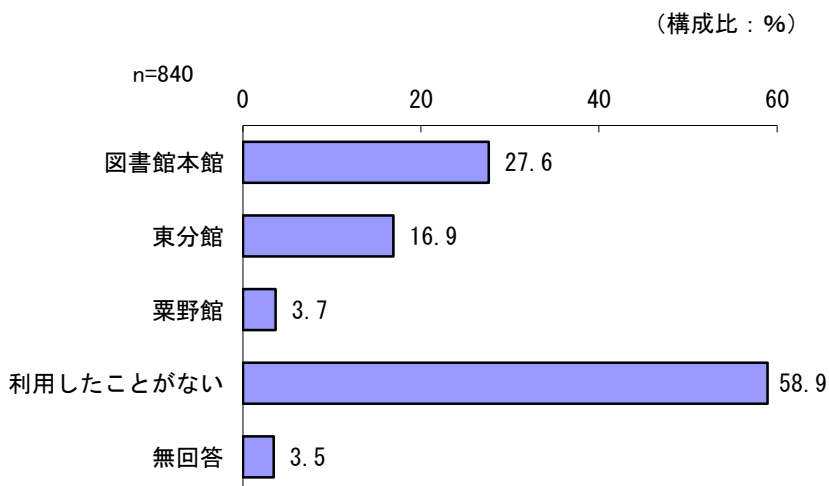
9

図書館の利用

(1) この1年間の図書館の利用の有無

問 21 図書館のうち1年以内に利用した施設を、次の中からいくつでも選んでください。

問 21 この1年間の図書館の利用の有無【全体】(MA)



問 21 この1年間の図書館の利用の有無【性別・年代別・居住地区別 (15区分)】(MA)

		図書館本館	東分館	栗野館	利用したことがない	無回答
全体 (n=840)		27.6	16.9	3.7	58.9	3.5
性別	男性 (n=365)	22.5	12.3	2.7	66.0	3.8
	女性 (n=472)	31.6	20.3	4.4	53.4	3.2
年代	20代 (n=75)	28.0	16.0	1.3	64.0	1.3
	30代 (n=122)	30.3	18.0	2.5	59.8	0.8
	40代 (n=138)	40.6	30.4	9.4	41.3	0.0
	50代 (n=154)	24.0	13.6	1.9	68.2	0.6
	60代 (n=203)	25.6	15.8	1.5	62.1	3.4
	70歳以上 (n=145)	19.3	8.3	5.5	58.6	13.1
	居住地区 (15区分)	鹿沼(中央・東部・北部) (n=355)	38.3	16.9	0.8	54.4
板荷 (n=18)		44.4	0.0	0.0	55.6	0.0
西大芦 (n=7)		14.3	0.0	0.0	85.7	0.0
加蘇 (n=22)		36.4	9.1	4.5	59.1	4.5
北犬飼 (n=66)		13.6	30.3	0.0	54.5	9.1
南摩 (n=24)		20.8	12.5	12.5	66.7	4.2
南押原 (n=42)		19.0	16.7	0.0	69.0	0.0
東大芦 (n=18)		33.3	22.2	5.6	38.9	16.7
菊沢 (n=84)		39.3	11.9	0.0	57.1	1.2
北押原 (n=88)		10.2	23.9	4.5	65.9	6.8
東部台 (n=41)		7.3	19.5	0.0	73.2	2.4
栗野 (n=23)		0.0	8.7	34.8	65.2	0.0
粕尾 (n=21)		14.3	4.8	19.0	61.9	4.8
永野 (n=8)		0.0	12.5	37.5	62.5	0.0
清洲 (n=21)		14.3	9.5	19.0	76.2	0.0

問 21 この1年間の図書館の利用の有無

◎「利用したことがない」が6割近く。利用した図書館では「図書館本館」が3割近く。

【全体】

この1年間の図書館の利用の有無について全体でみると、「利用したことがない」が58.9%で6割近く高くなっている。一方、利用した図書館では、「図書館本館」が27.6%で最も高く3割近くとなっており、次いで「東分館」16.9%、「栗野館」が3.7%となっている。

【性別】

性別でみると、「利用したことがない」は、男性が66.0%で女性の53.4%を12.6ポイント差で上回り、女性の方が男性よりも図書館を利用している割合が高い。利用した図書館では、「図書館本館」および「東分館」の利用割合も、女性が男性を8～9ポイント程度上回っている。

【年代別】

年代別でみると、「利用したことがない」は40代で41.3%と最も低く、それ以外の年代はいずれも5割を上回っている。利用した図書館では、「図書館本館」「東分館」「栗野館」のいずれも、40代の利用割合が他の年代に比べ高くなっている。

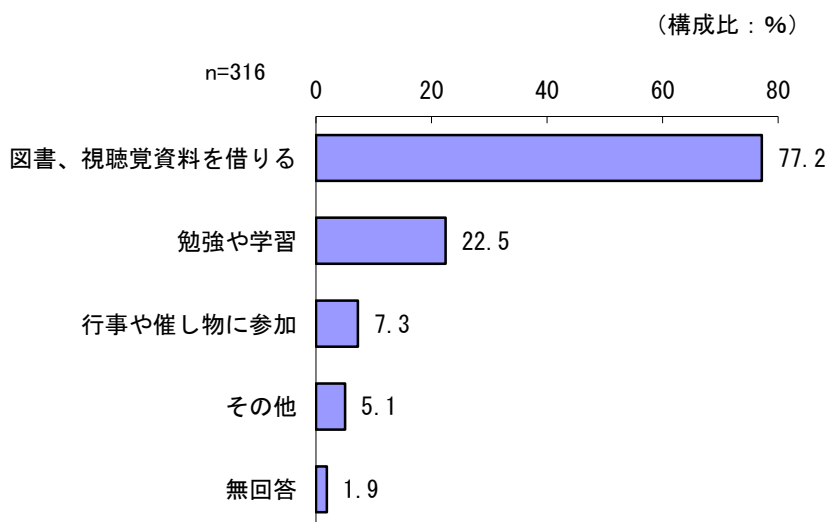
【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、利用した図書館のうち、「図書館本館」では、板荷44.4%、菊沢39.3%、鹿沼38.3%、加蘇36.4%の順で高くなっている。「東分館」では、北犬飼30.3%が最も高く、北押原23.9%、東大芦22.2%と続いている。「栗野館」では栗野34.8%、粕尾および清洲19.0%、南摩12.5%の順になっている。

(2) 図書館の利用目的

問 22 図書館を利用した目的について、次の中からいくつでも選んでください。

問 22 図書館の利用目的【全体】(MA)



問 22 図書館の利用目的【性別・年代別・居住地区別 (15 区分)】(MA)

		図書、視聴覚資料を借りる	勉強や学習	行事や催し物に参加	その他	無回答
	全体 (n=316)	77.2	22.5	7.3	5.1	1.9
性別	男性 (n=110)	70.9	29.1	6.4	5.5	1.8
	女性 (n=205)	80.5	19.0	7.8	4.4	2.0
年代	20代 (n=26)	73.1	38.5	0.0	7.7	3.8
	30代 (n=48)	75.0	39.6	8.3	0.0	0.0
	40代 (n=81)	79.0	22.2	9.9	4.9	1.2
	50代 (n=48)	87.5	12.5	2.1	4.2	0.0
	60代 (n=70)	80.0	10.0	5.7	7.1	2.9
	70歳以上 (n=41)	63.4	24.4	14.6	7.3	4.9
居住地区 (15区分)	鹿沼 (中央・東部・北部) (n=154)	79.9	19.5	7.1	4.5	3.2
	板荷 (n=8)	87.5	25.0	0.0	0.0	0.0
	西大芦 (n=1)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	加蘇 (n=8)	62.5	50.0	0.0	0.0	0.0
	北犬飼 (n=24)	75.0	25.0	4.2	12.5	0.0
	南摩 (n=7)	71.4	14.3	0.0	28.6	0.0
	南押原 (n=13)	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0
	東大芦 (n=8)	62.5	25.0	0.0	25.0	0.0
	菊沢 (n=35)	74.3	28.6	14.3	0.0	0.0
	北押原 (n=24)	66.7	29.2	12.5	4.2	4.2
	東部台 (n=10)	80.0	10.0	10.0	10.0	0.0
	粟野 (n=8)	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	粕尾 (n=7)	85.7	42.9	0.0	0.0	0.0
	永野 (n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	清洲 (n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0

問 22 図書館を利用した目的

◎「図書、視聴覚資料を借りる」が8割近く。

【全体】

図書館を利用した目的については全体でみると、「図書、視聴覚資料を借りる」が77.2%で8割近くと圧倒的に高くなっている。次いで「勉強や学習」が22.5%、「行事や催し物に参加」が7.3%と続いている。

【性別】

性別でみると、「図書、視聴覚資料を借りる」は女性が80.5%と、男性の70.9%を9.6ポイント上回っている。一方、「勉強や学習」は男性の29.1%が、女性の19.0%を10.1ポイント差で上回っている。

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「図書、視聴覚資料を借りる」の割合が最も高く、特に50代で87.5%と9割近くになっている。「勉強や学習」は30代が39.6%、20代が38.5%の順で高く、4割近くとなっている。「行事や催し物に参加」は70歳以上が14.6%で、唯一1割を上回っている。

【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、すべての地域で「図書、視聴覚資料を借りる」の割合が最も高く、いずれも6割を超えている。「勉強や学習」は北押原で29.2%と最も高く、「行事や催し物に参加」は菊沢で14.3%と最も高くなっている。

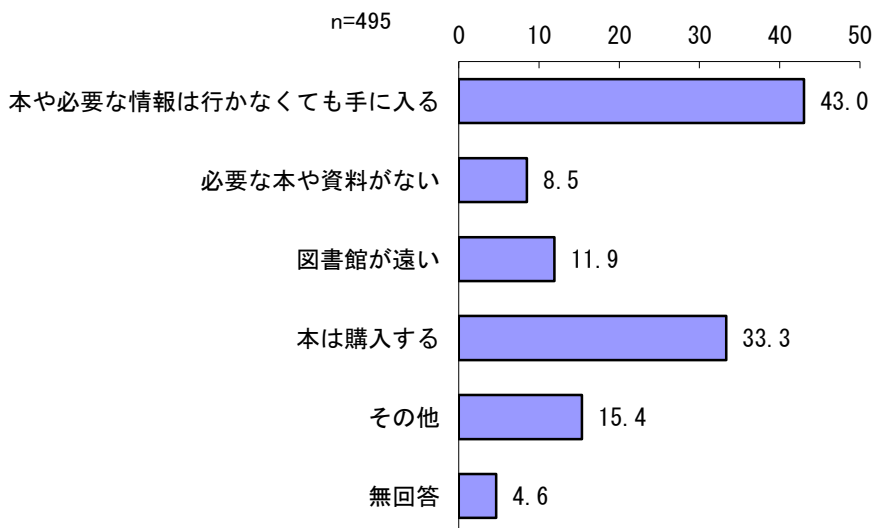
(3) 図書館を利用しない理由

問 23 問 21 で 4 番 と お 答 え の 方 に お 聞 き し ま す。
 図書館を利用しない理由について、次の中からいくつでも選んでください。

※問 21 で 「利用したことがない」と回答したひとのみ

問 23 図書館を利用しない理由【全体】(MA)

(構成比: %)



問 23 図書館を利用しない理由【性別・年代別・居住地区別 (15 区分)】(MA)

(構成比: %)

		本や必要な情報は行かなくても手に入る	必要な本や資料がない	図書館が遠い	本は購入する	その他	無回答
性別	全体 (n=495)	43.0	8.5	11.9	33.3	15.4	4.6
	男性 (n=241)	46.1	11.2	11.6	26.1	16.2	3.3
	女性 (n=252)	39.7	6.0	12.3	39.7	14.7	6.0
年代	20代 (n=48)	39.6	22.9	12.5	31.3	14.6	2.1
	30代 (n=73)	53.4	11.0	5.5	26.0	21.9	1.4
	40代 (n=57)	49.1	10.5	12.3	33.3	10.5	3.5
	50代 (n=105)	50.5	7.6	8.6	31.4	16.2	1.0
	60代 (n=126)	34.1	2.4	15.1	44.4	13.5	5.6
	70歳以上 (n=85)	35.3	7.1	16.5	27.1	15.3	12.9
	居住地区 (15区分)	鹿沼 (中央・東部・北部) (n=193)	44.6	9.8	7.3	28.0	17.6
板荷 (n=10)		60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
西大芦 (n=6)		33.3	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7
加蘇 (n=13)		30.8	7.7	15.4	23.1	23.1	7.7
北犬飼 (n=36)		41.7	5.6	22.2	38.9	16.7	2.8
南摩 (n=16)		56.3	6.3	6.3	43.8	12.5	0.0
南押原 (n=29)		20.7	13.8	41.4	41.4	10.3	3.4
東大芦 (n=7)		71.4	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
菊沢 (n=48)		43.8	6.3	10.4	35.4	10.4	6.3
北押原 (n=58)		43.1	12.1	10.3	46.6	15.5	3.4
東部台 (n=30)		53.3	3.3	3.3	33.3	13.3	6.7
粟野 (n=15)		33.3	6.7	0.0	46.7	26.7	0.0
粕尾 (n=13)		46.2	0.0	23.1	23.1	15.4	0.0
永野 (n=5)		40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0
清洲 (n=16)		31.3	18.8	12.5	31.3	6.3	12.5

問 23 図書館を利用しない理由

◎「本や必要な情報は行かなくても手に入る」が4割超。

【全体】

図書館を利用しない理由について全体で見ると、「本や必要な情報は行かなくても手に入る」が43.0%と4割を超えて最も高く、次いで「本は購入する」が33.3%、「図書館が遠い」が11.9%、「必要な本や資料がない」が8.5%となっている。

【性別】

性別で見ると、男女ともに「本や必要な情報は行かなくても手に入る」が最も高く、男性は46.1%と女性の39.7%を6.4ポイント上回っている。また、「必要な本や資料がない」も男性が11.2%と女性の6.0%を5.2ポイント上回っている。一方、「本は購入する」は女性が39.7%で男性の26.1%を13.6ポイント上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、60代のみ「本は購入する」が44.4%と最も高く、唯一4割を超えている。20代から50代、および70歳以上では「本や必要な情報は行かなくても手に入る」が最も高く、特に30代で53.4%、50代で50.5%、40代で49.1%と5割前後となっている。「必要な本や資料がない」は20代が、「図書館が遠い」は70歳以上がそれぞれ最も高くなっている。

【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）で見ると、ほぼすべての地域で「本や必要な情報は行かなくても手に入る」の割合が高く、中でも板荷は60.0%と最も高くなっている。「本は購入する」は栗野で46.7%と最も高く、次いで北押原が46.6%と続いている。「図書館が遠い」が南押原で41.4%と高くなっている。

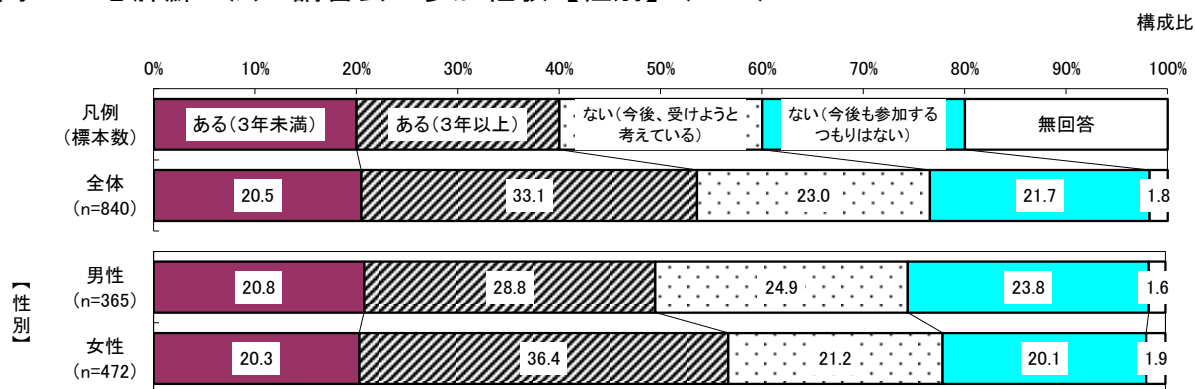
10

救急・救命活動

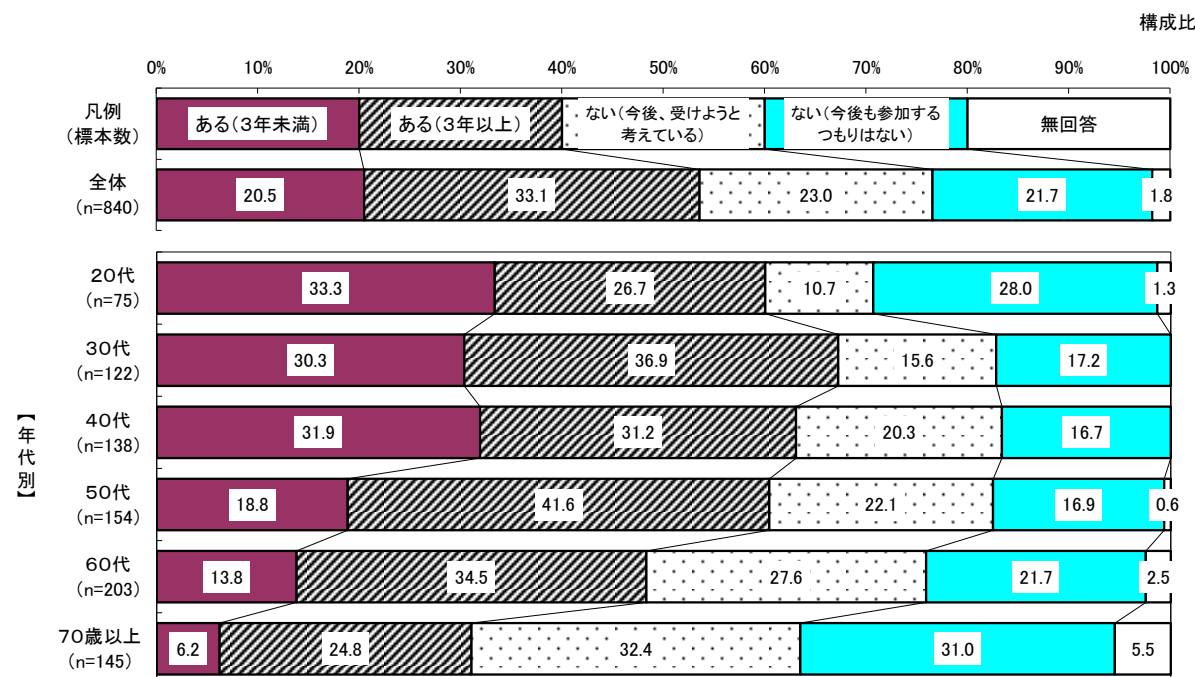
(1) 心肺蘇生法の講習会の参加経験

問 24 あなたは、心肺蘇生法の講習会に参加したことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

問 24 心肺蘇生法の講習会の参加経験【性別】(SA)

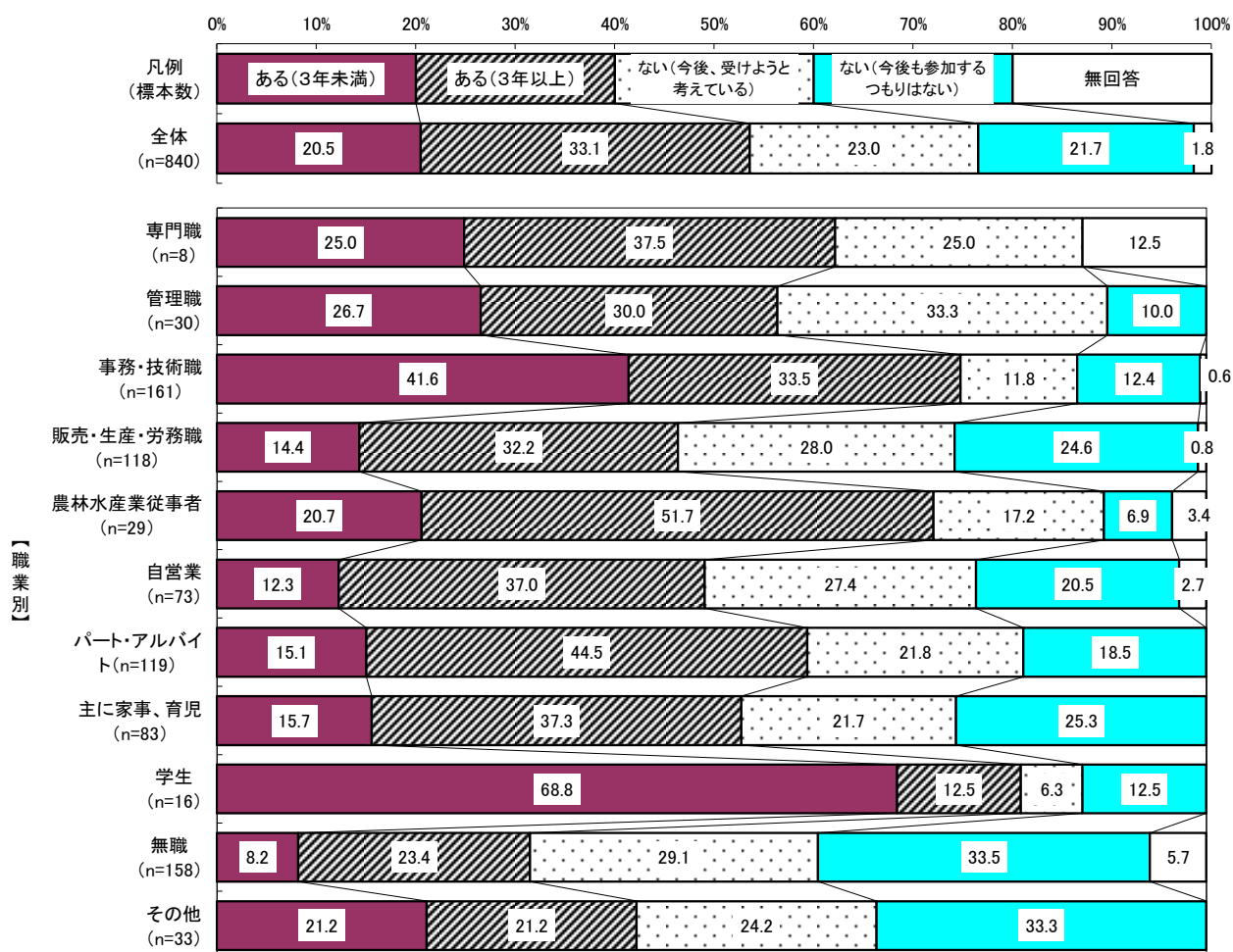


問 24 心肺蘇生法の講習会の参加経験【年代別】(SA)



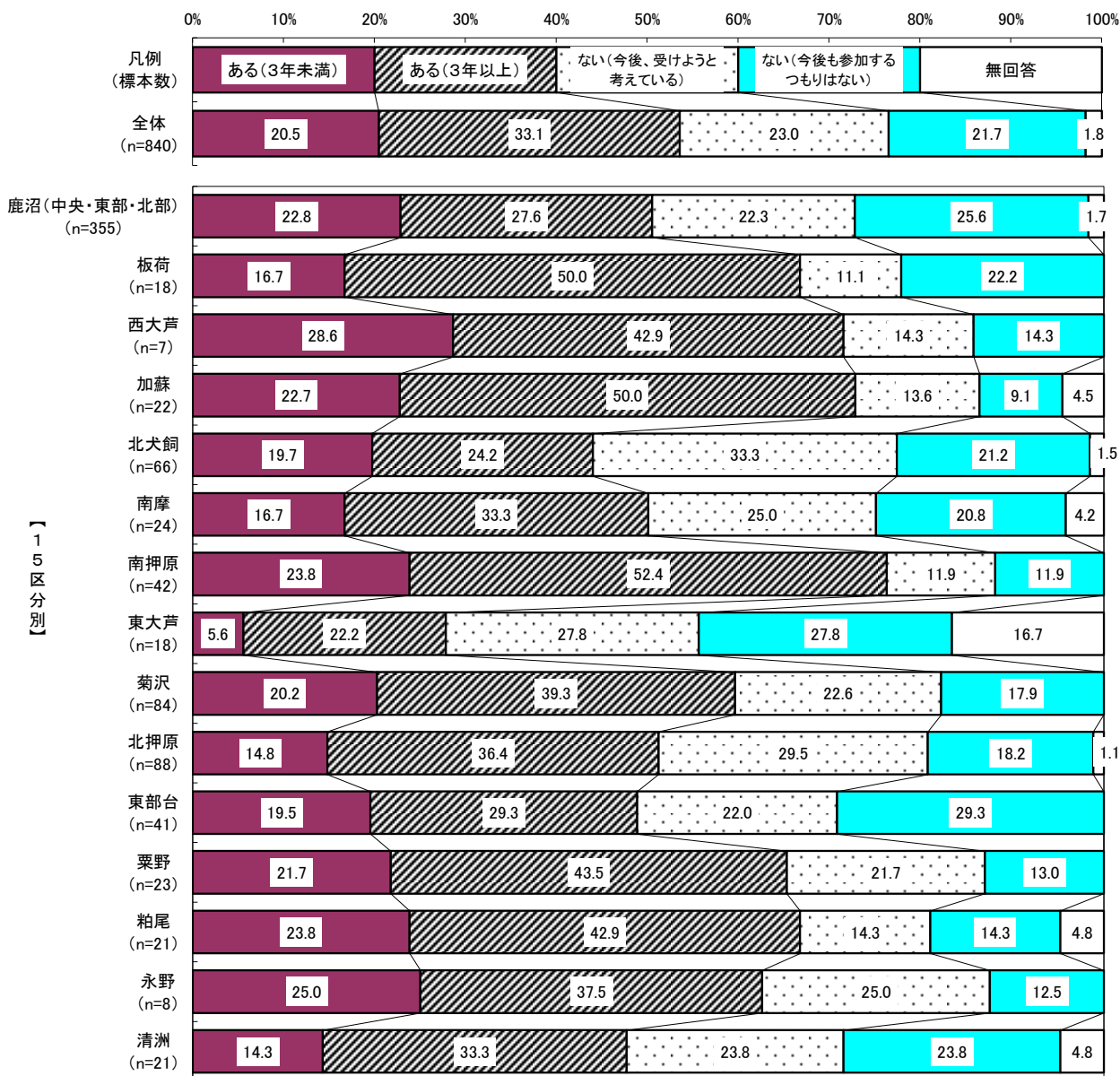
問 24 心肺蘇生法の講習会の参加経験【職業別】(SA)

構成比



問 24 心肺蘇生法の講習会の参加経験【居住地区別（15区分）】（SA）

構成比



問 24 心肺蘇生法の講習会の参加経験

◎「ある（3年以上）」が3割超、『ある』は5割超。

【全体】

心肺蘇生法の講習会の参加経験について全体でみると、「ある（3年未満）」が20.5%、「ある（3年以上）」が33.1%と3割を超えて最も高く、「ある（3年未満）」と「ある（3年以上）」を合わせた『ある』は53.6%と5割を超えている。一方、「ない（今後、受けようと思っている）」が23.0%、「ない（今後も参加するつもりはない）」が21.7%となっている。

【性別】

性別でみると、男女ともに「ある（3年以上）」が最も高く、女性は36.4%と男性の28.8%を7.6ポイント上回っている。『ある』も、女性は56.7%と男性の49.6%を7.1ポイント上回っている。

【年代別】

年代別でみると、「ある（3年未満）」は20代が33.3%で最も高く、次いで40代で31.9%、30代で30.3%と、いずれも3割を超えている。「ある（3年以上）」は50代で41.6%と唯一4割を超えている。『ある』は、30代が67.2%で最も高く、次いで40代が63.1%、50代が60.4%、20代が60.0%と、これらの年代で6割以上となっている。「ない（今後、受けようと考えている）」は70歳以上で32.4%と最も高く、「ない（今後も参加するつもりはない）」も70歳以上で31.0%と最も高くなっている。

【職業別】

職業別でみると、「ある（3年未満）」は学生が68.8%で最も高く突出しており、次いで事務・技術職が41.6%と、これらの職業では他の職業に比べて高くなっている。「ある（3年以上）」は農林水産業従事者で51.7%と最も高く、次いでパート・アルバイトが44.5%、主に家事、育児が37.3%となっている。『ある』は学生が81.3%で最も高く、次いで事務・技術職が75.1%、農林水産業従事者が72.4%と続き、これらの職業では7割を超えている。「ない（今後、受けようと考えている）」は管理職が33.3%で最も高く、「ない（今後も参加するつもりはない）」は無職が33.5%で最も高くなっている。

「ある（3年未満）」の回答が、学生が多い理由として、市内中学校2年生が、保健体育の授業の一環で心肺蘇生法の講習会を実施している学校があるためと考える。

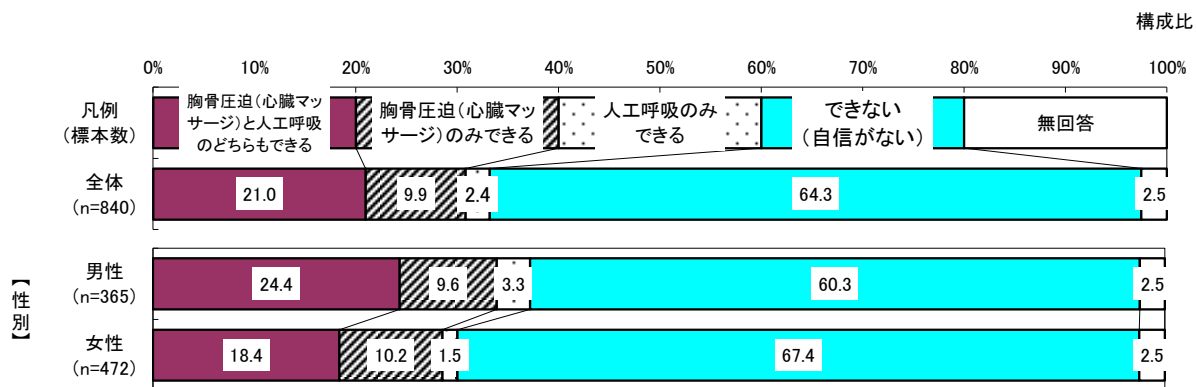
【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）でみると、「ある（3年未満）」は南押原および粕尾で23.8%と最も高く、「ある（3年以上）」は南押原で52.4%と最も高くなっている。『ある』は南押原で76.2%と最も高く、次いで加蘇が72.7%、板荷および粕尾で66.7%と続き、最も低いのは東大芦で27.8%となっている。「ない（今後、受けようと考えている）」は北犬飼が33.3%で最も高く、「ない（今後も参加するつもりはない）」は東部台が29.3%で最も高くなっている。

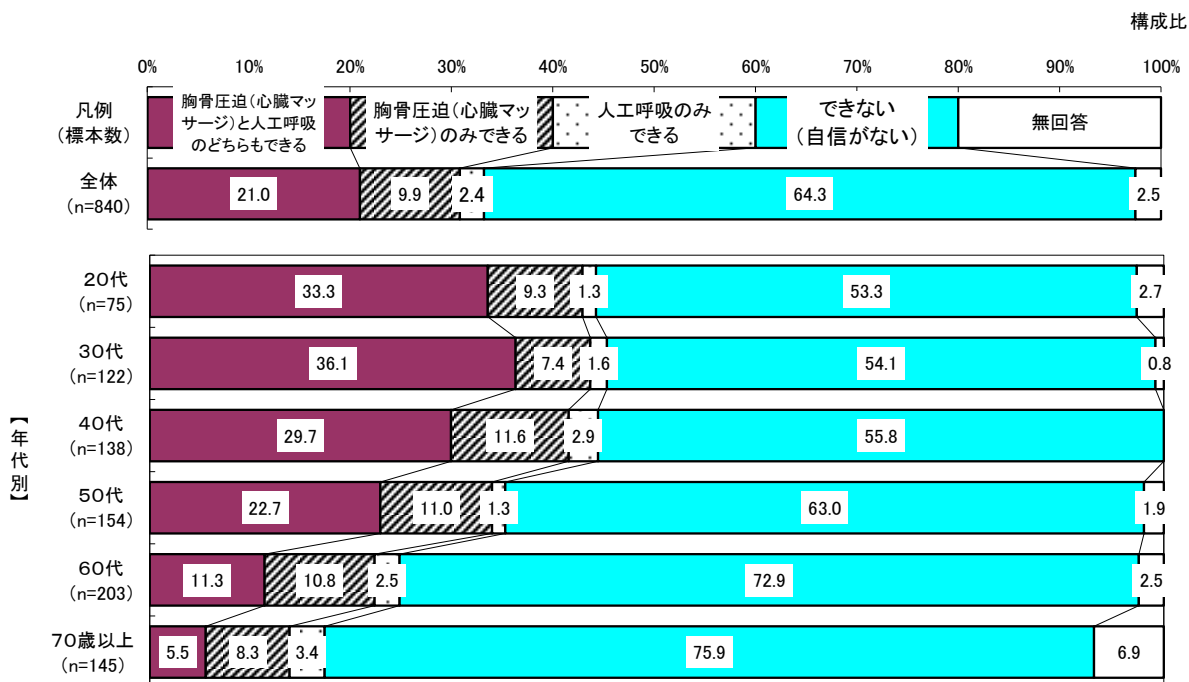
(2) 心肺蘇生ができるか

問 25 あなたは、いざというとき心肺蘇生ができますか。
次の中から1つ選んでください。

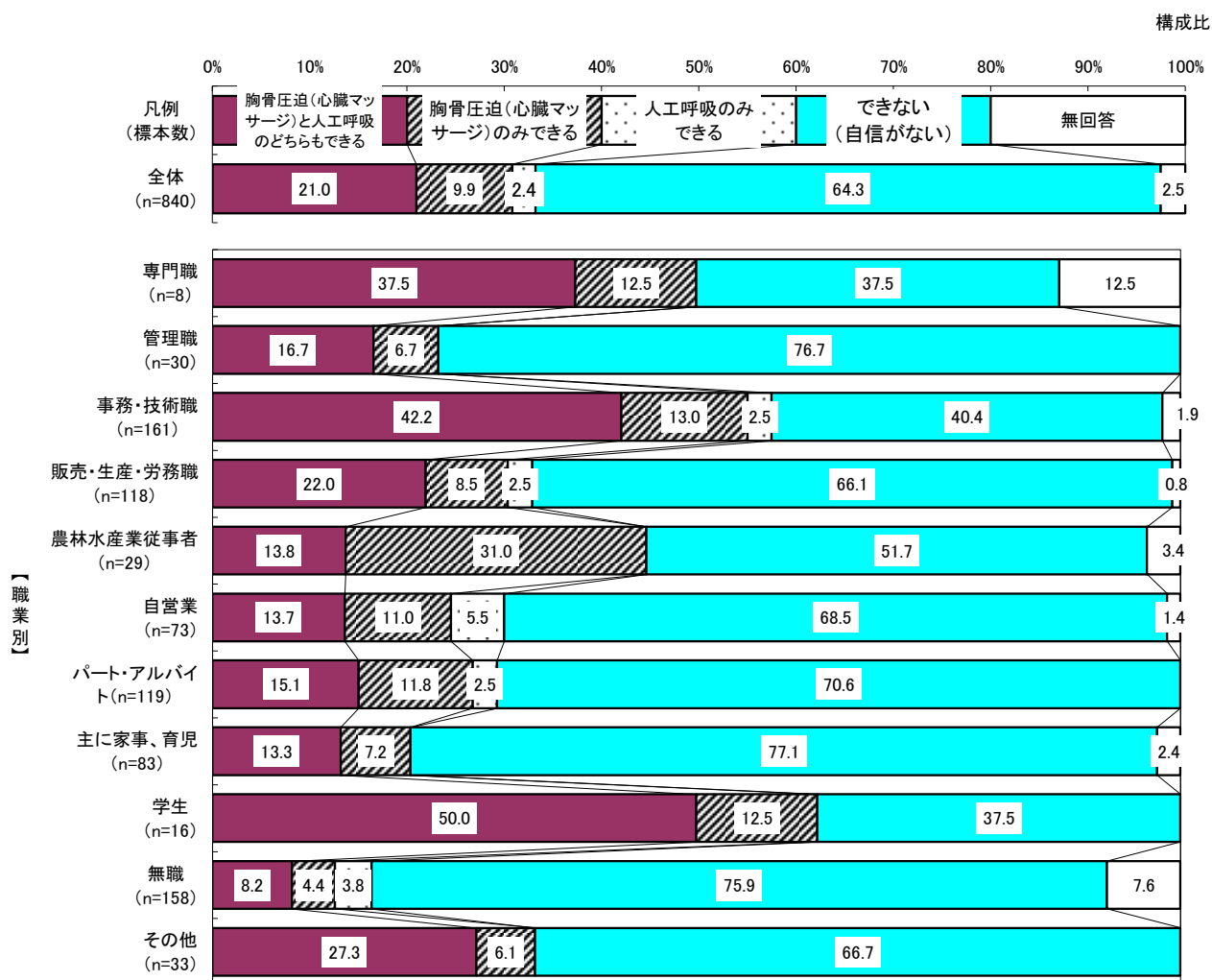
問 25 心肺蘇生ができるか【性別】(SA)



問 25 心肺蘇生ができるか【年代別】(SA)

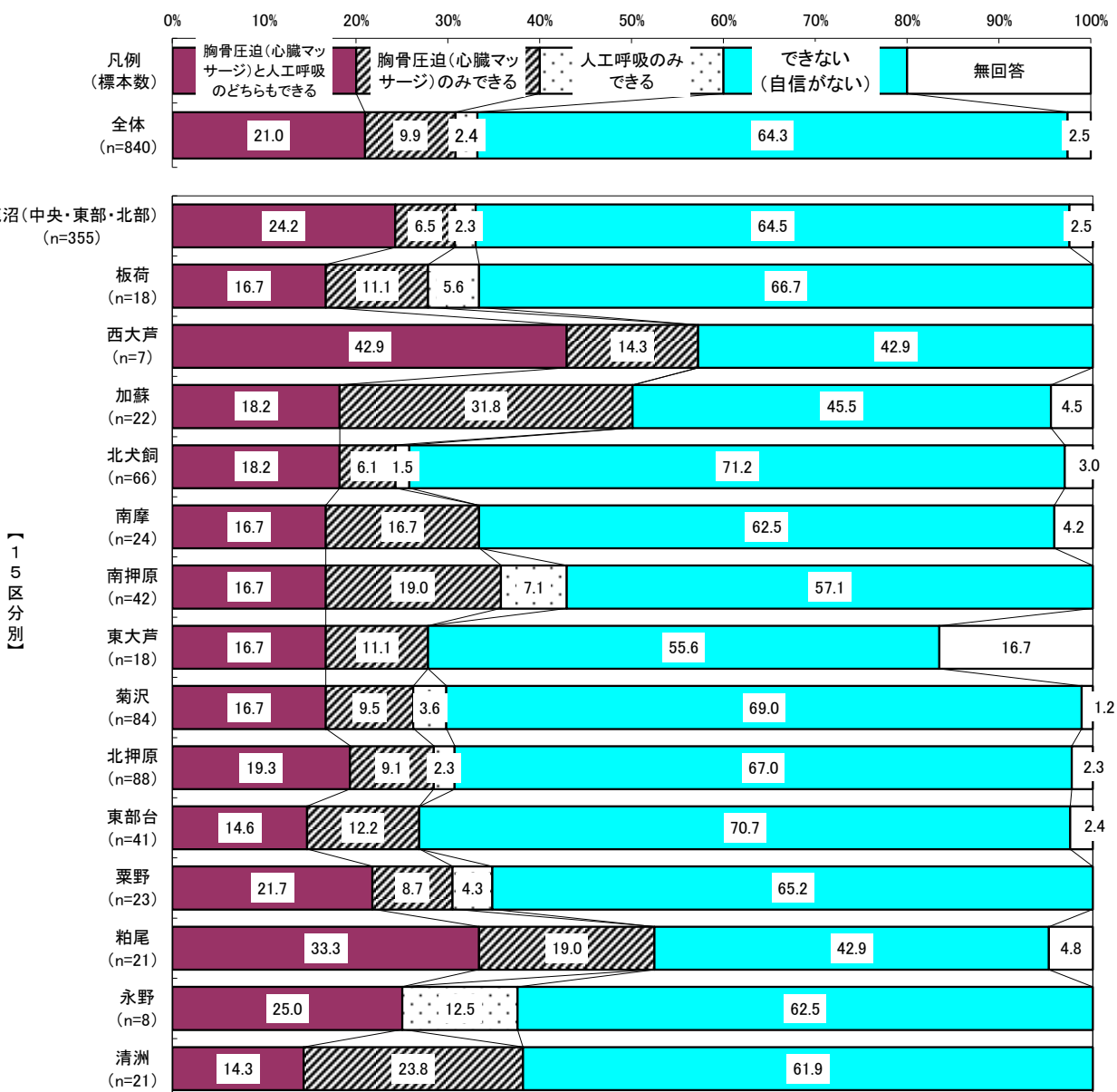


問 25 心肺蘇生ができるか【職業別】(S A)



問 25 心肺蘇生ができるか【居住地区別（15区分）】（SA）

構成比



【15区分別】

問 25 心肺蘇生ができるか

◎できない（自信がない）が6割超。

【全体】

心肺蘇生ができるかについて全体でみると、「胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸のどちらもできる」が21.0%、「胸骨圧迫（心臓マッサージ）のみできる」が9.9%、「人工呼吸のみできる」が2.4%となっており、「できない（自信がない）」が64.3%と6割を超えて最も高くなっている。

【性別】

性別でみると、「胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸のどちらもできる」は、男性24.4%と女性の18.4%を6.0ポイント上回っている。一方、男女ともに「できない（自信がない）」が最も高く、女性は67.4%と男性の60.3%を7.1ポイント上回っている。

【年代別】

年代別でみると、「胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸のどちらもできる」は30代が36.1%と最も高く、次いで20代が33.3%と、若年層は3割を超えている。40代では29.7%となり、年代が上がるにつれ割合も下がっている。一方、すべての年代で「できない（自信がない）」が最も高いが、割合は20代の53.3%が最も低く、年代が上がるにつれ割合も上がっている。

【職業別】

職業別でみると、事務・技術職および学生は「胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸のどちらもできる」が最も高く、学生が50.0%、事務・技術職が42.2%となっている。一方、専門職、事務・技術職および学生以外の職業では、「できない（自信がない）」が最も高く、いずれも5割を超えている。

「胸骨圧迫と人工呼吸どちらもできる」の回答が、学生が多い理由として、市内中学校2年生が、保健体育の授業の一環で心肺蘇生法の講習会を実施している学校があるためと考える。

【居住区分別（15区分）】

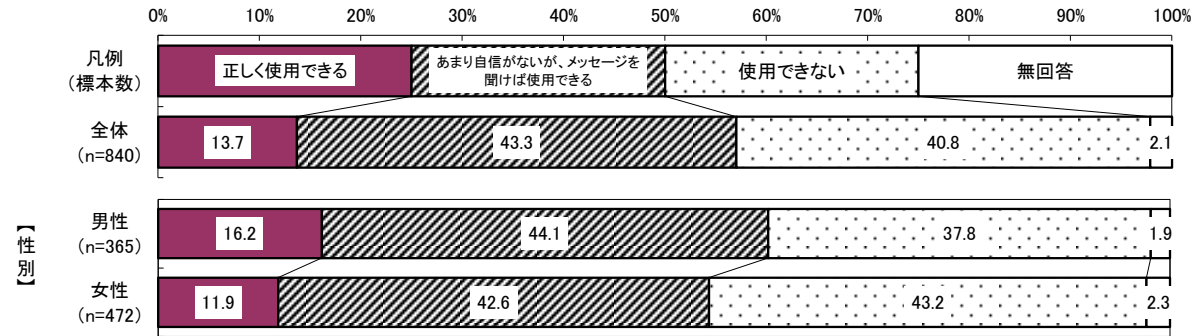
居住区分（15区分）でみると、「胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸のどちらもできる」は、粕尾で33.3%と最も高くなっている。すべての居住地域で「できない（自信がない）」が最も高く、割合は北犬飼で71.2%と最も高く、粕尾が42.9%、加蘇が45.5%と他の地域に比べて低くなっている。

(3) AEDを正しく使用できるか

問 26 あなたは、いざというときAEDを正しく使用できますか。
次の中から1つ選んでください。

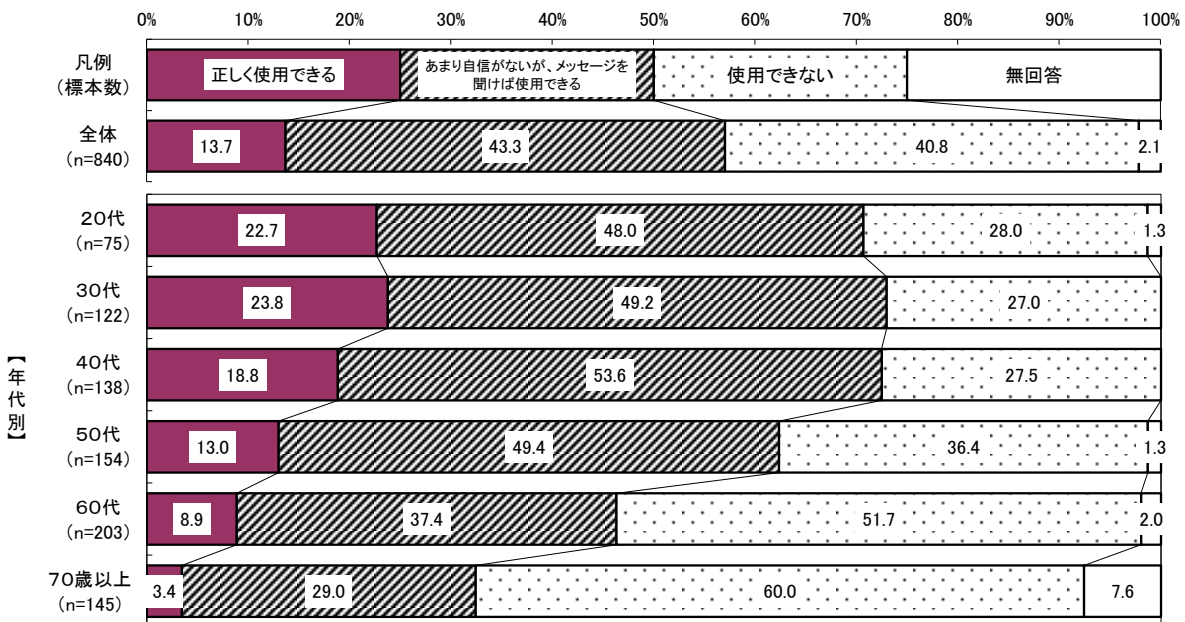
問 26 AEDを正しく使用できるか【性別】(SA)

構成比



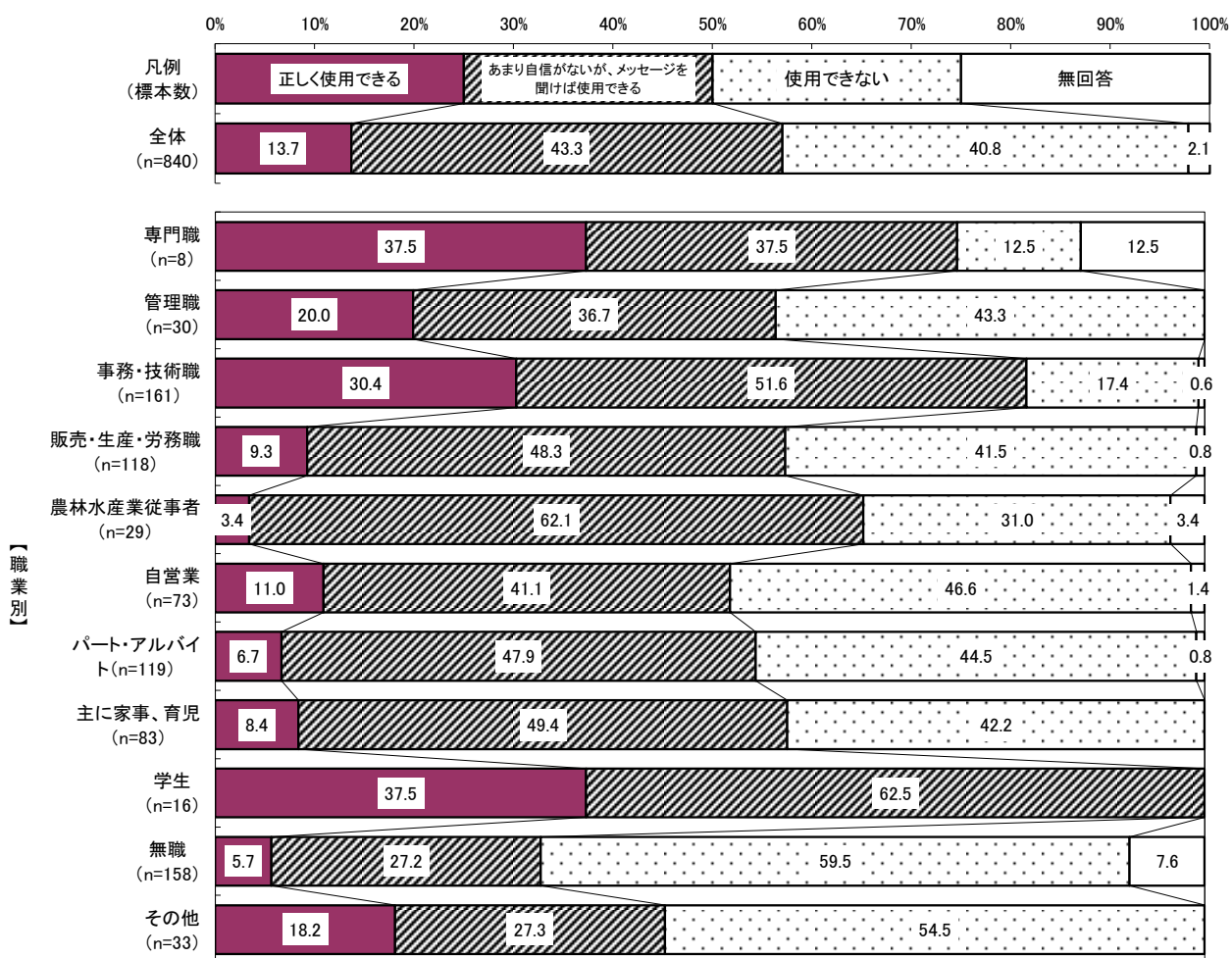
問 26 AEDを正しく使用できるか【年代別】(SA)

構成比



問 26 AEDを正しく使用できるか【職業別】(SA)

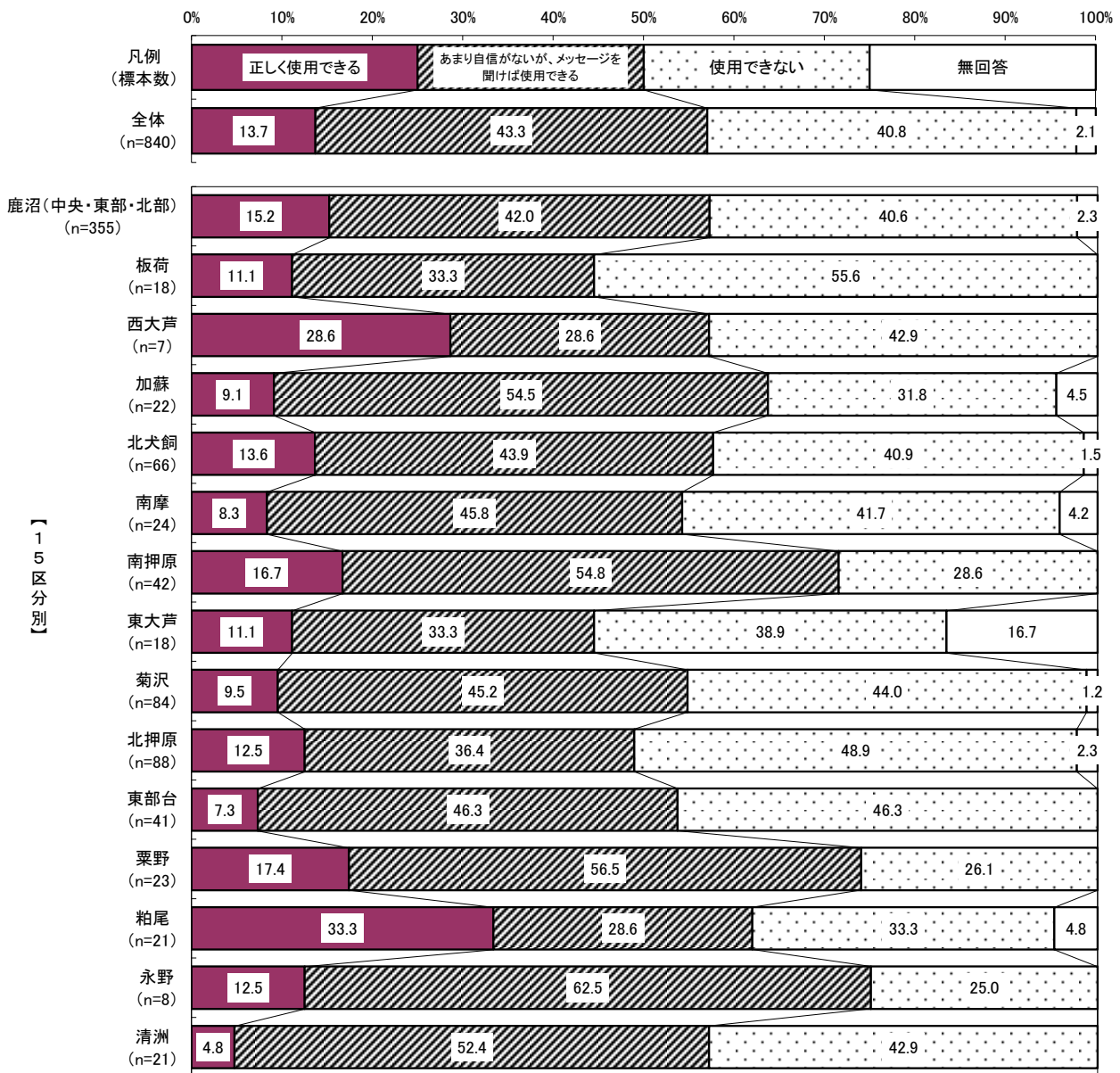
構成比



第3章 調査結果の分析

問 26 AEDを正しく使用できるか【居住地区別（15区分）】（SA）

構成比



【15区分別】

問 26 AEDを正しく使用できるか

◎「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」が最も高く4割超だが、「使用できない」も4割超。

【全体】

AEDを正しく使用できるかについて全体で見ると、「正しく使用できる」は13.7%、「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」が43.3%と最も高い。「正しく使用できる」と「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」を合わせた『使用できる』は57.0%と5割を超えている。「使用できない」は40.8%と4割を超えている。

【性別】

性別で見ると、男性の「正しく使用できる」「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」の『使用できる』は男性が60.3%で、女性の54.5%を5.8ポイント上回っている。一方、女性は「使用できない」が43.2%で高く、男性の37.8%を5.4ポイント上回っている。

【年代別】

年代別で見ると、「正しく使用できる」では、30代が23.8%で次に20代の22.7%となっている。「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」では、40代が最も高く、いずれの年代も5割前後となっている。『使用できる』は、30代で73.0%と最も高く、次いで40代で72.4%、20代で70.7%と、これらの年代で7割を超えている。一方、「使用できない」では、60代および70歳以上で最も高く、70歳以上で60.0%、60代で51.7%となっている。

【職業別】

職業別で見ると、「正しく使用できる」では、専門職および学生が37.5%、事務・技術職で30.4%と続き、これらの職業で3割を超えている。『使用できる』も学生で100%と突出して高く、事務・技術職も82.0%と他の職業に比べて高くなっている。「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」は事務・技術職、農林水産従業者、学生が5割を超えており、無職、その他では「使用できない」が5割を超えている。

『使用できる』の回答が、学生が多い理由として、市内中学校2年生が、保健体育の授業の一環で心肺蘇生法の講習会を実施している学校があるためと考える。

【居住区分別（15区分）】

居住区分別（15区分）で見ると、「正しく使用できる」では粕尾が高く、「あまり自信がないが、メッセージを聞けば使用できる」では、鹿沼、加蘇、北犬飼、南摩、南押原、菊沢、栗野、清洲が高く、割合では栗野が56.5%で最も高くなっている。『使用できる』は、栗野で73.9%と最も高く、板荷および東大芦で44.4%と最も低くなっている。一方、「使用できない」では、板荷、菊沢、北押原、東部台、清洲が高く、割合では板荷が55.6%と最も高くなっている。

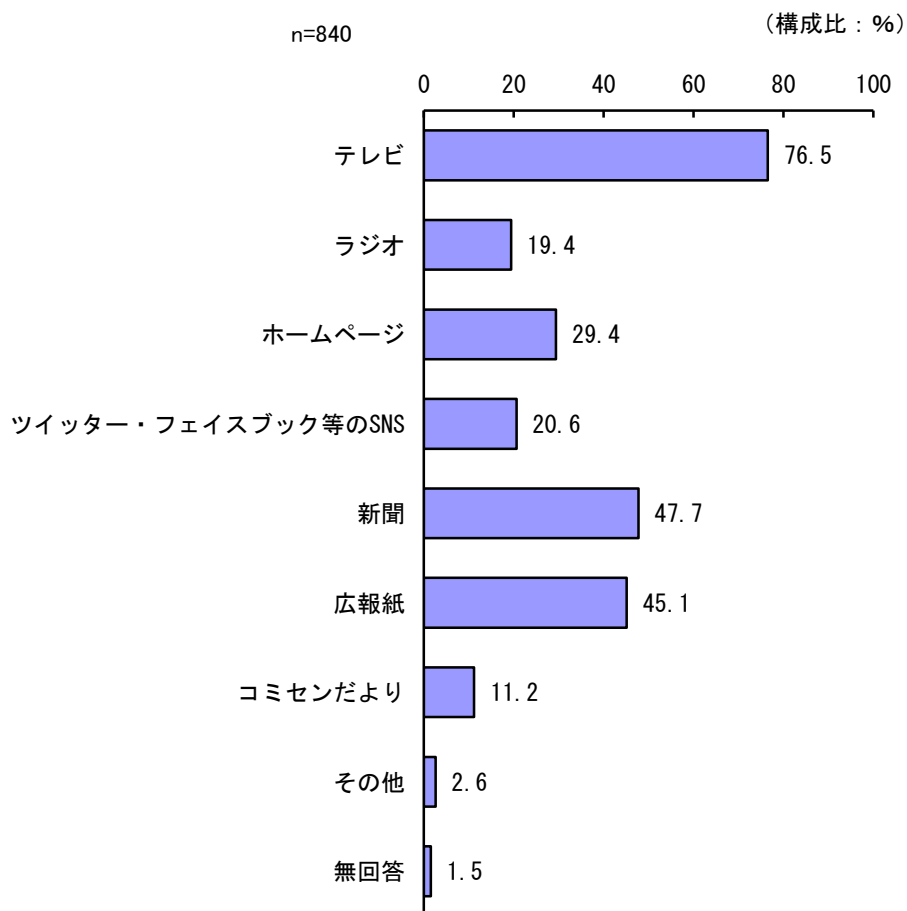
11

広報活動

(1) 情報入手先

問 27 暮らしや趣味等さまざまな情報を、主にどんなメディア（情報媒体）から入手していますか。次の中からいくつでも選んでください。

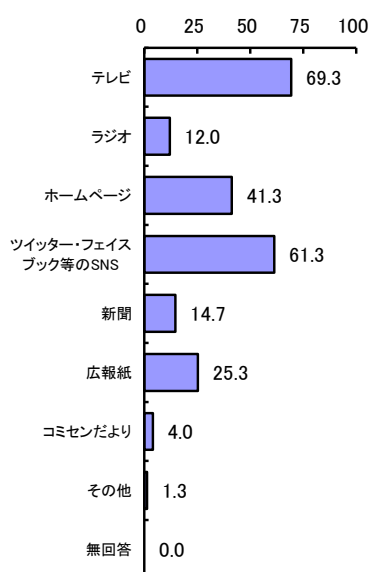
問 27 情報入手先【全体】（MA）



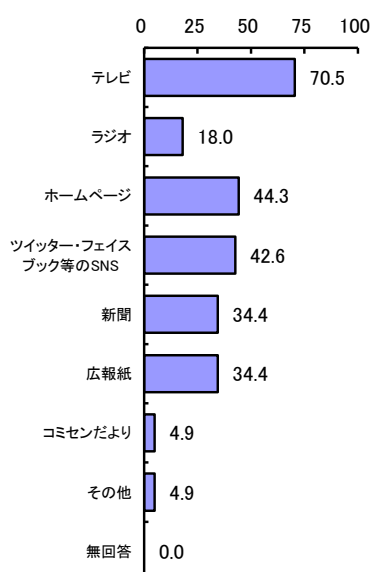
問 27 情報入手先【年代別】(MA)

(構成比：%)

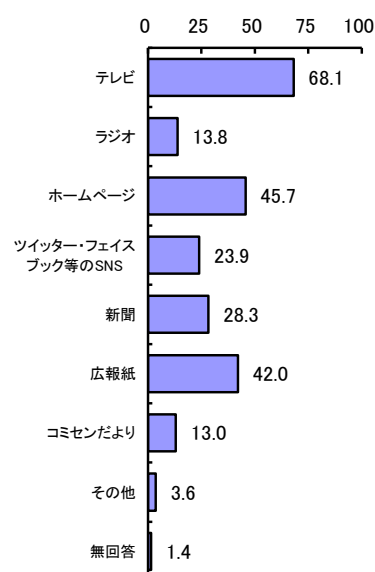
20代(n=75)



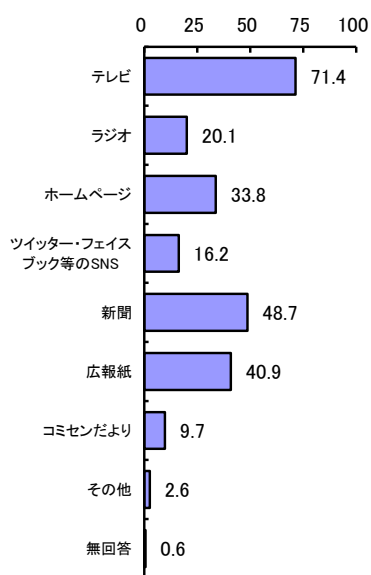
30代(n=122)



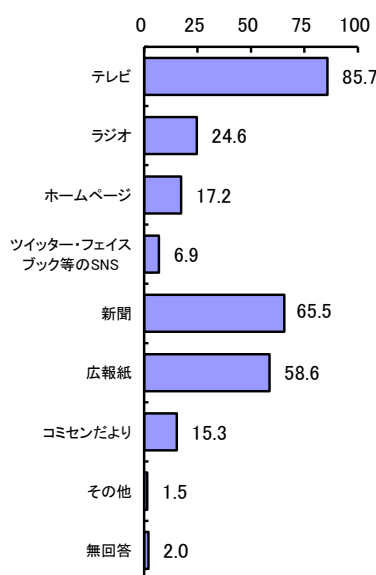
40代(n=138)



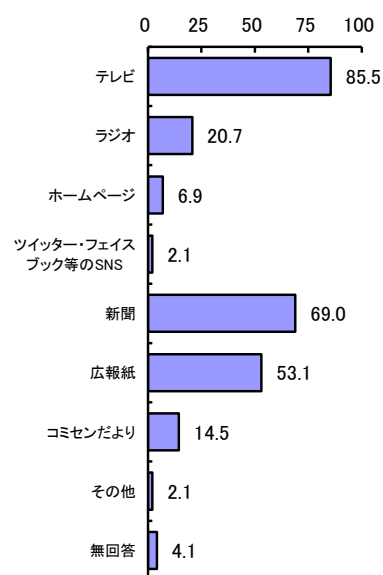
50代(n=154)



60代(n=203)



70歳以上(n=145)



問 27 情報入手先

◎「テレビ」は7割超。年代が高いほど紙媒体による情報入手の割合が高く、年代が低いほどインターネットの割合が高くなる傾向にある。

【全体】

暮らしや趣味等さまざまな情報を、主にどんなメディア（情報媒体）から入手しているかについて全体で見ると、「テレビ」が76.5%と7割超で最も高く、次いで「新聞」が47.7%、「広報紙」が45.1%、「ホームページ」が29.4%と続いている。

「その他」の具体的な回答は、「友人」との回答が比較的多く寄せられた。

【年代別】

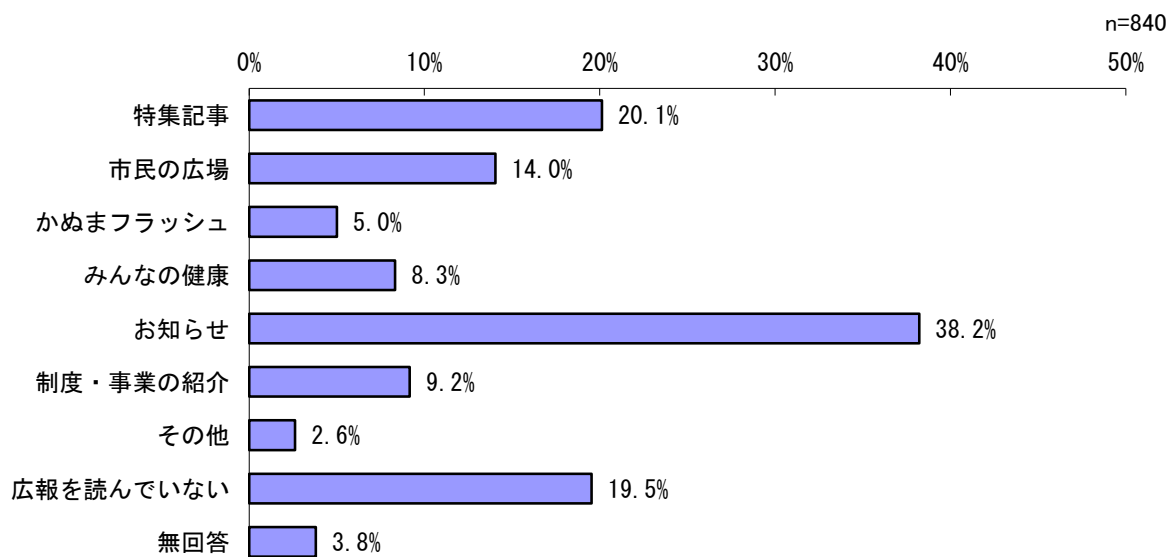
年代別で見ると、いずれの年代も「テレビ」が最も高く、特に60代と70歳以上で8割を超えている。概ね年代が高いほど、「新聞」「広報紙」「コミセンだより」の紙媒体による情報入手の割合が高く、概ね年代が低いほど「ホームページ」「ツイッター・フェイスブック等のSNS」のインターネットによる情報入手の割合が高くなる傾向にある。

(2) 広報かぬまでよく読む記事

問 28 「広報かぬま」のどんな記事をよく読みますか。次の中から1つ選んでください。

※2つ以上を選んだ回答者多数のため、回答された選択肢を全て集計。

問 28 広報かぬまでよく読む記事【全体】(MA)



問 28 広報かぬまでよく読む記事【性別・年代別】(MA)

(構成比: %)

		特集記事	市民の広場	かぬまフラッシュ	みんなの健康	お知らせ	制度・事業の紹介	その他	広報を読んでいない	無回答
	全体 (n=840)	20.1	14.0	5.0	8.3	38.2	9.2	2.6	19.5	3.8
性別	男性 (n=365)	20.8	14.5	4.7	4.9	32.6	9.9	2.7	21.9	3.6
	女性 (n=472)	19.5	13.6	5.3	11.0	42.4	8.3	2.5	17.8	4.0
年代	20代 (n=75)	24.0	10.7	4.0	4.0	13.3	6.7	4.0	49.3	0.0
	30代 (n=122)	18.9	13.9	4.1	3.3	25.4	6.6	1.6	41.8	4.1
	40代 (n=138)	20.3	12.3	5.1	3.6	37.7	4.3	2.2	26.1	2.9
	50代 (n=154)	18.2	8.4	3.2	5.8	50.6	11.7	1.3	15.6	1.3
	60代 (n=203)	21.2	16.7	6.9	13.3	47.8	11.8	2.0	5.4	4.9
	70歳以上 (n=145)	19.3	20.0	4.8	15.2	36.6	11.0	4.8	3.4	7.6

第3章 調査結果の分析

問 28 広報かぬまでよく読む記事

◎「お知らせ」が4割近く。「広報を読んでいない」は約2割。

【全体】

広報かぬまでよく読む記事について全体で見ると、「お知らせ」が38.2%で最も高く、4割近くとなっている。次いで「特集記事」が20.1%、「市民の広場」が14.0%と続いている。「広報を読んでいない」は19.5%と約2割となっている。

【性別】

性別で見ると、男女ともに「お知らせ」が最も高く、女性が42.4%と男性の32.6%を9.8ポイント上回っている。「みんなの健康」も女性が11.0%と男性の4.9%を6.1ポイント上回っている。一方、「広報を読んでいない」は男性が21.9%、女性が17.8%となっている。

【年代別】

年代別で見ると、「広報を読んでいない」が20代では49.3%、30代では41.8%と高くなっており、40代でも2割を超えている。読まれた記事の中では、20代は「特集記事」が24.0%で最も高く、それ以外の年代では「お知らせ」が最も高い。「みんなの健康」は60代および70歳以上で1割を超え、「制度・事業の紹介」は50代、60代および70歳以上で1割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

(2) 広報かぬまに掲載してほしいこと

問 29 「広報かぬま」に掲載してほしい話題や情報、特集として取り上げてほしいテーマがありましたら、次の欄に自由にお書きください。

広報かぬまに掲載してほしい話題や情報、特集として取り上げてほしいテーマとしての具体的な回答は、以下のものなどが寄せられている（順不同）。

- 市内の飲食店に関する情報（乳幼児可や車いす可の情報を含む）などのグルメ情報
- 教育に関する情報（市内の小中学校や保育園・幼稚園等の紹介・特色等、部活動や表彰などの紹介）
- 市の季節の花や紅葉、風景の見頃情報
- 市内企業の情報（企業そのものの情報や、製品・商品紹介）
- 市の有名人の話
- 市内のイベント情報
- 高齢者に関する情報（老人ホームの空き情報や、赤ちゃんコーナーのようにお年寄りのコーナーも）
- 子育てに関する情報（子育てに関するイベント情報や、親向けの「こんな時どうする？」コーナー）
- 健康に関する情報（流行した病気等の情報や、献血・ドナー登録に関する情報）

**第26回
市政に関する世論調査 調査報告書**

平成29年11月

編 集：鹿沼市総務部鹿沼営業戦略課広報広聴係
〒322-8601 栃木県鹿沼市今宮町1688-1
電話 0289-63-2128（直通）

調査委託：株式会社 東京商工リサーチ